

平成23年度 第1回血液事業部会 議事次第

日時:平成23年12月26日(月)10:00~12:00

場所:航空会館501+502会議室(5階)

(東京都港区新橋1丁目18番1号)

議題:

- 議題1-1 平成23年度献血推進調査会の審議結果について
- 議題1-2 平成24年度の献血の推進に関する計画(案)について
- 議題2-1 血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会について
- 議題2-2 平成23年度の原料血漿の追加配分について
- 議題2-3 平成24年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)について
- 議題3-1 平成23年度安全技術調査会の審議結果について
- 議題3-2 血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン(改訂案)について
- 議題4-1 平成23年度適正使用調査会の審議結果について
- 議題4-2 輸血療法の実施に関する指針(改訂案)について
- 議題4-3 血液製剤の使用指針(改訂案)について
- 議題 5 平成23年度運営委員会の審議結果について
- 議題 6 その他

配付資料:

委員名簿

議題1関連

- 資料 1-1 献血推進2014の達成状況
- 資料 1-2 採血基準の見直しに伴う影響
- 資料 1-3 若年層献血者(10代)の献血継続状況分析
- 資料 1-4 高校献血減少の要因分析
- 資料 1-5 医療機関における200ml赤血球製剤の需要と供給
- 資料 1-6 200ml赤血球製剤と400ml赤血球製剤とのリスク評価
- 資料 1-7 200ml全血採血のあり方
- 資料 1-8 平成23年度若年層献血意識調査結果
- 資料 1-9 平成24年度の献血の推進に関する計画(案)
- (参考資料1-1) 献血者数の推移(平成6年~平成22年度)

議題2関連:

- 資料 2-1 血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会(平成23年度の開催状況について)
- 資料 2-2 平成23年度の原料血漿の追加配分について
- 資料 2-3 平成24年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)
- 資料 2-4 平成24年度の原料血漿確保目標量(案)について
- 資料 2-5 平成24年度都道府県別原料血漿確保目標量(案)について
- 資料 2-6 平成22年度需給計画の実施状況(報告)
- 資料 2-7 平成23年度需給計画の上半期の実施状況(報告)
- (参考資料2-1) 需給計画の状況(平成22年度~平成24年度)
- (参考資料2-2) 平成24年度需要見込関連表
- (参考資料2-3) 血漿分画製剤の自給率の推移(供給量ベース)【実績】
- (参考資料2-4) 主な血漿分画製剤の自給率の推移(供給量ベース)
- (参考資料2-5) アルブミン製剤の供給量(遺伝子組換え型含む)と自給率
- (参考資料2-6) 免疫グロブリン製剤の供給量と自給率
- (参考資料2-7) 血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量(遺伝子組換え型含む)と国内血漿由来製剤の割合

議題3関連:

- 資料3-1 HBV感染既往の血液に対する更なる安全対策について
- 資料3-2 供血者への事後検査依頼の対象者について
- 資料3-3 血漿分画製剤のウイルスに対する安全性確保に関するガイドライン(平成11年8月30日付医薬発第1047号医薬安全局長通知)
- 資料3-4 Collaborative Study to Establish a World Health Organization International Standard for Hepatitis E Virus RNA for Nucleic Acid Amplification Technology(NAT)-Based Assays(平成23年10月17日~21日:ECBS)
- 資料3-5 血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン(改訂案)について

議題4関連:

- 資料4-1 2010年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査報告書
- 資料4-2 輸血療法の実施に関する指針(改訂案)について
- 資料4-3 血液製剤の使用指針(改訂案)について

議題5関連:

薬事・食品衛生審議会
血液事業部
会表
座席

平成23年12月26日
航空会館501+502会議室
午前10時から

- 資料5-1 血液製剤及び献血に関する感染症報告事項について
- 資料5-2 XMRVに関する報告について
- 資料5-3 日本赤十字社と田辺三菱製薬株式会社の血漿分画事業の統合に向けた進捗状況について
- 資料5-4 血小板製剤に対する感染性因子低減化(不活化)技術の導入準備の進捗状況について
- 資料5-5 フィブリノゲン製剤等に関する報告について

稲田委員
高部橋会委員長
審議官

速記

議題6関連:

- 資料6 研究開発等における血液製剤の使用に関する指針(パブリックコメント)

大石委員					血液対策課長	事務局
大戸委員					血液対策企画官	
大平委員					(日本赤十字社)	
岡田委員						
小幡委員						
花井委員						
半田委員					渡邊委員	
前野委員					吉澤委員	

山委 山口(照員)
山委 山口(員)
三村委員
三谷委員
幕内委員
牧野委員

(欠席委員3名)
朝倉委員 嶋委員
鈴木委員

傍聴席

血液事業部会 委員名簿

氏名	ふりがな	現職
朝倉 正博	あさくら まさひろ	医療法人社団博栄会理事長
稲田 英一	いなだ えいいち	順天堂大学医学部教授
○ 大石 了三	おおいし りょうぞう	国立大学法人九州大学医学部附属病院教授・薬剤部長
大戸 齊	おおと ひとし	福島県立医科大学輸血・移植免疫部教授
大平 勝美	おおひら かつみ	はばたき福祉事業団理事長
岡田 義昭	おかだ よしあき	国立感染症研究所血液・安全性研究部第一室長
小幡 純子	おばた じゆんこ	上智大学法科大学院長
嶋 緑 倫	しま みどり	奈良県立医科大学小児科教授
鈴木 邦彦	すずき くにひこ	社団法人日本医師会常任理事
◎ 高橋 孝喜	たかはし こうき	国立大学法人東京大学医学部附属病院輸血部教授・輸血部長
花井 十伍	はない じゅうご	ネットワーク医療と人権 理事
半田 誠	はんた まこと	慶應義塾大学医学部輸血・細胞療法部長
前野 一雄	まえの かずお	読売新聞編集委員
牧野 茂義	まきの しげよし	国家公務員共済組合連合会虎の門病院輸血部長
幕内 雅敏	まくうち まさとし	日本赤十字社医療センター長
三谷 絹子	みたに きぬこ	獨協医科大学血液内科教授
三村 優美子	みむら ゆみこ	青山学院大学経営学部教授
山口 一成	やまぐち かずなり	国立感染症研究所血液・安全性研究部 客員研究員
山口 照英	やまぐち てるひで	国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部研究員
吉澤 浩司	よしざわ ひろし	広島大学名誉教授
渡邊 治雄	わたなべ はるお	国立感染症研究所長

(計21名、氏名五十音順)

◎部会長 ○部会長代理

平成 23 年度血液事業部会献血推進調査会

開催日

第1回 9月16日(金)

第2回 11月22日(火)

主な議題

1. 献血推進 2014 の進捗状況について
2. 200ml 全血採血のあり方について
3. 平成 24 年度献血推進計画案の策定について

資料

1. 献血推進 2014 の達成状況
2. 採血基準の見直しに伴う影響
3. 若年層献血者(10代)の献血継続状況分析
4. 高校献血減少の要因分析
5. 医療機関における 200ml 赤血球製剤の需要と供給
6. 200ml 赤血球製剤と 400ml 赤血球製剤とのリスク評価
7. 200ml 全血採血のあり方
8. 平成 23 年度若年層献血意識調査結果
9. 平成 24 年度の献血の推進に関する計画(案)

献血推進に係る新たな中期目標について
～献血推進2014～

平成22年11月9日

1. 背景及び目的

病气やけがで血液を必要とする方が我が国には数多くおられるが、これらの血液は、国民の善意による無償の献血により支えられている。我が国の献血者は昭和60年度には延べ約876万人を数えたが、その後減少の一途をたどり、平成19年度には約496万人まで低下した。その後、平成17年度から5ヶ年の目標を立て実施した「献血構造改革」の取組み等により、平成21年度には約530万人まで回復したものの、10代の献血率は依然低下傾向が続いており、高齢化により血液の需要の増加が見込まれる将来の安定供給が危ぶまれる状況にある。

日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションでは、現在の献血率（献血可能人口の献血率5.9%）のまま少子高齢社会が進展すると、需要がピークを迎える平成39年（2027年）には、献血者約101万人分の血液が不足することが示された。

こうした状況を踏まえ、将来に亘り血液の安定供給を行える体制を確保するため、平成26年（2014年）度までの達成目標を以下の通り設定し、献血の推進を一層強力に実施することとする。[献血推進2014]

2. 平成26年（2014年）度までの達成目標

項目	目標	H21年度
若年層の献血者数の増加	10代（注1）の献血率を6.4%まで増加させる。	6.0%
	20代の献血率を8.4%まで増加させる。	7.8%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を50,000社まで増加させる。	43,193社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間120万人まで増加させる。	984,766人

（注1）10代とは献血可能年齢である16～19歳を指す。

3. 重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下に掲げる事項に重点的に取り組む。

① 献血の意義を明確に理解していただく。

献血の意義や、献血血液の医療現場での使用状況について、国民が広く理解しているとは言い難い状況にあり、また、その理解を進めることが、献血意識を高めることにつながるが示されている。献血推進にあたっては、献血の意義を国民に十分理解していただくことに努めるとともに、受血者の顔が見える取組みを一層強化する。

② 安定供給につながる若年層への対策に力を入れる。

10代、20代の献血者は、今後長期にわたり我が国の輸血医療を支える重要な世代である。

i) 10代への働きかけ

10代は、多くの献血者が人生で初めて献血を経験する世代である。平成23年4月1日の採血基準の改定及び平成21年7月改訂高等学校学習指導要領解説保健体育編における「献血」に関する記載を踏まえ、10代の方々に献血の意義をよく理解していただき、初めての献血を安心して行っていただける環境の整備を一層図る。さらに、200ml献血のあり方について、医療機関における使用実態等を踏まえ、検討を進める。

ii) 20代への働きかけ

20代には、献血を経験したことがある方が多くいるが、その後リピータードナーにならず、献血行動からドロップアウトする方が多い世代である。献血を体験した方が、献血の意義を深く理解され、長期にわたりリピータードナーになっていただける取組みを強化する。

これらの取組みの実施にあたっては、若年層献血者が多い諸外国での取組みも参考にしつつ、行うものとする。

③ 献血することにより心の充足感が得られる環境を整える。

献血は相互扶助の精神に基づく尊い行為であり、献血者一人一人の心の充足感が、活動の大きな柱となっている。そのため、献血に協力いただけた方々が、心の充足感をより得られ、安心快適に献血を行っていただける環境を一層整える。

平成26年(2014年)度までの達成目標の進捗状況

項目	目標	H21年度	H22年度
若年層の献血者数の増加	10代(注1)の献血率を6.4%まで増加させる。	6.0%	6.1%
	20代の献血率を8.4%まで増加させる。	7.8%	7.9%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を50,000社まで増加させる。	43,193社	45,343社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間120万人まで増加させる。	984,766人	999,325人

(注1) 10代とは献血可能年齢である16~19歳を指す。

※献血率算出における人口データ

平成21年度：平成21年総務省統計局公表 人口推計

平成22年度：平成22年国勢調査(人口等基本集計)2011年10月26日公表

資料1-2

20110916
日本赤十字社血液事業本部

採血基準の見直しに伴う影響について

I. 採血基準の改正内容

「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行について」(平成 23 年 3 月 11 日付け薬食発 0311 第 1 号厚生労働省医薬食品局長通知)により、採血基準が以下のとおり改正された(施行時期 平成 23 年 4 月 1 日)。

1. 健康診断の方法の見直し
 - ・健康診断の方法から血液比重検査を削る。
2. 全血採血基準の見直し
 - (1) 共通
 - ・血液比重に係る部分を削る。
 - (2) 200mL 全血採血
 - ・男性に限り、献血可能な者の血色素量の下限値を「12g/dL」から「12.5g/dL」に引き上げる。
 - (3) 400mL 全血採血
 - ・男性に限り、献血可能な者の年齢の下限を「18 歳」から「17 歳」に引き下げる。
 - ・男性に限り、献血可能な者の血色素量の下限値を「12.5g/dL」から「13g/dL」に引き上げる。
3. 血小板成分採血基準の見直し
 - ・男性に限り、献血可能な者の年齢の上限を「54 歳」から「69 歳」に引き上げる(65 歳から 69 歳までの者については、60 歳から 64 歳までの間に献血の経験がある者に限る。)

1

II. 採血基準の改正に伴う献血状況

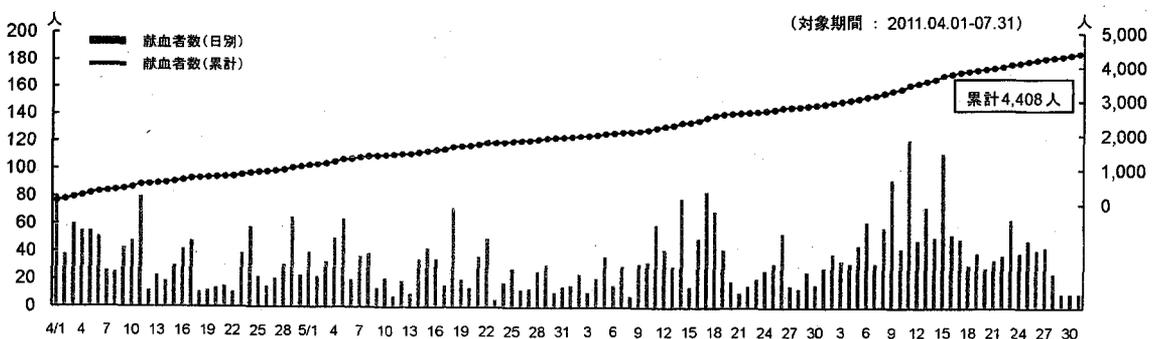
日本赤十字社では、平成 23 年 4 月 1 日から、改正された採血基準による献血受入を開始した。それに伴う献血の状況及び開始前後の広報展開について、以下のとおり概要を報告する。

なお献血状況の対象期間は、平成 23 年 4 月 1 日から平成 23 年 7 月 31 日までの 4 ヶ月間とした。

1. 400mL 献血者数(17 歳男性)の推移

対象となる献血者数は 4,408 人であった。また、17 歳男性全血献血者の合計は 6,022 人であり、400mL 献血者数の構成比は 73.2%であった(グラフ 1)。今後、同様の協力状況が継続された場合、年間で約 13,000 人になるものと推定される。

(グラフ 1)



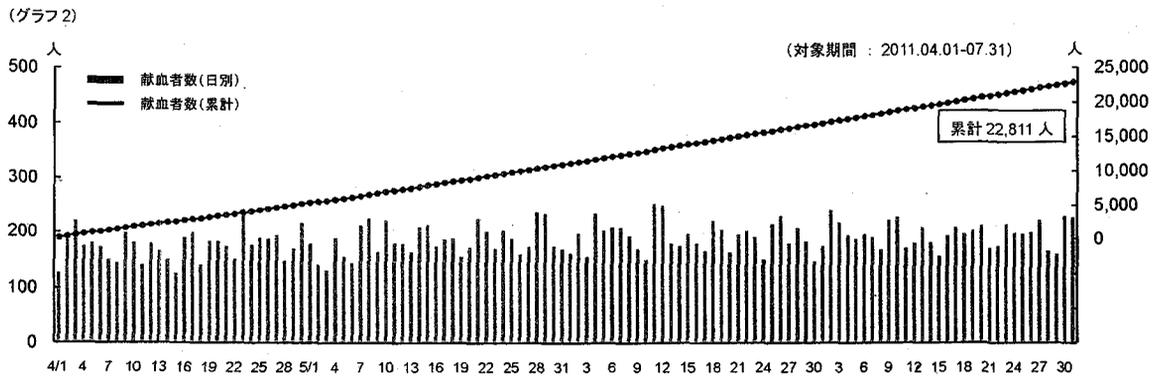
(単位:人)

	200mL 献血	構成比	400mL 献血	構成比	計	構成比
平成 22 年度	4,604	100.0%	—	—	4,604	100.0%
平成 23 年度	1,614	26.8%	4,408	73.2%	6,022	100.0%

*4-7 月(4 ヶ月間)の比較

2. 血小板成分献血者数(55-69歳の男性)の推移

対象となる献血者数は 22,811 人であった。血小板成分献血者(男性)の合計は 219,917 人であり、55-69 歳男性の血小板成分献血者数の構成比は 10.4%であった(グラフ2)。今後、同様の協力状況が継続された場合、年間で約 68,000 人になるものと推定される。



(単位:人)

	18-54 歳	構成比	55-69 歳	構成比	計	構成比
平成 22 年度	210,007	100.0%	—	—	210,007	100.0%
平成 23 年度	197,106	89.6%	22,811	10.4%	219,917	100.0%

*4-7月(2ヵ月間)の比較

3. 血色素量の下限値の引き上げにより献血できなかった方(男性)の推移

200mL 献血希望者 240 人については、血色素量の下限値の引き上げ(12.0g/dL → 12.5g/dL)により採血基準を満たしていないことから、献血ができなかった。

また、400mL 献血希望者 14,254 人については、血色素量の下限値の引き上げ(12.5g/dL → 13.0g/dL)により、12,922 人(献血希望者の 90.7%)が献血できなかった状況である一方で、200mL 献血、血小板成分献血及び血漿成分献血での協力者は 1,332 人であった(献血希望者の 9.3%)。

(単位:人)

血色素量 12.0-12.4	献血希望者	献血できなかった方	献血協力者
200mL 献血	240	240	—

*血色素量の下限値の引き上げにより 200mL 全血採血基準を満たさない群

(単位:人)

血色素量 12.5-12.9	献血希望者	献血できなかった方	400mL 献血以外での献血協力者			
			200mL 献血	血小板成分献血	血漿成分献血	計
400mL 献血	14,254	12,922	1,183	84	65	1,332

*血色素量の下限値の引き上げにより 400mL 全血採血基準を満たさない群

4. 広報展開

また、広報展開として、①テレビ CM の放映、②新聞 43 紙(全国紙 3 紙、各地域で購読率の高い地方紙 36 紙、スポーツ紙全国版 4 紙、計 3,700 万部)への掲載、③ラジオ番組での周知、④ポスターの作製(B2 判 5,000 部、B3 判 5,000 部)、掲出、及び⑤日本赤十字社 HP への関連情報の掲載並びに各献血会場でのデジタルサイネージ(映像配信機器)を用いた周知等を実施した(参考)。

(参考1)

I テレビCM放映(別添1参照)

1. 番組提供(全国放送)

放送局名	番組名	放送日	放送曜日	放送時間
日本テレビ	Going! Sports&News	平成23年3月5日, 13日, 19日, 27日	土, 日	23時55分-24時35分
TBS	激闘大家族SP 東京下町5つ子ちゃん成長期2011	平成23年3月8日	火	19時56分-21時48分
	世界進出バラエティー メイドインJAPAN	平成23年3月22日	火	19時00分-20時54分
	紳助社長のプロデュース大作戦SP	平成23年3月29日	火	19時00分-20時54分
フジテレビ	LIVE2010 すぽると!(土曜日)	平成23年3月5日, 19日	土	24時15分-25時05分

*上記番組中に30秒のCMを1回又は2回放映したこと。

2. スポット放映

地区	放送局名				
北海道	札幌テレビ	北海道放送	北海道文化放送	北海道テレビ	-
東北	青森放送	青森テレビ	青森朝日放送	テレビ岩手	IBC岩手放送
	岩手めんこいテレビ	岩手朝日テレビ	岩手朝日テレビ	宮城テレビ	東北放送
	仙台放送	東日本放送	秋田放送	秋田テレビ	秋田朝日放送
	山形放送	テレビユー山形	さくらんぼテレビ	山形テレビ	福島中央テレビ
	テレビユー福島	福島テレビ	福島放送	-	-

地区	放送局名				
関東甲信越	日本テレビ	フジテレビジョン	テレビ新潟	新潟放送	新潟総合テレビ
	新潟テレビ21	山梨放送	テレビ山梨	-	-
東海北陸	北日本放送	チューリップテレビ	富山テレビ	テレビ金沢	北陸放送
	石川テレビ	北陸朝日放送	福井放送	福井テレビ	テレビ信州
	信越放送	長野放送	長野朝日放送	静岡第一テレビ	静岡放送
	テレビ静岡	静岡朝日テレビ	中京テレビ	中部日本放送	東海テレビ
	メ〜テレ	-	-	-	-
近畿	讀賣テレビ	関西テレビ	-	-	-
中四国	日本海テレビ	山陰放送	山陰中央テレビ	西日本放送	山陽放送
	岡山放送	瀬戸内海放送	広島テレビ	中国放送	テレビ新広島
	広島ホームテレビ	山口放送	テレビ山口	山口朝日放送	四国放送
	南海放送	あいテレビ	テレビ愛媛	愛媛朝日テレビ	高知放送
	テレビ高知	高知さんさんテレビ	-	-	-
九州沖縄	福岡放送	RKB毎日放送	テレビ西日本	九州朝日放送	サガテレビ
	長崎国際テレビ	長崎放送	テレビ長崎	長崎文化放送	熊本県民テレビ
	熊本放送	テレビ熊本	熊本朝日放送	テレビ大分	大分放送
	大分朝日放送	宮崎放送	テレビ宮崎	鹿児島読売テレビ	南日本放送
	鹿児島テレビ	鹿児島放送	琉球放送	沖縄テレビ	琉球朝日放送

*各放送局の空き時間帯に放映を依頼したこと(平成23年3月18日から31日までの間)。

II 新聞広告掲載(別添2参照)

1. 掲載紙

全国紙(読売新聞・朝日新聞・日本経済新聞)3紙・地方主要紙36紙・全国版スポーツ新聞(スポーツ報知・日刊スポーツ・スポニチ・サンケイスポーツ)4紙の合計43紙 合計約3,700万部

2. 掲載規格

全5段モノクロ

3. 掲載日

平成23年3月1日から31日までの間 各紙1回

III ラジオ番組での告知

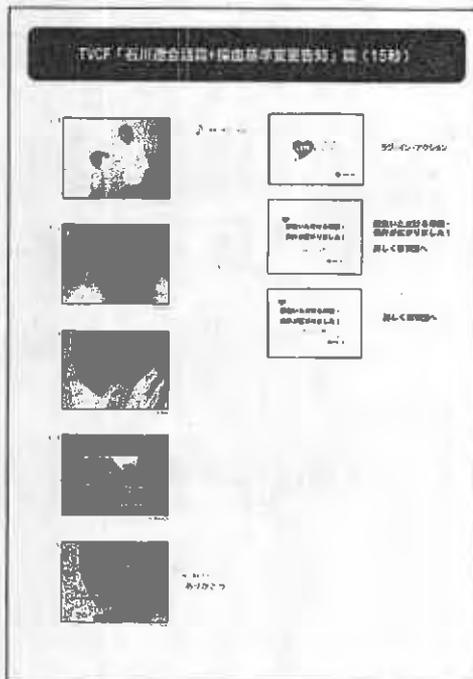
JFN38局ネットにより毎週月曜日から金曜日の午前6時30分から10分間放送している「LOVE in Action」において、逐次、採血基準の一部改正に係る情報を提供したこと。

IV ポスター製作及び配布等

採血基準の一部改正に係るポスター(別添3参照)を1万部(B2判5,000枚、B3判5,000枚)、A4判クリアファイル(別添4参照)を40万部(A4判)、各々製作して各血液センターに配布するとともに、各献血ルームに整備してあるデジタルサイネージ(映像配信機器)においてもポスター情報を掲出したこと。

また、献血推進団体等に配布することを目的に、当該採血基準の一部改正に係るリーフレット(別添5参照)を制作し、より詳細な情報の周知を図ったこと。さらに、献血Walker(一般国民向け献血推進小冊子)に関連記事を掲載したこと(別添6参照)。

別添1(テレビCM)



別添2(新聞広告)



(参考2)

1. 男性400mL献血年齢引き下げ(18歳→17歳)による影響

(平成23年4月～7月)

表1. 献血者数

献血者合計

	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
計	19,461	837,681	857,142	114,788	254,390	369,178	1,226,320

16～18歳

年齢	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
16	3,856		3,856	4,692		4,692	8,548
17	1,614	4,408	6,022	6,146		6,146	12,168
18	1,140	20,170	21,310	5,373	7,792	13,165	34,475
計	6,610	24,578	31,188	16,211	7,792	24,003	55,191

表2. VVR発生数

献血者合計

	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
計	225	5,666	5,891	775	3,017	3,792	9,683

16～18歳

年齢	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
16	39		39	54		54	93
17	16	88	104	62		62	166
18	29	529	558	89	297	386	944
計	84	617	701	205	297	502	1,203

表3. VVR発生率

献血者合計

	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
計	1.16%	0.68%	0.69%	0.68%	1.19%	1.03%	0.79%

16～18歳

年齢	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
16	1.01%		1.01%	1.15%		1.15%	1.09%
17	0.99%	2.00%	1.73%	1.01%		1.01%	1.36%
18	2.54%	2.62%	2.62%	1.66%	3.81%	2.93%	2.74%
計	1.27%	2.51%	2.25%	1.26%	3.81%	2.09%	2.18%

2. 男性血小板献血の年齢引き上げ(54歳→69歳)による影響

(平成23年4月～7月)

表1. 献血者数

献血者合計

	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
計	136,397	210,006	346,403	134,429	480,832

年齢	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
55	2,187	3,516	5,703	1,485	7,188
56	2,014	3,195	5,209	1,343	6,552
57	1,991	2,557	4,548	1,370	5,918
58	1,931	2,233	4,164	1,271	5,435
59	1,663	1,846	3,509	1,123	4,632
60	1,763	1,829	3,592	1,063	4,655
61	1,889	1,752	3,641	1,144	4,785
62	1,888	1,515	3,403	1,056	4,459
63	1,733	1,367	3,100	943	4,043
64	1,283	837	2,120	746	2,866
65	694	489	1,183	429	1,612
66	896	496	1,392	401	1,793
67	1,078	458	1,536	491	2,027
68	1,169	377	1,546	487	2,033
69	1,258	344	1,602	501	2,103
計	23,437	22,811	46,248	13,853	60,101

表2. VVR発生数

献血者合計

	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
計	303	739	1,042	1,484	2,526

年齢	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
55	5	7	12	10	22
56	4	12	16	13	29
57	4	13	17	12	29
58	2	11	13	12	25
59	2	3	5	15	20
60	1	1	2	12	14
61	3	3	6	10	16
62	6	4	10	11	21
63	3	6	9	12	21
64	1	2	3	8	11
65	1	2	3	2	5
66	1	0	1	5	6
67	1	2	3	0	3
68	1	1	2	5	7
69	1	1	2	6	8
総計	36	68	104	133	237

表3. VVR発生率

献血者合計

	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
計	0.22%	0.35%	0.30%	1.10%	0.53%

年齢	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
55	0.23%	0.20%	0.21%	0.67%	0.31%
56	0.20%	0.38%	0.31%	0.97%	0.44%
57	0.20%	0.51%	0.37%	0.88%	0.49%
58	0.10%	0.49%	0.31%	0.94%	0.46%
59	0.12%	0.16%	0.14%	1.34%	0.43%
60	0.06%	0.05%	0.06%	1.13%	0.30%
61	0.16%	0.17%	0.16%	0.87%	0.33%
62	0.32%	0.26%	0.29%	1.04%	0.47%
63	0.17%	0.44%	0.29%	1.27%	0.52%
64	0.08%	0.24%	0.14%	1.07%	0.38%
65	0.14%	0.41%	0.25%	0.47%	0.31%
66	0.11%	0.00%	0.07%	1.25%	0.33%
67	0.09%	0.44%	0.20%	0.00%	0.15%
68	0.09%	0.27%	0.13%	1.03%	0.34%
69	0.08%	0.29%	0.12%	1.20%	0.38%
計	0.15%	0.30%	0.22%	0.96%	0.39%

若年層献血者(10代)の献血継続状況分析について

20110916

日本赤十字社血液事業本部

1. 方法

(1)対象献血者およびデータ件数

初回献血年齢	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	計
男性	32,512	28,192	40,654	26,855	18,564	14,103	13,319	174,199
女性	39,581	31,080	33,909	24,305	16,080	11,715	9,421	166,091

*平成12年度に初回献血を経験している献血者群

(2)フォローアップ期間

・10年(各年ごとに献血経験のない群を差し引く)

2. 結果

(1)初回献血の年齢・性別で見ると、18歳男性が最も多く、16歳女性、18歳女性と続く。

その後の10年間では16歳で始めて献血した女性の群が毎年度最も多い。(参考1および2)

(2)10代で献血経験のある群について、2年目の献血再来率は男性33.3%、女性39.5%。

一方、20代になってから初めて献血を経験した群では、男性23.9%、女性26.6%となっている。

各年齢の3年目以降については、その格差が経年的に見られなくなってきている。(参考3および4)

(3)10代の中でも、特に16歳の献血者群における2年目の再来率をみると、男性43.6%、女性49.6%、17歳の同じ群については男性33.2%、女性

38.4%となっており、他の年齢に比較して優位に献血への意識が高い結果となった。(参考3および4)

(4) 男女別の状況を見ると、各年齢において女性の再来率が高くなっており、特に上記(3)で述べたように、16歳女性の献血者群では2年目の再来率が49.6%、17歳の同じ群では38.4%となっており、継続的な献血協力が繋がっている結果となった。(参考3および4)

3. 結論

- (1) 上記2より、10代で初回献血経験のある群の2年目以降の再来率が優位に高いことから、高校生の時(学校献血含む)に献血経験することが、その後の継続的な献血に繋がっているものと考えられる。
- (2) また、10代の男女別では、明らかに女性の2年目以降の再来率が高いにもかかわらず、10年間の長期的傾向を見ると、優位な格差が見られなくなってくることから、200mL献血しかできない女性群が400mL献血推進の中で、献血抑制されてきた可能性も否定できないものと思われる。
- (3) 上記より、10代(高校生)での献血に触れる機会(献血を含む)やきかけを与えることが、その後の献血行動に有効に繋がるものと考ええる。

(参考1)

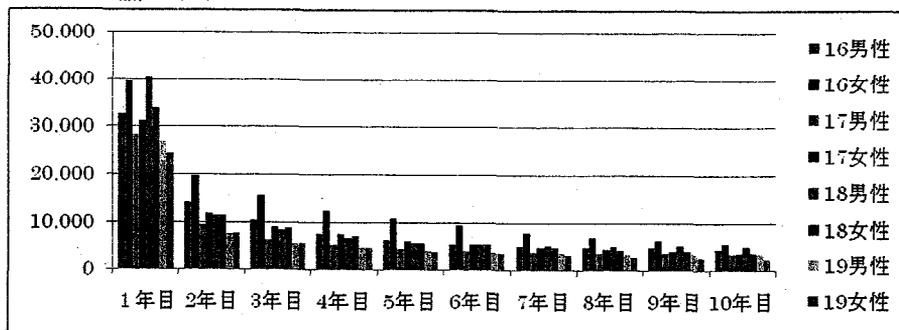
○平成12年度に初めて献血協力をした群のその後10年間の献血協力状況(実献血者数)

(人)

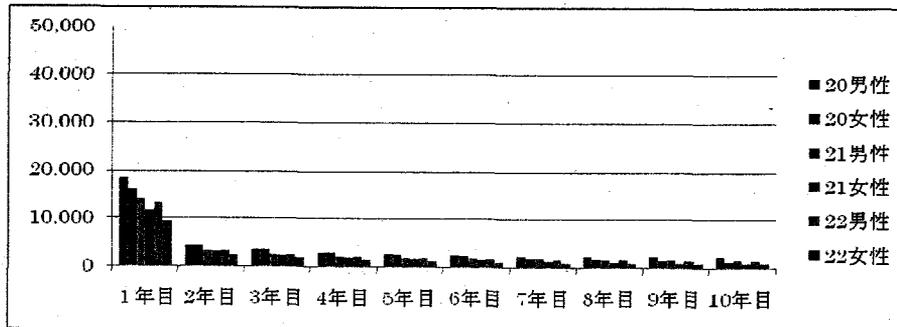
初回献血年齢	性別	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
16歳	男性	32,512	14,189	10,432	7,637	6,449	5,618	4,962	4,781	4,658	4,420
	女性	39,581	19,637	15,573	12,449	10,808	9,389	7,905	6,940	6,406	5,841
17歳	男性	28,192	9,354	6,301	5,134	4,358	3,982	3,711	3,521	3,459	3,340
	女性	31,080	11,935	9,028	7,584	6,256	5,551	4,658	4,251	3,976	3,574
18歳	男性	40,654	11,472	8,316	6,718	5,728	5,384	5,166	4,927	5,059	4,893
	女性	33,909	11,495	8,853	7,105	5,789	5,275	4,644	4,155	3,844	3,439
19歳	男性	26,855	7,687	5,343	4,453	3,893	3,647	3,457	3,306	3,376	3,316
	女性	24,305	7,898	5,686	4,518	3,747	3,472	2,992	2,698	2,476	2,213
20歳	男性	18,564	4,480	3,505	3,001	2,653	2,516	2,433	2,343	2,306	2,298
	女性	16,080	4,413	3,432	2,875	2,516	2,281	1,969	1,738	1,592	1,434
21歳	男性	14,103	3,233	2,609	2,260	2,027	2,026	1,896	1,785	1,796	1,720
	女性	11,715	3,052	2,396	2,038	1,808	1,606	1,322	1,203	1,123	1,022
22歳	男性	13,319	3,260	2,566	2,242	2,034	1,869	1,763	1,707	1,643	1,694
	女性	9,421	2,439	1,894	1,574	1,329	1,261	1,004	886	865	776

(参考2)

10代(16~19歳) (人)



20代(20~22歳) (人)



(参考3)

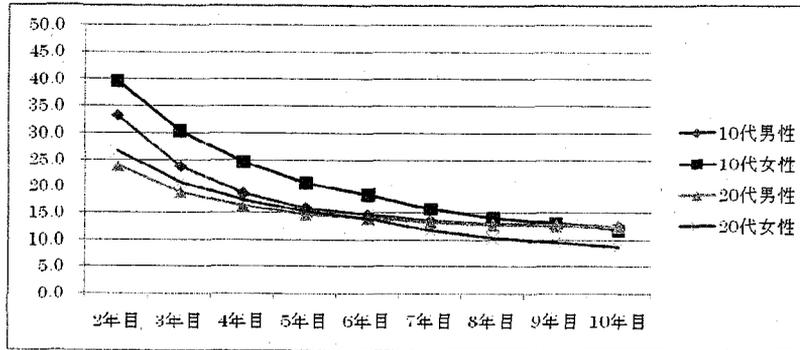
○平成12年度に初めて献血協力をした群のその後10年間の献血協力状況(実献血者数に対する再来率)

(%)

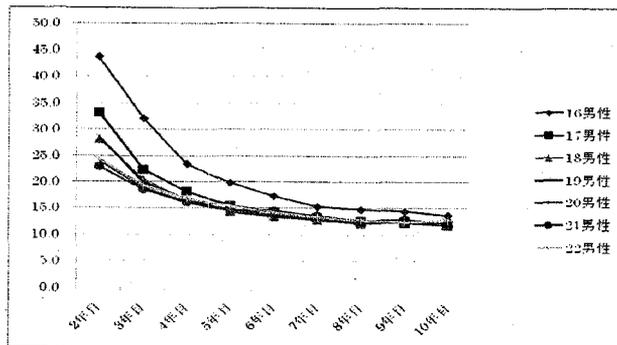
初回献血年齢	性別	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
16歳	男性	100.0	43.6	32.1	23.5	19.8	17.3	15.3	14.7	14.3	13.6
	女性	100.0	49.6	39.3	31.5	27.3	23.7	20.0	17.5	16.2	14.8
17歳	男性	100.0	33.2	22.4	18.2	15.5	14.1	13.2	12.5	12.3	11.8
	女性	100.0	38.4	29.0	24.4	20.1	17.9	15.0	13.7	12.8	11.5
18歳	男性	100.0	28.2	20.5	16.5	14.1	13.2	12.7	12.1	12.4	12.0
	女性	100.0	33.9	26.1	21.0	17.1	15.6	13.7	12.3	11.3	10.1
19歳	男性	100.0	28.6	19.9	16.6	14.5	13.6	12.9	12.3	12.6	12.3
	女性	100.0	32.5	23.4	18.6	15.4	14.3	12.3	11.1	10.2	9.1
20歳	男性	100.0	24.1	18.9	16.2	14.3	13.6	13.1	12.6	12.4	12.4
	女性	100.0	27.4	21.3	17.9	15.6	14.2	12.2	10.8	9.9	8.9
21歳	男性	100.0	22.9	18.5	16.0	14.4	14.4	13.4	12.7	12.7	12.2
	女性	100.0	26.1	20.5	17.4	15.4	13.7	11.3	10.3	9.6	8.7
22歳	男性	100.0	24.5	19.3	16.8	15.3	14.0	13.2	12.8	12.3	12.7
	女性	100.0	25.9	20.1	16.7	14.1	13.4	10.7	9.4	9.2	8.2
10代(16~19歳)	男性	100.0	33.3	23.7	18.7	15.9	14.5	13.5	12.9	12.9	12.5
	女性	100.0	39.5	30.4	24.6	20.6	18.4	15.7	14.0	13.0	11.7
20代(20~22歳)	男性	100.0	23.9	18.9	16.3	14.6	13.9	13.2	12.7	12.5	12.4
	女性	100.0	26.6	20.7	17.4	15.2	13.8	11.5	10.3	9.6	8.7

(参考4)

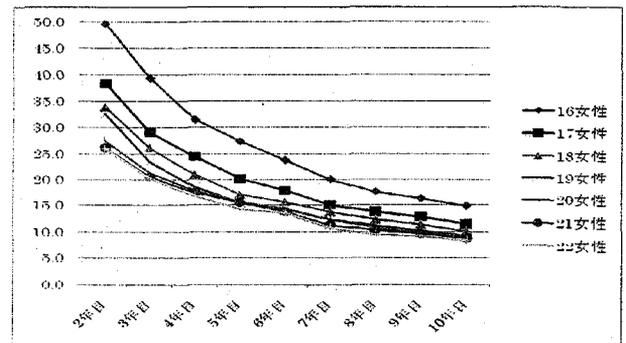
年代別・性別 (%)



男性 (%)



女性 (%)



資料1-4

20110916
日本赤十字社血液事業本部

高校献血減少の要因分析

1. 高校での集団献血実施状況の変化(参考 1)

(1) 内部要因

- 400mL 献血由来製剤の需要増加に伴う高校献血の抑制
 - ・医療機関からの 400mL 献血由来製剤の需要増加に伴い、また血液在庫の有効期間を考慮した 200mL 献血の抑制。
 - ・200mL 献血の抑制が学校側に伝わり、以前に比べると担当教諭との連携が薄れてきている(情報の伝達不足)。
 - ・大学の方が 400mL 献血の協力が得られ、また献血バス 1 稼働当りの献血量が多いことから、高校献血を抑制している。
- 高校行事(文化祭等)における献血の実施体制
 - ・400mL 献血可能者を対象に実施しているため、一部の生徒しか対象にならず全校的な取り組みが行えないことから実施に至らない。
 - ・学校側や実行委員会等からの要望はあるものの、実際には生徒の献血協力時間が取れず、来場者(保護者等)主体の献血となり、協力者も十分に確保できないことから実施に至らない。
 - ・開催時期が複数校で同一日の場合(秋季、土・日曜日等)が少なく、献血を実施するうえで、一律の対応が困難な場合がある。
- 採血副作用発生による安全性確保への懸念
 - ・採血副作用が発生してから、献血を実施しなくなった高校もある。

(能動的な取組み)

・学校へ出向いての献血セミナーの展開	・当該セミナー実施後、集団献血の実施に結び付けていきたい。 ・授業のカリキュラム(奉仕、総合的な学習)の導入をきっかけにボランティア活動への積極的参加を促す。
・400mL 献血への理解	・学校側からの要請に基づき調整を行っているが、献血の実施については原則 400mL 献血への理解を頂いている。 ・400mL 献血の推進もあり、3 年生を対象に卒業献血を実施している。 ・本年 4 月の採血基準の一部改正(17 歳男性の 400mL 献血)を踏まえて、各高校へアプローチしている。
・安全性確保への配慮	・10 名/時間の献血申込受付という条件について、事前に経緯等を説明し、理解していただくよう推進した。下校時間の遅れや副作用等への対応を考慮していることから、学校側からは高評である(行政からの推進も要因)。
・行政との連携	・県の献血推進計画で“将来に向けた普及・啓蒙促進”のために高校献血を強く推奨しており、県・市町村・血液センターの 3 者で定期的に学校訪問している。

1

(2) 外部要因

- 学校側(養護教員等)の理解
 - ・学校方針の変更(人事異動・高校の統廃合等)により献血の受入れを拒否される場合がある。中でも養護教員の献血への理解が得られない場合が多い。
 *献血未実施校から献血実施校に異動した場合、献血の受入れに理解をいただけない場合が少なくない。
 *近年、ライオンズクラブの方々からも高校献血の推進に協力いただいているが、献血の安全性、特に 400mL 献血についての理解が得られにくいことから、献血の実施に至るケースは少ない。一方で、養護教員からの紹介により、これまで献血を実施していなかった高校(文化祭)での実施が可能となったケースもある。
- 授業のカリキュラム上等の問題
 - ・授業のカリキュラムが過密のために授業時間中の献血実施が困難である。また、献血の実施日や時間の制約があることから、学校との調整が難しくなっている(平日の限られた時間帯、土日・祝日、季節等々)。
 - ・週休 2 日制のため土曜日の授業が平日に移行しており、放課後の献血ができなくなった(以前は多数の高校で実施)。
- 採血副作用発生による安全性確保への懸念
 - ・VVR 発生時の安全性の確保や責任問題(保護者の同意)等により、献血協力が積極的にならなくなってきた。
 - ・養護教員や学校保護者会等から、成長期にある生徒からの採血は望ましくないとの意見があり、なかなか理解が得られない。
- 行政の考え方
 - ・行政側が高校生の献血に対して積極的ではなく、結果的に高校献血が減少してきている。
- その他
 - ・事前に献血希望者を募っているが、最近では生徒自身の献血への関心の薄れから、献血協力者の減少が目立つ。また、放課後に実施している学校においても、同様の傾向が見られる。

2. 高校での集団献血を推進することにより予想される課題(解決するための方策等)

(1) 内部的課題

■ 献血量確保上の問題

- ・医療機関からの 400mL 献血由来製剤の必要量への対応(200mL 献血由来製剤の需要と供給のバランス)。
 - *献血バス一稼働当りの献血量の減少。
 - *200mL 献血由来製剤の在庫量が医療機関からの需要量を超えた場合の期限切れ減損の懸念。
- ・本年 4 月より 17 歳男性の 400mL 献血が可能となったことも踏まえ、献血者の安全性と安全な輸血用血液の安定的な確保の必要性を丁寧に説明し、十分な理解を得るために、学校側との円滑な情報交換を行うことが重要である。
- ・集団献血実施だけの推進でなく、献血も含めた血液事業全体の情報を伝えていく事業を積極的に展開する必要がある(生徒だけでなく、特に若い教員へも理解を求める)。

■ 献血を実施するうえでの問題

- ・学校側の要望(献血実施の時期や時間等)に対する血液センター側の実施体制。

(2) 外部的課題

■ 学校側(養護教員等)の理解

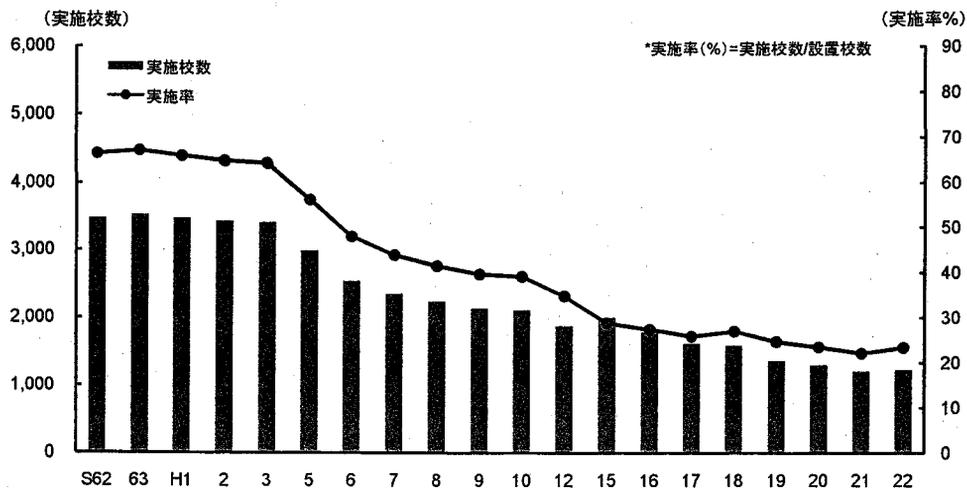
- ・国公立を含めた校長会や養護教員等の集う場所などで、献血の重要性を取り上げてもらう体制の構築。
- ・献血をはじめとしたボランティア教育の授業への導入等、生徒への献血の重要性を知る機会を設けるなどの教育方針が重要である。
- ・安心や安全を含めて、養護教員や保護者等の献血への理解が得られる環境作りが必要である(重篤な VVR 発生時の責任の所在等)。
 - *保護者の同意書がなければ献血へ参加できない高校が多い。
 - *高校献血の実施が強制化という意識(献血は自由意志)。

■ 行政の理解

- ・献血を実施していない学校関係者の理解を得るためには、献血推進を担う行政との円滑な連携を図りつつ、高校献血に積極的に関わってもらえる体制を構築する必要がある。
- ・厚生労働省から文部科学省への働きかけ、また文部科学省から各都道府県教育委員会への働きかけが必要である。

(参考 1)

高校献血の実施状況(年度別)



*昭和 60 年, 61 年度および平成 4 年, 11 年, 13 年, 14 年度は、厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため調査未実施

(参考2)

高校献血実施への主な取組み

(平成22年度)

No.	血液センター名	取組みの概要
1	茨城	・JRC(青少年赤十字)加盟校での事前広報を行った(1校44名増加)。 ・献血セミナー実施後、献血の実施(1校23名増加)。 ・渉外職員による学校への働きかけによる献血受付時間の見直し(半日から終日実施へ)を行った(1校56名増加)。
2	山梨	・これまで3年生を対象として実施してきた学校が、22年度より新たに2年生も対象としていただいた(4校250名増加)。
3	静岡	・21年度には400mL献血を推進したが、承諾いただけず14校の減。22年度に再度、学校担当者へ申し入れ、献血協力の理解が得られた。また、献血休止中の学校も再開し、合わせて前年度より12校増加の90校から協力を得る。
4	和歌山	・県の献血推進担当者やライオンズクラブからの働きかけにより、22年度にはこれまでの年間2回の献血実施校1校に加え、新規の献血実施校が2校、
5	愛媛	・若年層献血を推進するにあたり、渉外職員が各高校の校長先生や教職員(献血担当者)を訪問し、献血へのご理解とご協力を得ることができた(対前年度より14校増加)。
6	宮崎	・若年層献血推進も含めた広報活動の強化を行っている(CMやお天気予報フィラー)。 ・渉外職員が県内各地の高校(献血担当者)を訪問し、若年層の献血推進に対する理解と協力を求めた。 ・献血実施時には、学校側(クラス担任)より積極的な呼びかけを行っていただいた。 ・口蹄疫の発生により、献血への関心が高まり、各学校から献血に協力したい旨の依頼があり、実施した(3校増加)。

5

資料1-5

赤血球製剤における1単位・2単位の発注及び供給比率について

	1u発注		2u発注		(ア)発注時400mL率		需要に対する供給率		平成22年度供給本数			400mL率発注と供給の差	
	1u	納品	2u	納品	1u	2u	1u	2u	1u	2u	(イ)400mL率	(ア)-(イ)	
		2u		2u		2u							
北海道	998	982	8	6613	312	6457	86.9%	98.4%	97.6%	33,547	187,044	84.8%	2.1%
青森	155	155	0	1435	122	1374	90.3%	100.0%	95.7%	6,365	32,418	79.5%	10.8%
岩手	172	172	0	1,262	222	1,151	88.0%	100.0%	91.2%	9,078	27,970	75.5%	12.5%
宮城	316	312	2	1,913	220	1,803	85.8%	98.7%	94.2%	13,882	44,909	76.4%	9.4%
秋田	99	97	1	1,147	162	1,066	92.1%	98.0%	92.9%	8,373	24,731	74.7%	17.3%
山形	69	69	0	691	184	599	90.9%	100.0%	86.7%	6,269	24,523	79.6%	11.3%
福島	187	187	0	2,139	358	1,950	91.6%	94.9%	91.6%	15,338	52,151	77.3%	14.3%
宮城ブロック	1009	992	8	8587	1268	7953	85.5%	98.4%	92.0%	61,323	205,702	77.1%	12.4%
茨城	309	295	7	1,850	142	1,679	83.3%	95.5%	95.4%	17,149	56,748	76.8%	6.5%
栃木	277	266	3	1,245	29	1,221	81.8%	96.0%	98.1%	15,271	38,740	71.7%	10.1%
群馬	221	221	0	1,966	168	1,872	89.8%	100.0%	95.7%	12,666	46,705	78.7%	11.2%
埼玉	784	784	0	4,273	138	4,204	84.5%	100.0%	98.4%	43,252	124,928	74.3%	10.2%
千葉	214	214	0	2,488	0	2,488	92.1%	100.0%	100.0%	33,193	128,067	79.4%	12.7%
東京	942	941	1	11,232	326	11,069	92.3%	99.5%	98.5%	62,891	333,579	84.1%	8.1%
神奈川	185	185	0	6,587	66	6,554	97.3%	100.0%	99.5%	6,289	187,228	96.8%	0.5%
新潟	166	164	1	1,748	202	1,647	91.3%	98.8%	94.2%	10,087	48,538	83.1%	8.2%
山梨	34	34	0	1,69	2	1,88	83.3%	100.0%	99.4%	4,186	18,082	81.2%	6.1%
長野	106	104	1	1,709	28	1,685	94.2%	98.1%	99.2%	3,256	22,358	87.3%	6.9%
東京ブロック	3236	3208	13	33,357	1,101	32,797	91.2%	99.1%	98.3%	208,240	1,005,952	82.8%	8.3%
富山	96	94	1	762	24	750	88.8%	97.9%	98.4%	4,957	26,599	84.3%	4.5%
石川	86	86	0	944	110	889	91.7%	100.0%	94.2%	2,722	21,656	88.8%	2.8%
福井	23	23	0	726	58	697	96.9%	100.0%	96.0%	5,904	43,077	88.1%	9.8%
岐阜	53	53	0	842	8	838	93.0%	100.0%	99.1%	8,528	43,564	83.6%	8.4%
愛知	232	232	0	3,141	102	3,090	93.1%	100.0%	98.4%	8,167	80,586	90.2%	2.9%
愛知	866	866	0	6,217	144	6,145	87.8%	100.0%	98.8%	24,297	152,451	86.3%	1.5%
三重	11	11	0	1,134	0	1,134	99.9%	100.0%	100.0%	110	33,390	98.7%	0.2%
愛知ブロック	1367	1365	1	13,766	446	13,543	91.0%	99.9%	98.4%	55,185	401,322	87.9%	3.1%
滋賀	76	72	2	906	12	900	92.3%	94.7%	99.3%	3,505	27,882	88.8%	3.4%
京都	37	31	6	2,445	7	2,429	98.5%	83.8%	99.3%	1,447	72,454	98.0%	0.5%
大阪	390	386	2	8,604	12	8,598	95.7%	99.0%	99.8%	17,708	246,294	93.1%	2.4%
兵庫	164	164	0	3,238	4	3,234	95.2%	100.0%	99.9%	10,100	129,292	92.8%	2.4%
奈良	72	72	0	959	13	947	93.0%	100.0%	99.1%	4,137	33,955	89.1%	3.9%
和歌山	54	50	2	1,001	56	979	94.9%	92.6%	97.2%	4,776	28,936	85.8%	9.1%
大阪ブロック	793	775	12	17,148	109	17,011	95.6%	97.7%	99.6%	41,675	538,823	92.8%	2.8%
鳥取	8	8	0	55	0	55	87.3%	100.0%	100.0%	779	16,022	95.4%	-8.1%
島根	4	4	0	521	0	521	99.2%	100.0%	100.0%	86	14,115	99.4%	-0.2%
岡山	173	173	0	1,766	134	1,699	91.1%	100.0%	96.2%	8,519	51,763	85.9%	5.2%
広島	85	83	1	2,237	20	2,227	96.3%	97.6%	99.6%	4,223	71,907	94.5%	1.9%
山口	74	68	4	1,469	18	1,460	95.2%	91.9%	99.4%	2,082	41,352	95.2%	0.0%
徳島	8	8	0	815	0	815	99.0%	100.0%	100.0%	218	20,876	99.0%	0.1%
香川	9	9	0	1,094	6	1,091	99.2%	100.0%	99.7%	476	26,485	98.2%	0.3%
愛媛	17	17	0	1,388	0	1,388	98.8%	100.0%	100.0%	212	40,373	99.5%	0.1%
高知	69	66	1	758	128	694	91.7%	95.7%	91.6%	5,691	20,789	78.5%	13.1%
岡山ブロック	447	436	6	10,103	306	9,950	95.8%	97.5%	98.9%	22,286	303,683	93.2%	2.6%
福岡	53	48	4	4,489	0	4,489	98.8%	90.6%	100.0%	1,306	138,497	99.1%	-0.2%
佐賀	0	0	0	739	0	739	100.0%	-	100.0%	57	18,698	99.7%	0.3%
熊本	4	4	0	659	2	658	99.4%	100.0%	99.8%	1,731	40,079	95.8%	3.5%
大分	49	49	0	2,027	0	2,027	97.8%	100.0%	100.0%	852	53,811	98.4%	-0.8%
宮崎	49	49	0	1,162	0	1,162	96.0%	100.0%	100.0%	1,570	31,757	95.3%	0.7%
鹿児島	5	5	0	1,116	0	1,116	99.0%	100.0%	100.0%	560	21,000	99.8%	1.3%
鹿児島	52	48	3	2,136	8	2,132	97.6%	92.3%	99.8%	1,826	47,075	95.3%	1.4%
沖縄	29	14	11	576	0	576	85.8%	56.0%	100.0%	1,194	36,586	96.8%	-1.0%
福岡ブロック	237	217	18	12,924	10	12,919	98.2%	91.6%	100.0%	9,096	297,493	97.8%	0.4%
全国合計	8088	7975	66	102,498	3,552	100,700	82.7%	98.6%	98.2%	431,352	3,041,019	87.6%	5.1%

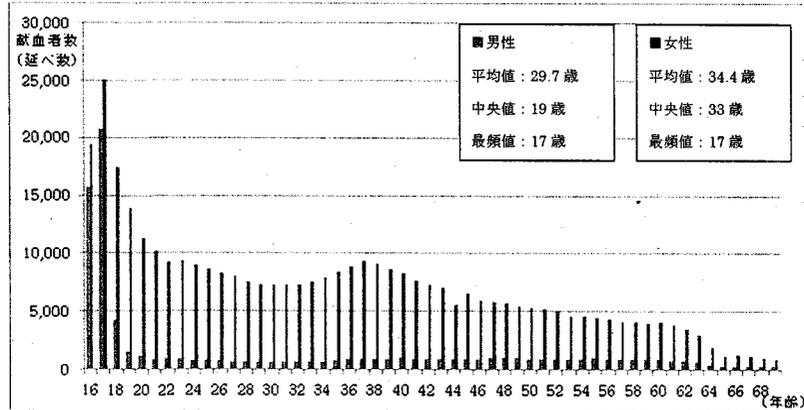
・発注数及び納品数については、平成23年8月10日から8月24日までの2週間における日中のデータで、夜間分は含まれていないこと。
 ・発注数及び納品数には、規格を指定しない合計単位数での発注分は含まれていないこと。
 ・(ア)の発注及び納品は含まれていないこと。
 ・1単位発注分における規格変更の注目については、①AB型の承認献血など、在庫が少なかった場合、1単位×2本の発注に対し、2単位×1本の発注した②採血日の新しい製剤で、未開封の在庫が無かったため、2単位で供給した③元々の発注が2単位変更可であった、などが挙げられる。
 ・院内在庫分とすることから採血日の新しい製剤を発注したが、在庫として保有していなかったため、その日はキャンセルするも、翌日改めて発注するケースなどもあり、発注数と納品数が合致しないケースがあること。
 ・1単位製剤の有効利用の観点から、2単位発注分の中には、1単位×2本の供給をお願いする場合があります。

平成 23 年 11 月 4 日
安全技術調査会提出資料
日本赤十字社血液事業本部

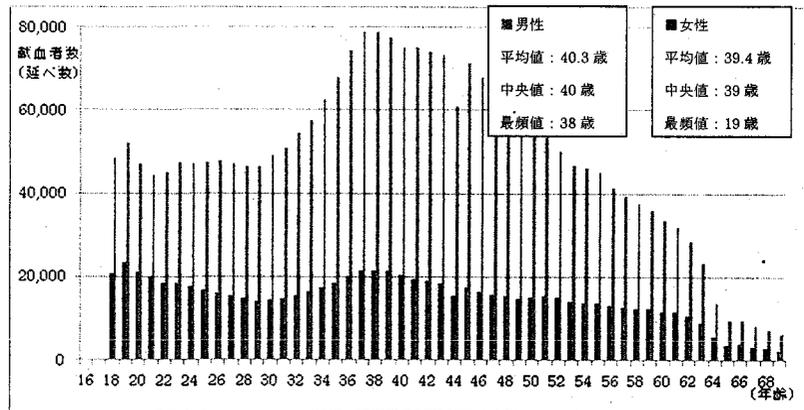
200mL 製剤と 400mL 製剤の安全性について

1. 200mL 献血および 400mL 献血における男女別の年齢分布 (平成 22 年度)

200mL 献血



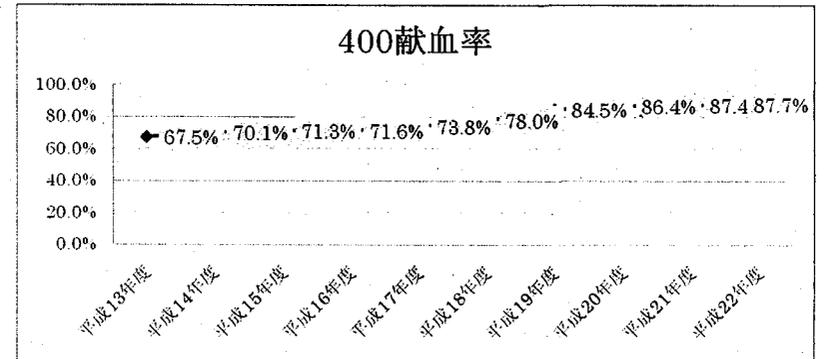
400mL



2. 200mL 献血および 400mL 献血における男女別の平均年齢

	献血者総数	比率	平均年齢	中央年齢	最頻年齢
200mL 男性	83,157	2.2 %	29.7	19	17
200mL 女性	379,780	10.1 %	34.4	33	17
200mL 計	462,937	12.3 %	33.6	31	17
400mL 男性	2,532,532	67.2 %	40.3	40	38
400mL 女性	772,287	20.5 %	39.4	39	19
400mL 計	3,304,819	87.7 %	40.1	40	38

3. 400mL 献血率の推移



400mL 献血率は医療機関からの発注に応じて増加させてきたが、発注の比率が約 93% (平成 23 年 8 月調査) とすると、未だ需要には応じられていない。

4. 初回献血者数の推移と献血総数に対する比率

年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
初回献血者数	613,241	557,871	554,175	547,846	545,880
比率 (%)	12.3 %	11.3 %	10.9 %	10.4 %	10.3 %

5. 感染症マーカーにおける年齢別の検査陽性率

調査期間：平成20年8月7日～平成23年7月(3年間)
【1000人当り】

1) 200mL 献血

	男性			女性			男女計		
	HBs 抗原	HBc 抗体	HCV 抗体	HBs 抗原	HBc 抗体	HCV 抗体	HBs 抗原	HBc 抗体	HCV 抗体
10歳代	1.080	0.280	0.404	0.749	0.210	0.534	0.867	0.235	0.488
20歳代	1.191	1.377	0.818	0.930	0.674	0.469	0.953	0.737	0.500
30歳代	1.523	2.704	0.495	1.064	1.266	0.603	1.107	1.402	0.593
40歳代	1.404	4.376	1.372	1.067	2.522	0.653	1.114	2.781	0.754
50歳代	1.958	8.258	1.273	1.452	5.965	0.951	1.546	6.387	1.010
60歳代	1.279	9.258	1.035	0.914	5.628	1.185	0.989	6.375	1.115
計	1.297	2.701	0.722	1.009	1.935	0.637	1.062	2.075	0.653

2) 400mL 献血

	男性			女性			男女計		
	HBs 抗原	HBc 抗体	HCV 抗体	HBs 抗原	HBc 抗体	HCV 抗体	HBs 抗原	HBc 抗体	HCV 抗体
10歳代	0.856	0.364	0.509	0.830	0.337	0.572	0.849	0.356	0.528
20歳代	0.966	0.735	0.484	0.891	0.658	0.567	0.946	0.715	0.506
30歳代	1.121	1.430	0.642	1.095	1.380	0.658	1.115	1.419	0.645
40歳代	1.042	2.580	0.879	1.224	2.986	0.907	1.078	2.660	0.884
50歳代	1.226	5.314	1.053	1.341	6.334	1.102	1.252	5.550	1.064
60歳代	1.008	6.082	0.925	0.922	5.965	1.152	0.984	6.050	0.987
計	1.071	2.544	0.761	1.091	2.751	0.805	1.076	2.592	0.771

- 献血種類別の平均年齢(200mL:33.6歳、400mL:40.1歳)あるいは中央年齢(200mL:31歳、400mL:40歳)における検査陽性率は、HBc抗体検査を除いて大きな差はない。
- 陽性血液は廃棄されるが、検査をすり抜けるリスクは、検査陽性率に比例すると仮定すると、200mL及び400mLの感染リスクには大きな差はない。
- 少なくとも2倍の差はないので、400mL製剤1本と同量の200mL製剤2本を比較すると、200mL製剤2本の方がリスクは高くなる。

3

6. 初回献血者の検査陽性率

【1000人当り】

	HBs 抗原	HBc 抗体	HCV 抗体
200mL 献血	1.53	3.11	1.01
400mL 献血	2.87	6.40	2.10

- 初回献血者の感染率は、献血で選別されていない状況であり、日本人の真の感染率と考えられるが、献血者全体に比して、初回献血者の陽性率は高い。
- 陽性率を比較した場合、200mLは400mLの約1/2である。
- 初回献血者の比率は約10%であり、これが200mLと400mL由来血液全体の安全性の比較に大きな影響は与えていない(前記5.「感染症マーカーにおける年齢別の検査陽性率」より)。

7. HBV ウィンドウ期の感染例から見たリスク比較

20プールのNAT以降に採血された輸血用血液製剤による感染例

	女性		女性計	男性		男性計	計
	400mL	成分	400mL+成分	400mL	成分	400mL+成分	
20歳代	1	0	1	3	2	5	6
30歳代	0	0	0	6	3	9	9
40歳代	0	0	0	3	7	10	10
50歳代	0	0	0	1	0	1	1
計	1	0	1	13	12	25	26

*200mL採血由来による感染例はない。

- 輸血後感染と考えられた血液の献血者の年齢は、20歳代から40歳代に集中している。
- 200mLの献血比率は、全血献血全体の約12%と低いこと、また感染例自体の数が少ないこともあり、200mL採血による感染例はない。
- 200mLと400mLの血液量による差も考慮の対象になるが、同じ感染血液由来の血漿製剤と赤血球製剤による感染に差はなく*)、赤血球製剤中の残存血漿量は、採血量の10%程度であり、200mLと400mLの差による影響はあっても小さいものと思われる。
- 感染例数が少なくHBVウィンドウ期の血液による感染例から、200mLと400mL由来製剤の感染リスクを評価することは難しい。
- なお、HBV感染既往による感染リスクは、今後の安全対策としてHBc抗体のスクリーニング基準をCOI \geq 1.0と設定した場合には、リスクは極めて少なくなると推察される。

*) Satake M, et al. Infectivity of blood components with low hepatitis B virus DNA levels identified in a lookback program. TRASFUSION 2007;47:1197-1205

8. 遡及調査で個別 NAT 陽性となった製剤の採血種別から見たリスク比較

年度	件数	赤血球製剤		血小板製剤	血漿製剤	計
		200mL	400mL			
2008	94	2	69	2	21	94
2009	144	21	80	8	30	139
2010	100	5	72	4	17	98
計	338	28 (11.3%)	221 (88.7%)	14	68	331

- ・ 遡及調査により個別 NAT 陽性となった血液は、輸血に使用される前であれば回収される。遡及調査前に輸血に使用されてしまう場合もあるのでリスクを比較した。
- ・ ウインドウ期と感染既往の全体で見ると、200mLと400mLでの遡及調査で個別 NAT 陽性となったのは28 (11.3%) : 221 (88.7%) であり、200mLと400mLの供給比率 (400mL比率: 87.7%) と同程度であることから、両者に個別 NAT 陽性となる比率で差はないと思われる。

9. 「呼吸困難」等の重篤な輸血副作用の発生状況から見たリスク比較

1) 輸血副作用件数 (2010年)

件数	200mL		400mL		血小板製剤等
	赤血球製剤	血漿製剤	赤血球製剤	血漿製剤	
679	22 (3.2%)		273 (40.2%)		384 (56.6%)
	19	3	210	63	

2) 200mLと400mL単独輸血製剤別の症例報告数とその頻度

	赤血球製剤 症例報告数	供給本数	症例報告頻度 (10,000本当り)	血漿製剤 症例報告数	供給本数	症例報告頻度 (10,000本当り)
200mL	19	427,517	0.44	3	61,956	0.48
400mL	210	3,006,858	0.70	63	733,722	0.86

- ・ 重篤な輸血副作用の報告件数から200mLと400mLで症例報告頻度を比較すると、200mLの方が低い傾向が見られた。
- ・ 輸血関連急性肺障害 (TRALI) 予防対策のために、400mL由来の血漿製剤は男性由来血漿を優先的に製造している。2011年8月の血漿製剤製造状況 (本数) では、200mLが男性比率14.6% (679/4,661) に対し、400mLの男性比率は99.6% (62,814/63,060) である。TRALIのリスクにおいては、400mL由来がリスクは低いと考えられる。

10. 結論

以上の結果から、200mL製剤は400mL製剤とほぼ同等のリスクであり、200mLを400mLと同量の2本を輸血した場合の相対的感染リスクは、ほぼ2倍となるがHBV,HCV,HIVの感染リスクは極めて低いものである。

評価項目	条件	200mL 献血を推進し、200mL 献血を制限した場合 (血漿と赤血球をいずれも使用)		400mL 献血を推進し、200mL 献血を制限した場合 (血漿と赤血球をいずれも使用)		比較
		献血者の理解	献血者の確保	献血者の理解	献血者の確保	
献血者の理解	献血者の理解	200mL 献血しか出来ない献血者の理解が得られるか。	将来の献血意識となる若年層については、理解が得られるが、初回の若年層以外の献血者を制限することにより理解が得られるか。	将来の献血意識となる若年層のみならず、献血全体の理解が得られやすくなるものと考えられる。	将来の献血意識となる若年層のみならず、献血全体の理解が得られやすくなるものと考えられる。	○
	献血者の確保	中長期的には、200mL 献血を含めた若年層の献血推進がより可能となる。	中長期的には、200mL 献血を含めた若年層の献血推進がより可能となる。	○	○	○
血液セクターの負担	血液セクターの負担	400mL 献血者数は増加するが、200mL 献血者数がそれ以上に減少するため、材料費・経費等のコスト減となる。	200mL 献血者数は増加することから、材料費・経費等のコスト増となる。	○	×	△
	輸血患者の負担	医療機関からの400mL 献血由来製剤の需要により近づけることができ、感染リスクは軽減し、負担は軽減されるものと考えられる。	200mL 献血由来製剤の供給が増加することにより、感染リスクが高くなることから、負担は増加するものと考えられる。	○	×	△
医療機関の負担	医療機関の負担	輸血検査や輸血セット等に係るコストや手技的な負担は軽減されるものと考えられる。	輸血検査や輸血セット等に係るコストや手技的な負担は増加するものと考えられる。	○	×	△
	若年層の200mL 献血 (初回) 者数 (22年度)	単位:人 年代別 16-19歳 28,610 20-29歳 3,616 計 32,226	単位:人 年代別 16-19歳 46,383 20-29歳 24,366 計 70,749	単位:人 年代別 16-19歳 74,993 20-29歳 27,982 計 102,975	単位:人 年代別 16-19歳 21,863 20-29歳 46,383 計 68,246	単位:人 年代別 16-19歳 21,863 20-29歳 46,383 計 68,246
条件を満たすための対応と全血献血者数 (推定)	若年層の200mL 献血 (初回) 者数を制限対象とした場合、200mL 献血103,000人を制限対象とし、減少分を400mL 献血で確保する。	*200mL 献血は、右記 (3) と同様に547,000人の確保が可能と推定される。 *400mL 献血は左記 (1) と回数確保する。 *200mL 献血の547,000人-360,000人=187,000人については、血漿のみを使用することから、血液成分献血者数49,000人を制限することになる。	*右記 (4) の200mL 献血で49,000人の確保に加え、特に200mL 献血者数の制限による減少傾向がみられる20代女性を対象として推進した場合、さらに36,000人の献血者確保が可能と推定される。 *400mL 献血42,000人が対象となる。	*実施率は50%とした場合とし、初回献血率は56.1%(10代)であるため、200mL 献血で48,000人の確保が可能と推定される。 *初回若年層以外の200mL 献血48,000人が制限対象となる。	高校献血実施状況 (22年度)	単位:人 実施率 200mL 計 46,383 400mL 計 21,863 23.4%
以下22年度献血実績に基づき各条件の献血者数を推定している。	200mL 462,937人 (12.3%) 400mL 3,304,819人 (87.7%) 計 3,767,756人	200mL 献血 547,000人 (14.0%) 400mL 献血 3,263,000人 (86.0%) 計 3,810,000人	200mL 献血 547,000人 (14.4%) 400mL 献血 3,263,000人 (85.6%) 計 3,810,000人	200mL 献血 463,000人 (12.3%) 400mL 献血 3,305,000人 (87.7%) 計 3,768,000人		

1. 調査の概況

< 調査目的 >

献血者数については、これまで減少傾向が引き続いてきたところであるが、平成20年以降、増加に転じ、これまでの献血者確保対策に一定の効果がみられているところである。

しかしながら、10～20歳代の若年層の献血者数に目を転じてみると、同年代の人口減少の割合を上回る割合で減少し続け、依然として若年層の献血離れは深刻なものであり、将来の輸血医療に支障が生じることが懸念されていることから、若年層に対しての普及・啓発をこれまで以上に重点的・効率的に行う必要性が生じている。

そのため、若年層の献血に対する意識調査を実施し、平成17年度と平成20年度に行った同様の調査結果との比較を行うことにより、若年層の献血に対する意識等に変化があるのかどうかを検証し、検証結果を今後の若年層に対する献血推進のあり方の検討に資することを目的とする。

< 調査内容 >

- (1) 若年層の献血への関心度や献血へのイメージを把握する。
- (2) 若年層の献血に関する認知度を把握する。
- (3) 若年層が献血を行った時期やきっかけを把握する。
- (4) (1)～(3)について平成17年度、平成20年度の調査結果との比較を行う。

< 調査概要 >

【調査方法】 委託先調査会社が保有している一般消費者パネルに対して、インターネットを通じて質問(調査票)を送付し、回答を収集する。

【調査対象】 全国の16～29歳の献血経験者及び献血未経験者
 ※献血経験者：過去に1度も献血の経験がある者
 ※献血未経験者：今まで1度も献血の経験がない者(採血前の検査で基準を満たさないため献血できなかった者を含む)

【対象者数】

献血経験者：5000名
 献血未経験者：5000名
 合計：10000名

※全国を右表の通り7ブロックに分け、各ブロックの若年層人口(16～29歳の)全国に占める割合を平成22年住民基本台帳年齢別人口のデータに基づき算出し、ブロックごとの回収数を決定した。

	合計	経験者	未経験者
合計	10,000	5,000	5,000
北海道	412	206	206
東北	706	353	353
関東甲信越	3,850	1,825	1,825
東海北陸	1,572	786	786
近畿	1,832	816	816
中国・四国	882	431	431
九州・沖縄	1,166	583	583

【調査期間】 平成23年10月6日(木)～10月12日(水)

1

1. 献血未経験者

【対象者特性(回答者5,000人)】

・居住地は、「関東甲信越」が36.5%で、以下、「近畿」(16.3%)、「東海北陸」(15.7%)、「九州・沖縄」(11.7%)、「中国・四国」(8.6%)、「東北」(7.1%)、「北海道」(4.1%)の順。全体構成は17年度調査及び20年度調査と概ね変わらない。

・性別は、「男性」51.0%、「女性」49.0%とほぼ半々。20年度調査と構成は概ね変わらない。17年度調査と比べると男性回答者が2割増加(38.8%→51.0%)。

・年齢は、「16～17歳」(9.5%)、「18～19歳」(18.6%)、「20～24歳」(36.0%)、「25～29歳」(36.0%)である。17年度調査及び20年度調査に比べて10代の回答者が増加(11.8%→25.1%→28.1%)。

・職業は、「大学生・専門学校生」(31.9%)と「会社員」(27.4%)が中心。以下、「その他」(15.9%)、「高校生」(12.8%)、「専業主婦」(6.5%)、自営業(3.4%)、公務員(2.1%)の順。20年度調査とは概ね同様の傾向。17年度調査に比べて特に「大学生・専門学校生」が増加(18.6%→31.9%)、「専業主婦」が減少(17.1%→6.5%)。

・医療関係への関与有無は、「携わっている」人は8.0%で、17年度調査及び20年度調査と概ね変わらない。

【献血に関する認知・関心度】

(Q1) 献血に関する認知程度

・未経験者全体では、「よく知っている」(10.8%)と「ある程度知っている」(75.4%)を合わせた認知率は86.2%。

・職業別では、高校生の認知率(81.3%)が他層に比べて低い。

・性別では、男性(83.5%)より女性の認知率(80.0%)が高い。

・17年度調査に比べて20年度調査は認知率が大幅に上昇したが、23年度調査では低下した(73.8%→92.9%→85.2%)。特に公務員の認知率が20年度調査より11ポイント低下し、顕著(95.3%→84.6%)。

(Q2) 献血の種類に関する認知

・未経験者全体では、献血の種類を認知している人は35.1%。6割以上の人は認知していない。

・職業別では、公務員の認知率が46.2%で他層に比べて高い。一方、高校生の76.0%が認知しておらず他層に比べて低い。

・性別では、男性(31.4%)より女性の認知率(38.9%)が高い。

・地域別では、東北の認知率(41.6%)が他層に比べて高い。

・20年度調査と比べて、専業主婦の認知率が11ポイント低下し、顕著(42.8%→32.1%)。

(Q3) 献血できる場所の認知

・未経験者全体では、「よく知っている」(25.0%)と「ある程度知っている」(59.4%)を合わせた認知率は84.4%。

・職業別では、公務員の認知率(88.5%)が最も高く、対して高校生(77.8%)の認知率は他層よりも低い。

・性別では、男性(78.5%)より女性の認知率(89.4%)が高い。

2

【献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況】

(Q10) 献血に関する広報接触媒体

・未経験者全体では、「献血バス」(53.4%)、「街頭での呼びかけ」(52.9%)、「テレビ」(46.0%)、「献血ルーム前の看板・表示」(43.6%)の順で接触率が高い。

・職業別では、「献血バス」は大学生・専門学校生(59.6%)と専業主婦(63.0%)で高く、また専業主婦は「街頭での呼びかけ」(58.3%)、「献血ルーム前の看板・表示」(53.4%)も高く、現場での接触が目立つ。高校生は他層と比べて総じて接触率が低く、いずれの広告も「見たことがない」が13.1%。高校生が最も接触している媒体は「テレビ」で42.7%。

・地域別では、「街頭での呼びかけ」は北海道(37.4%)と中国・四国(47.8%)で他層と比べて低い。「テレビ」は東北(58.9%)、中国・四国(54.1%)、九州・沖縄(57.3%)で他層と比べて高く、関東甲信越(37.1%)で低い。・17年度調査と20年度調査を比べると、各媒体で総じて接触率が低下。23年度調査ではさらに、「街頭での呼びかけ」の接触率が低下(69.7%→60.6%→52.9%)。

(Q11) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体

・未経験者全体では、「テレビ」が79.0%で圧倒的に高い。次いで「インターネット」が48.4%。

・職業別では、高校生は「インターネット」(35.4%)が他層と比べて低い。専業主婦は「テレビ」が圧倒的に高く9割超(88.0%)。一方、自営業では「テレビ」(64.9%)が他層に比べて低い。

・性別では、男性より女性のほうが「テレビ」(83.1%)、「ポスター」(30.3%)、「携帯電話」(25.2%)、「雑誌」(23.7%)を支持。

・17年度調査、20年度調査と比べると「テレビ」と「新聞」の支持率が低下傾向(テレビ：88.9%→84.7%→79.0% 新聞：28.2%→23.7%→21.9%)。一方「インターネット」は上昇傾向(41.9%→46.8%→48.4%)。

(Q12) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知

・未経験者全体の認知率は21.3%で4人中1人が認知。

・職業別では、高校生(26.3%)、大学生・専門学校生(29.9%)といった学生と公務員(25.0%)の認知率が他層と比べて高い。

・性別では、女性の認知率(28.2%)が男性(14.6%)より高い。

・地域別では、東北の認知率が30.6%で他層と比べて高い。

・20年度調査と比べると、認知率は7.2%→21.3%と大幅に上昇。特に大学生・専門学校生と女性で認知率が大幅に上昇した。(大学生・専門学校生：10.6%→29.9% 女性：9.7%→28.2%)

(Q13) 献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象(新規質問)

・未経験者全体のけんけつちゃん認知者にその印象をたずねると、「よい」が50.9%で半数。

・「わるい」は3.8%で好評価。

・性別では、男性(43.4%)より女性(55.0%)で「よい」と感じられている。

(Q14) 献血キャンペーン認知

・未経験者全体では、「はたちの献血キャンペーン」の認知率が他のキャンペーンと比べて高く24.3%。なお、一つもキャンペーンを知らない人は68.6%。

・職業別では、一つもキャンペーンを知らない人が高校生(77.6%)と自営業(72.0%)で他層と比べて高い。

・性別では、いずれかのキャンペーンを認知している人は男性(24.7%)より女性(38.4%)が多い。特に「はたちの献血キャンペーン」で女性の認知率(30.7%)が高い。

・地域別では、東北でいずれかのキャンペーンを認知している率(43.6%)が他層と比べて高い。

・キャンペーン認知者に、印象に残った具体的なメッセージを聞いてみると、72.6%が特に印象に残った内容がなかった。記憶された内容で多かったものは、「はたちの献血はI LOVE in Action」(石川遼のCM、ポスター)についてであった。

3

4

(Q15)「HOP STEP JUMP」を配布された記憶

- ・未経験者全体では、高校3年生にHOP STEP JUMPが配布されていることの認知率は9.8%。授業で使用した経験がある人は2.1%にとどまる。
- ・職業別では、高校生(16.5%)と大学生・専門学校生(17.5%)が他層と比べて高いものの、2割弱にとどまる。
- ・地域別では、東北の認知率が14.4%で他層と比べて高い。

【感染症・血液製剤について】

(Q16) 献血では感染症に感染しないことの認知

- ・未経験者全体の認知率は48.6%で、半数は認知していない。
- ・職業別では、大学生・専門学校生(54.4%)と公務員の認知率(63.5%)が他層と比べて高く、一方自営業(36.9%)は他層と比べて低い。
- ・性別では、女性の認知率(51.3%)が男性(46.0%)に比べて高い。
- ・地域別では、北海道の認知率(41.3%)が他層と比べて低く、一方東北の認知率(53.8%)は他層と比べて高い。
- ・20年度調査と比べると認知率は59.1%→48.6%に低下した。特に自営業、専業主婦で大幅に低下した(自営業:54.5%→36.9% 専業主婦:64.1%→46.9%)。

(Q17) 血液製剤の海外血液依存の認知

- ・未経験者全体の認知率は10.8%で、9割が認知していない。
- ・職業別では、公務員の認知率(15.4%)が他層と比べて高い。
- ・認知率は17年度調査より低下傾向(22.6%→14.5%→10.8%)。特に公務員と自営業の低下が顕著(公務員:32.7%→21.2%→15.4% 自営業:29.6%→17.9%→7.7%)。

【献血ルームのイメージ】

(Q18) 献血ルームのイメージ

- ・未経験者全体では、イメージが「ふつう」の人が41.4%を占め、最多。「明るい」イメージは17.3%、「暗い」イメージが11.0%。
- ・性別では、「明るい」イメージは男性(14.4%)より女性(20.3%)にもたれている。
- ・地域別では、「明るい」イメージは東北(22.7%)と九州・沖縄(23.3%)で他層と比べて高い。
- ・20年度調査と比べると、「明るい」と「わからない」が上昇した(明るい:12.7%→17.3% わからない:24.5%→30.3%)。一方、「ふつう」と「暗い」が低下した(ふつう:47.4%→41.4% 暗い:15.4%→11.0%)。

【献血をしたことがない理由】

(Q19) 献血をしたことがない理由(大きい順に3つ選択)

- 1位く最も大きな理由>にあがった理由
- ・未経験者全体では、1位の理由として「針を刺すのが痛くて嫌だから」がトップで12.2%。次いで「健康上出来ないと考えたから」(9.3%)、「なんとなく不安だから」(8.4%)などが割弱で続く。また理由が「わからない」人が10.4%にのぼり、1割の人が特別に理由なく献血に協力していない。
- ・職業別では、専業主婦で「献血を申し込んだが、基準に適合せず断られた」(16.7%)が他層と比べて高い。一方高校生は、理由が「わからない」人が20.4%にのぼる。
- ・理由が「わからない」人が17年度調査より上昇傾向(1.9%→6.2%→10.4%)。特に高校生で15ポイント上昇している(3.5%→5.4%→20.4%)。

●1~3位累計の理由

- ・未経験者全体では、「針を刺すのが痛くて嫌だから」がやはりトップで27.7%。次いで「なんとなく不安だから」(25.9%)、「恐怖心」(22.4%)、「時間がかかりそうだから」(20.1%)が続く。
- ・職業別では、高校生で「近く(献血する場所や機会)がなかったから」(20.1%)が他層に比べてやや高い。大学生は「針を刺すのが痛くて嫌だから」(30.6%)、「なんとなく不安だから」(28.8%)、「時間がかかりそうだから」(22.9%)、「忙しくて献血する時間がなかったから」(17.8%)が他層に比べてやや高い。
- ・地域別では、近畿で「献血している所に入りづらかったから」(16.1%)が他層と比べてやや高い。
- ・20年度調査と比べると、「献血している所に入りづらかったから」が低下(17.6%→11.9%)し、「わからない」が上昇(10.6%→24.5%)した。
- ・献血をしたことがない理由「その他」として記載された内容で多かったものは、「貧血体質のため」「採血後具合が悪くなるから」「メットがない/お金がもらえない」であった。

【献血するきっかけとなり得る要因】

(Q20) 献血するきっかけとなり得る要因(大きい順に3つ選択)

- 1位く最も大きな要因>にあがったもの
- ・未経験者全体では、1位の要因として、「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」ことで11.6%。献血をしたことがない理由でも「針を刺すのが痛くて嫌だから」が1位であり、針を刺す時の痛みが献血へのネックとなっていると考えられる。また、僅差で「家族や友人などから勧められた」(11.5%)が主要な要因としてあがる。
- ・職業別では、「家族や友人などから勧められた」が高校生で15.4%、大学生・専門学校生で13.3%と他層と比べて高く、トップの要因としてあがる。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」が低下(17.3%→8.6%)する一方、「献血は絶対しない」が上昇(12.5%→18.0%)。23年度調査は20年度調査と横並び。

●1~3位累計の要因

- ・未経験者全体では、「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」がやはり最も高く24.2%。僅差で「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」(23.5%)、「献血した時の処遇品(記念品)が良かった」(22.0%)、「家族や友人などから勧められた」(21.8%)が続く。
- ・職業別では、高校生と大学生・専門学校生で「家族や友人などから勧められた」(高校生:27.6% 大学生:25.2%)が他層と比べて高く、学生は身近な人からの勧めが重要なきっかけになると考えられる。
- ・地域別では、東海北陸と九州・沖縄では「近く(献血する場所)ができた(献血ルーム)」と「近く(献血する場所)ができた(献血ルーム)または出張献血」が他層と比べてやや高い。
- ・20年度調査と比べると、「献血したときの処遇品(記念品)が良かった」(12.3%→22.0%)、「献血ルームのサービスが良かった」(5.4%→13.8%)が上昇している。
- ・具体的にどのような処遇品(記念品)になったら良いかの問いに記載された内容で多かったものは、「お菓子がよくなった」「食べ物/栄養補助食品の提供」「図書カード」であった。
- ・献血ルームのサービスでは、「飲食のサービスがよくなった」「つるつるスリックスできる」「職員の態度がよい」の記載が多い。
- ・「献血は絶対しない」を選択した人に理由をたずねたところ、「貧血体質だから」「健康上の問題」「薬を服用しているから」といった健康上の問題に関する記載が多い。

【初めての献血について】

(Q21) 初めての献血で400ml献血することへの不安意識(新規質問)

- ・未経験者全体では、「どちらかというとはいい(どちらかという抵抗がある)」(36.9%)と「はい(抵抗がある)」(30.8%)を合わせた抵抗がある人は67.7%で3人中2人。
- ・職業別では、専業主婦で抵抗がある人(76.5%)が他層と比べて高く、一方自営業で抵抗がある人(62.5%)は他層と比べて低い。
- ・性別では、女性で抵抗がある人(71.2%)が男性(64.4%)と比べて高い。

2. 献血経験者

【対象者特性(回答者5,000人)】

- ・居住地は、「関東甲信越」が36.5%で、以下、「近畿」(16.3%)、「東海北陸」(15.7%)、「九州・沖縄」(11.7%)、「中国・四国」(8.6%)、「東北」(7.1%)、「北海道」(4.1%)の順。全体構成は17年度調査及び20年度調査と概ね変わらない。
- ・性別は、「男性」50.4%、「女性」49.6%とほぼ半々。20年度調査と構成は概ね変わらない。17年度調査と比べると男性回答者が2割弱増加(34.1%→50.4%)。
- ・年齢は、「16~17歳」(3.0%)、「18~19歳」(10.5%)、「20~24歳」(43.2%)、「25~29歳」(43.2%)である。17年度調査及び20年度調査に比べて10代の回答者が増加(3.8%→11.2%→13.5%)。

- ・職業は、「大学生・専門学校生」(29.6%)と「会社員」(40.4%)が中心。以下、「その他」(10.3%)、「専業主婦」(8.9%)、「公務員」(4.5%)、「高校生」(3.6%)、自営業(2.7%)の順。20年度調査とは概ね同様の傾向。17年度調査に比べて特に「大学生・専門学校生」が増加(13.0%→29.6%)、「専業主婦」が減少(21.3%→8.9%)。

- ・医療関係への関与の有無は、「携わっている」人は17.1%で、17年度調査及び20年度調査と比べて6ポイント上昇している。

【献血に関する認知状況】

(Q1) 献血が病気の治療に役立っていることの認知

- ・経験者全体の認知率は66.4%で3人中2人が認知している。
- ・職業別では、専業主婦の認知率(57.4%)が他層と比べて低い一方、公務員(72.4%)と大学生・専門学校生(71.6%)が他層と比べて高い。
- ・地域別では、北海道での認知率が高く73.3%。

(Q2) 血液製剤確保のために、絶えず献血が必要なこと認知(新規質問)

- ・経験者全体の認知率は72.1%で割強を占める。
- ・職業別では、大学生・専門学校生(77.2%)と公務員(76.9%)の認知率が他層と比べて高い一方、高校生は62.8%にとどまる。
- ・性別では、男性(68.3%)より女性の認知率(76.0%)が高い。

(Q3) 献血された輸血用血液製剤の使い道認知(新規質問)

- ・経験者全体の認知率は34.7%で、3人中1人が認知している。
- ・職業別では、高校生が他層と比べて高く45.0%。一方、専業主婦(27.0%)と自営業(28.9%)が他層と比べると低い。
- ・性別では、女性(32.6%)より男性認知率(38.8%)がやや高い。

(Q4) 輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験(新規質問)

- ・経験者全体では、経験のある人は27.5%。
- ・職業別では、高校生の経験率が42.2%と他層と比べて高い。次いで大学生・専門学校生の経験率が高く、30.2%を占める。

【家族・友人の献血状況】

(Q22) 家族が献血している姿を見たことがあるか

- ・未経験者全体では、見たことが「ある」人は11.0%で1割強にとどまる。
- ・職業別では、専業主婦で見たことが「ある」人は17.3%で、他層と比べて高い。
- ・性別では、男性(8.4%)と比べて女性(13.8%)の方が見たことが「ある」が高い。

(Q23) 友人に献血している人がいるか

- ・未経験者全体では、「いる」(32.8%)、「いない」(34.8%)、「わからない」(32.3%)の回答が分かれた。
- ・職業別では、大学生・専門学校生(41.4%)と公務員(58.7%)で「いる」が他層と比べて高い。
- ・性別では、男性(28.1%)より女性(37.7%)で「いる」が高い。
- ・地域別では、東北で「いる」(38.2%)が他層と比べて高い。
- ・20年度調査と比べると、公務員で11ポイント「いる」が上昇し(48.2%→58.7%)、一方自営業で9ポイント低下している(29.9%→21.4%)。

【献血に関する資料評価】

※献血に関する資料の閲読後に、献血に関する意識の変化について質問した。

(Q24-1) 献血の必要性への理解が良くなったか

- ・未経験者全体では、「はい(理解が良くなった)」(27.6%)と「どちらかというとはいい(どちらかという)と良くなった」(57.1%)を合わせた理解が良くなった人は84.7%にのぼる。
- ・職業別では、理解が良くなった人の割合は専業主婦(89.2%)と大学生・専門学校生(87.6%)で他層と比べて高い。
- ・性別では、女性の理解が良くなった人の割合(88.9%)が、男性(80.6%)に比べて高い。
- ・20年度調査と比べると、理解が良くなった人の割合が7ポイント低下し(91.7%→84.7%)、評価が低くなっている。

(Q24-2) 献血に協力する意識の有無

- ・未経験者全体では、「ある」(15.6%)と、「どちらかというとはいい(どちらかという)とある」(43.4%)を合わせた意識がある人は59.0%で割強を占める。
- ・職業別では、意識がある人の割合が公務員(50.0%)、自営業(50.6%)で他層と比べて低い。
- ・性別では、男性(52.6%)に比べて女性(65.7%)で意識がある人の割合が高い。
- ・地域別では、関東甲信越で意識がある人の割合(54.7%)が他層に比べてやや低い。
- ・17年度調査、20年度調査と比べると、意識がある人の割合は低下している(65.0%→65.2%→59.0%)。公務員と自営業で特に低下している(公務員:59.6%→63.5%→50.0% 自営業:69.6%→60.4%→50.6%)。

(Q24-3) 今後実際に献血に行くか

- ・未経験者全体では、「はい(行く)」(7.5%)と、「どちらかというとはいい(どちらかという)と行く」(36.9%)を合わせた意向ありの人は44.4%。
- ・職業別では、意向ありの人の割合は高校生(49.6%)で高く、半数近くが意向を喚起されている。対して公務員(32.7%)や自営業(33.9%)は他層と比べて低い。
- ・性別では、男性(39.6%)に比べて女性(49.4%)で意向ありの割合が高い。
- ・17年度調査、20年度調査と比べると、意向ありの割合が低下傾向にある(49.5%→47.4%→44.4%)。公務員と自営業で特に低下している(公務員:44.2%→47.1%→32.7% 自営業:54.8%→41.8%→33.9%)。

【若年層の献血協力意向を高めるアイデア】

(Q25) 若年層の献血協力意向を高めるアイデア

- ・未経験者全体に自由記述形式でアイデアをたずねたところ、「処遇品・記念品」といった献血者に直接メリットがある内容、「人気タレントの起用」「インターネット、テレビ、雑誌でのPR」などのPR方法を考える内容、「気軽に」行けて「何かのついでや待ち時間に」献血できる場所など、「献血できる施設を設けたらよい」といったアイデアが多くあげられた。

(Q9) 若年層の献血協力者の減少傾向認知

- ・経験者全体では、「知っている」人は52.9%で半数を占める。
- ・職業別では、大学生・専門学校生の認知率(58.6%)が他層に比べて高い一方、専業主婦では43.9%で他層と比べて低い。
- ・地域別では、東北(47.6%)、関東甲信越(51.0%)、東海北陸(49.2%)で他層と比べて低い。
- ・20年度調査と比べると、東北の認知率が15ポイント低下し顕著(62.8%→47.6%)

【献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況】

(Q6) 献血に関する広報接触媒体

- ・経験者全体では、「献血バス」が64.7%で最も高く、「街頭での呼びかけ」(64.1%)、「献血ルーム前の看板・表示」(63.4%)、「テレビ」(51.7%)が続き、以上が主要な接触媒体。
- ・職業別では、「献血バス」は専業主婦で高く71.4%と7割を超える。高校生は「献血バス」(48.3%)などの現場での接触が他層と比べて少なく、「テレビ」(56.7%)がトップの接触媒体である。「インターネット」(22.8%)も他層と比べて接触率が高い。
- ・性別では、女性は「献血バス」(69.9%)、「街頭での呼びかけ」(69.9%)、「献血ルーム前の看板・表示」(70.6%)といった現場での接触率が男性に比べて高い。
- ・地域別では、「街頭での呼びかけ」は関東甲信越(68.4%)、東海北陸(64.9%)、近畿(64.2%)で他層と比べて高い。「テレビ」は東北(64.9%)、中国・四国(61.9%)、九州・沖縄(57.6%)で高い。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると、各媒体の接触率は総じて低下。20年度調査と23年度調査を比べると、「献血バス」(57.6%→64.7%)と、「インターネット」(9.5%→14.6%)で接触率が上昇した。

(Q7) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体

- ・経験者全体では、効果的だと思う媒体は、「テレビ」が78.7%で圧倒的。次いで「インターネット」が51.2%。
- ・職業別では、専業主婦は他層と比べて「テレビ」(85.4%)、「自治体の広報誌」(23.0%)が高い。また高校生は「新聞」(30.6%)が他層と比べて高く、「テレビ」「インターネット」に次いで3位の媒体。
- ・性別では、男性よりも女性で「テレビ」(82.7%)、「ポスター」(30.1%)、「雑誌」(24.8%)が高い。
- ・地域別では、関東甲信越は「テレビ」(76.2%)が他層と比べて低い。
- ・17年度調査、20年度調査と比べると、「テレビ」は低下傾向(87.5%→83.6%→78.7%)、一方「インターネット」(43.9%→48.3%→51.2%)は上昇傾向にある。

(Q8) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知

- ・経験者全体の認知率は44.3%で半数近くの人が認知している。
- ・職業別では、大学生・専門学校生(57.3%)、高校生(56.1%)の認知率が「高6割」にのぼる。
- ・性別では、女性の認知率(52.0%)が男性(36.7%)より高い。
- ・地域別では、近畿の認知率が37.3%で他層と比べて低い。
- ・17年度調査、20年度調査と比べると、認知率は大幅に上昇している(7.0%→23.8%→44.3%)。

●広さ

- ・経験者全体では、「広い」が22.2%、「狭い」が20.2%でほぼ同率。「ふつう」は47.3%と感じる人が多い。
- ・職業別では、近畿で「広い」と感じる人の割合(17.4%)が他層と比べて低く、「狭い」(25.4%)と感じる人が多い。

●職員の対応

- ・経験者全体では、「良い」が48.4%で半数。また「ふつう」は41.3%で、「悪い」と感じる人は3.0%にとどまった。職員に対する評価は概ね良好である。
- ・職業別では、「良い」が高校生(55.6%)と大学生・専門学校生(56.4%)で他層と比べて高い。

●記念品や軽い飲食物

- ・経験者全体では、「良い」が43.6%に対し、「悪い」は7.9%で「良い」と感じる人が大きく上回る。「ふつう」は41.7%。
- ・職業別では、大学生・専門学校生(47.9%)と専業主婦(48.4%)で「良い」評価が高い。
- ・性別では、女性の評価(良い:47.9%)が男性(良い:39.3%)より高い。
- ・地域別では、東海北陸で評価(良い:48.1%)が他層と比べてやや高く、一方近畿では(良い:38.8%)が他層と比べてやや低い。
- ・17年度調査、20年度と比べて、「良い」評価は上昇傾向である(36.7%→40.9%→43.6%)。

【献血についての要望・知りたいこと】

(Q15) 献血についての要望・知りたいこと

- ・経験者全体では、「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」が39.4%。僅差で「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(38.9%)、「献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい」(37.3%)が続き、突出したものはなく要望は多岐にわたっている。
- ・職業別では、大学生・専門学校生で「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(44.4%)、「進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい」(21.5%)が他層と比べて高い。また専業主婦では「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」(46.6%)、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」(36.7%)が他層と比べて高い。
- ・性別では、総じて男性よりも女性で要望や知りたいことがある。

【初めての献血について】

(Q16) 初めての献血した年齢

- ・経験者全体では、「16~17歳」が29.3%、「18~19歳」が33.8%、「20~24歳」が32.1%でともに1/3程度。10代で初めて献血を経験した人が6割強。
- ・職業別では、当然ではあるが高校生は「16~17歳」(86.7%)が大半。大学生・専門学校生は「18~19歳」が43.8%で最も多い。一方、会社員、公務員は「20~24歳」(会社員:38.4% 公務員:36.9%)での献血経験が最も多い。
- ・性別では、「16~17歳」での経験率は女性(31.6%)が男性(27.0%)と比べて高い。「20~24歳」での経験率は男性(34.3%)が女性(29.8%)に比べて高く、女性の方が若いうちに献血を経験している傾向。
- ・地域別では、東北で「16~17歳」での経験率(39.7%)が他層に比べて高い。

(Q9) 献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象 (新規質問)

- ・経験者全体のけんけつちゃん認知者にその印象を聞くと、「よい」が58.4%で半数以上。「わるい」は3.0%であった。
- ・職業別では、高校生で「よい」が67.3%で他層と比べて高い。
- ・性別では、男性(よい:54.9%)より女性(よい:60.9%)の評価が高い。

(Q10) 献血キャンペーン認知

- ・経験者全体では、「私たちの献血キャンペーン」が最も認知されており43.1%と半数近く。次いで「LOVE in Actionキャンペーン」(24.4%)、「愛の血液助け合い運動」(17.9%)が続く。二つもキャンペーンを知らない人は42.6%。
- ・職業別では、公務員は4人中3人近くの人(71.6%)が何らかのキャンペーンを認知しており、他層と比べてキャンペーンの認知率が高い。またキャンペーンごとにみても、「LOVE in Actionキャンペーン」は大学生・専門学校生で30.0%の認知率で、「愛の血液助け合い運動」は高校生で26.1%の認知率で他層と比べて高い。
- ・性別では、男性(52.6%)より女性(62.3%)の方がいずれかのキャンペーンを認知している。
- ・地域別では、北海道で「私たちの献血キャンペーン」(50.0%)、東北で「LOVE in Actionキャンペーン」(38.2%)の認知率が他層と比べて高い。
- ・キャンペーン認知者に、印象に残った具体的なフレーズを聞いたところ、65.9%が特に印象に残った内容がなかった。記載された内容で多かったものは、「私たちの献血」「石川遼のCM、ポスター」「LOVE in Action」についてであった。

(Q11) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶

- ・経験者全体では、高校3年生にHOP STEP JUMPが配布されていることの認知率は15.1%。授業で使用した人は5.3%にとどまる。
- ・職業別では、高校生の認知率は37.2%。大学生・専門学校生は25.0%。

【感染症・血液製剤について】

(Q12) 献血では感染症に感染しないことの認知

- ・経験者全体の認知率は72.4%。4人中3人近くが認知している。
- ・職業別では、自営業の認知率(57.0%)が他層と比べて低い。
- ・性別では、男性(69.4%)より女性(75.4%)の認知率が高い。
- ・地域別では、東北の認知率(68.3%)が他層と比べてやや低い。
- ・23年度調査は20年度調査と比べて認知率が低下している(78.4%→72.4%)。特に東北の低下が大きい(81.4%→68.3%)。

(Q13) 血液製剤の海外血液依存の認知

- ・経験者全体の認知率は20.3%で、5人中1人の割合。
- ・職業別では、専業主婦の認知率(13.1%)が他層と比べて低い。一方高校生は26.1%で他層と比べて高い。
- ・地域別では、中国・四国の認知率(26.7%)が他層と比べて高い。
- ・17年度調査、20年度調査と比べると認知率は低下傾向である(30.8%→25.3%→20.3%)。

【献血ルームのイメージ】

(Q14) ルームについて

- 雰囲気
- ・経験者全体では、「ふつう」な人が47.5%。「明るい」が38.5%に対し「暗い」は5.7%で、「明るい」イメージが「暗い」イメージを大きく上回っており好評。
- ・性別では、「明るい」と評価する割合は女性(43.4%)が男性(33.7%)より高い。
- ・地域別では、「明るい」イメージが近畿(32.2%)で最も低い。

(Q17) 初めて献血した場所

- ・経験者全体では、「献血ルーム」が33.2%で最も高く、3人中1人。次いで、「献血バス」が21.8%、「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(21.2%)が続く。
- ・職業別では、高校生は「高校(での集団献血)」(28.9%)と「献血バス」(26.1%)が他層と比べて高く、「献血ルーム」(32.8%)とそれぞれ1/3。大学生・専門学校生は「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(30.2%)が他層と比べて高く、「献血ルーム」(34.5%)について第2位の場所。専業主婦では「献血ルーム」が42.6%で4割強を占め、他層と比べて高い。
- ・性別では、女性の「献血ルーム」(40.6%)での経験率が男性(26.0%)と比べて高い。一方男性は「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(25.7%)が女性(16.6%)と比べて高い。
- ・地域別では、東北で「高校(での集団献血)」(24.1%)、近畿で「献血バス」(31.6%)が他層と比べて高い。
- ・20年度調査と比べると、高校生で「高校(での集団献血)」が低下(38.1%→28.9%)。

(Q18) 初めての献血の種類

- ・経験者全体では、「200ml献血」が47.4%と半数を占める。「400ml献血」は30.9%、「成分献血」は5.7%。
- ・職業別では、「200ml献血」は高校生(62.2%)と専業主婦(60.8%)で他層と比べて高い。
- ・性別では、男性は「200ml献血」(35.9%)より「400ml献血」(41.1%)での経験率が高い。対して女性は「200ml献血」が59.1%で高い。
- ・地域別では、九州・沖縄では「400ml献血」が40.8%を占め、「200ml献血」(37.7%)よりも高い。
- ・17年度調査、20年度調査と比べると「400ml献血」が上昇傾向(18.9%→28.9→30.9%)で、対して「200ml献血」が低下傾向(62.3%→51.6%→47.4%)である。

(Q19) 初めての献血で400ml献血することへの不安意識

- ・経験者全体では、「特に不安は感じない」人が49.9%で半数を占める。一方、「不安」な人は39.4%。
- ・職業別では、「不安」は専業主婦(48.9%)で半数を占めており他層と比べて高く、「特に不安は感じない」(39.4%)を上回っている。
- ・性別では、女性(45.1%)の方が男性(33.7%)よりも「不安」と感じている。
- ・地域別では、九州・沖縄で「特に不安は感じない」(57.6%)が他層と比べて高い。また東北では「不安」(45.3%)が他層と比べて高い。
- ・20年度調査と比べると、「特に不安は感じない」が低下し(57.2%→49.9%)「不安」が上昇している(26.4%→39.4%)。
- ・「不安」と感じた人に対して理由をたずねたところ、記載された内容で多かったものは、「貧血になりそう」「体調が悪くなりそう」「倒れそう/フラフラになりそう」「量が多いから」であった。

【献血回数について】

(Q20) 過去1年間の献血回数

- 200ml献血
- ・経験者全体の経験率は41.1%。回数は「1回」が24.6%。2回以上は16.5%。
- ・職業別では、高校生では経験率が85.6%で他層と比べて圧倒的に高い。しかし63.3%が「1回」である。次いで、大学生・専門学校生の経験率(45.0%)が高く半数近く。
- ・性別では、女性の経験率(46.3%)が男性(36.0%)より高い。
- ・地域別では、中国・四国(35.7%)と九州・沖縄(32.6%)の経験率が他層と比べて低い。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると経験率は上昇したが23年度調査では低下し、17年度調査と横並び(40.5%→46.1%→41.1%)。

●400ml献血

- ・経験者全体の経験率は36.6%。回数は「1回」が23.7%、2回以上は13.0%。
- ・職業別では、大学生・専門学校生(44.6%)と公務員(40.9%)の経験率が他層に比べて高い。一方高校生(17.2%)と専業主婦(19.8%)は2割弱で他層と比べて低い。
- ・性別では、男性の経験率(46.1%)が女性(27.0%)より高く、200ml献血とは逆の結果。
- ・地域別では、九州・沖縄の経験率が42.5%で他層と比べて高い。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると経験率は上昇したが、23年度調査は20年度調査とほぼ横並び(26.4%→37.7%→36.6%)。

●成分献血

- ・経験者全体の経験率は27.3%。回数は「1回」が14.8%、2回以上は12.5%。
- ・職業別では、高校生の経験率が14.4%、専業主婦の経験率が21.4%で他層と比べると低い。
- ・地域別では、北海道の経験率が21.4%で他層と比べて低い。
- ・17年度調査、20年度調査と比べると、経験率は上昇傾向(18.8%→22.1%→27.3%)。ただし2回以上の経験者の割合は大きな変化がなく、「1回」経験者の割合が上昇している。

(Q21) 今までの合計献血回数

- ・経験者全体では、「1回」が最も多く33.8%で3人中1人、3人中2人(66.2%)が2回以上で、回数は「3〜5回」(26.4%)が多い。
- ・職業別では、公務員の複数回献血者が76.9%で他層と比べて高い。対して高校生(31.7%)と大学生・専門学校生(60.9%)の複数回献血者は他層と比べて低い。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると複数回の献血率が低下(71.8%→66.3%)。20年度調査と23年度調査は横並び。

●Q17「初めて献血した場所」で分析

- ・初めて献血した場所が、大学や職場の人に比べて高校で献血した人ほど献血頻度が高い傾向。高校で初めて献血した人では、3人以上献血している人が多く49.7%を占める。

●Q24「家族の献血の有無」で分析

- ・家族の献血現場を見たことがある人ほど本人の献血頻度が高まっており、両者の相関がみられる。

【献血するきっかけ】

(Q22) 初めての献血のきっかけ(大きい順に3つ選択)

- 1位<最も大きな要因>にあがった要因
- ・経験者全体では、1位の要因として「自分の血液が役に立ってほしいから」が29.0%でトップ。その他はそれぞれ1割以下。
- ・職業別では、各層とも「自分の血液が役に立ってほしいから」が主要なきっかけである。公務員では他層と比べて「なんとなく」(19.6%)が高い。
- ・地域別では、「大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから」が北海道(13.6%)、中国・四国(13.5%)、九州・沖縄(12.5%)で他層と比べて高い。
- ・20年度調査と比べると、「自分の血液が役に立ってほしいから」が低下している(37.5%→29.0%)。

(Q25) 友人に献血している人がいるか

- ・経験者全体では、6割(59.8%)が献血をしている友人が「いる」。
- ・職業別では、「いる」が特に高いのは大学生・専門学校生(67.9%)と公務員(70.2%)で、7割にのぼる。一方、高校生(53.3%)、自営業(47.4%)、専業主婦(53.8%)で他層に比べると低い。

(Q26) 高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか

- ・経験者全体では、「非常に有効」(36.6%)と「どちらかと言えば有効」(47.5%)とを合わせた有効率は84.1%にのぼる。
- ・性別では、女性の有効率(86.8%)が男性(81.3%)と比べて高い。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると、有効率は大幅に上昇した。23年度調査は20年度調査の結果と横並び(65.9%→84.6%→84.1%)。

●Q17「初めて献血した場所」で分析

- ・高校で初めて献血した人では有効率が91.4%にのぼり高い。中でも「非常に有効」が全体の半数(49.9%)を占める。高校での集団献血の経験がその後の献血の動機付けに大きな役割を果たす可能性が示唆される。

【献血に関する資料評価】

※献血に関する資料の閲覧後に、献血に関する意識の変化について質問した。

(Q27-1) 献血の必要性への理解の深まり

- ・経験者全体では、「はい(深まった)」(32.6%)と「どちらかというはい(どちらかという深まった)」(57.7%)を合わせた理解が深まった層は90.3%にのぼる。
- ・職業別では、各層とも理解が深まった層が9割前後を占めて高い。特に高校生では「はい(深まった)」が43.9%にのぼり、他層と比べて評価が高い。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると、「はい(深まった)」が大幅に上昇した。20年度調査と23年度調査では大きな変化はみられない(16.2%→32.7%→32.6%)。

(Q27-2) 献血に協力する意識の高まり

- ・経験者全体では、「はい(高まった)」(32.5%)と「どちらかというはい(どちらかという高まった)」(54.4%)を合わせた高まった層は86.9%にのぼる。
- ・職業別では、意識が高まった層は高校生(90.0%)で最も高い。また高校生では「はい(高まった)」(40.6%)が他層と比べて高い。高校生に対する献血意向促進に効果的であったことがわかる。
- ・性別では、女性の高まった層(89.8%)が男性(84.3%)と比べて高い。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると、「はい(高まった)」が大幅に上昇した。20年度調査と23年度調査では大きな変化はみられない(19.3%→31.3%→32.5%)。

(Q27-3) 献血回数の増加意向喚起

- ・経験者全体では、「はい(増やそうと思う)」(28.9%)と「どちらかというはい(どちらかという増やそうと思う)」(53.8%)を合わせた意向が喚起された層は82.7%を占める。
- ・職業別では、高校生で意向が喚起された層が89.5%にのぼり他層と比べて高い。
- ・性別では、女性で意向が喚起された層(86.0%)が男性(79.3%)に比べて高い。
- ・17年度調査、20年度調査と比べると、全体での意向が喚起された層の割合に変化はみられない。ただし17年度調査と20年度調査を比べると「はい(増やそうと思う)」の割合が上昇しており、より意向が喚起されている。20年度調査と23年度調査では大きな変化はみられない(19.7%→28.5%→28.9%)。

【若年層の献血協力意向を高めるアイデア】

(Q28) 若年層の献血協力意向を高めるアイデア

- ・経験者全体に自由記述形式でアイデアをたずねたところ、「処遇品・記念品」といった献血者に直接メリットがある内容、「人気タレントの起用」「学校、テレビ、インターネットでのPR」などのPR方法を考える内容。「高校や、何かのついでや待ち時間に献血できる場所など」身近に献血できる施設を設けたらよいといったアイデアが多くあげられた。

●1〜3位累計の要因

- ・経験者全体では、「自分の血液が役に立ってほしいから」が圧倒的に高く56.2%。次いで、「輸血用の血液が不足している」と聞いたから(33.5%)、「お菓子やジュースがもらえるから」(24.5%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(24.4%)が続く。
- ・職業別では、高校生で「献血は愛に根ざしたものだから」(14.4%)が他層と比べて高い。また、専業主婦で「家族や友人などに勧められたから」(22.7%)が他層と比べて高い。
- ・性別では、女性で「自分の血液が役に立ってほしいから」(60.2%)、「輸血用の血液が不足している」と聞いたから(36.2%)、「お菓子やジュースがもらえるから」(27.7%)、家族や友人などに勧められたから(20.4%)が高く、対して男性は「なんとなく」(35.3%)献血している人が多い。
- ・地域別では、「高校に献血バス・出張献血が来たから」が東北(19.0%)で他層と比べて高い。
- ・20年度調査と比べると、「輸血用の血液が不足している」と聞いたから(39.1%→33.5%)、「お菓子やジュースがもらえるから」(31.2%→24.5%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(29.5%→24.4%)といった上位2〜4位の要因が特に低下している。

(Q23) 現在献血するきっかけ(大きい順に3つ選択)

●1位<最も大きな要因>にあがった要因

- ・経験者全体では、第1位の要因は「自分の血液が役に立ってほしいから」(42.4%)で圧倒的に高い。その他の項目は1割程度以下で、「輸血用の血液が不足している」と聞いたから(11.6%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(10.1%)が続く。
- ・性別では、女性で「自分の血液が役に立ってほしいから」(45.0%)が男性と比べて高く、男性は「なんとなく」(19.8%)が高い。
- ・地域別では、「自分の血液が役に立ってほしいから」が北海道(36.9%)と東北(37.1%)で他層に比べて低い。

●1〜3位累計の要因

- ・経験者全体では、「自分の血液が役に立ってほしいから」(69.9%)がトップ。初めての献血のきっかけと同様の結果。次いで、「輸血用の血液が不足している」と聞いたから(51.4%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(37.1%)が続く。
- ・職業別では、高校生で「献血は愛に根ざしたものだから」(20.0%)や「過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから」(15.0%)が他層と比べて高い。
- ・性別では、女性で「自分の血液が役に立ってほしいから」(73.0%)、「輸血用の血液が不足している」と聞いたから(54.1%)が男性と比べて高い。対して男性では「記念品やグッズがもらえるから」(22.0%)や「なんとなく」(35.5%)が女性と比べて高い。
- ・地域別では、東北で「記念品やグッズがもらえるから」(26.9%)、「お菓子やジュースがもらえるから」(35.7%)が他層と比べて高い。
- ・17年度調査と20年度調査を比べると、「輸血用の血液が不足している」と聞いたから(47.6%→53.2%)、「将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力した」(15.9%→27.3%)が上昇した。20年度調査と23年度調査を比べると「お菓子やジュースがもらえるから」が低下している(36.8%→29.5%)。

【献血する動機づけについて】

(Q24) 家族が献血している姿を見たことがあるか

- ・経験者全体では、見たことがある人は24.3%で4人中1人。
- ・職業別では、専業主婦で見たことがある人が32.0%で他層と比べて高い。また高校生も28.9%にのぼり、やや高い。
- ・性別では、女性を見たことがある人(29.0%)は男性(19.7%)より高い。

調査結果まとめ・目立った回答など

献血未経験者	献血経験者
●献血に関する認知程度	
Q1(P10) ★認知率は86.2%	
●献血の種類認知	
Q2(P12) ★認知率は35.1% 8割(64.9%)の人は認知していない ★特に高校生は8割(78.0%)が認知していない	
●献血できる場所の認知	
Q3(P14) ★認知率は84.4%	
●献血への関心度	
Q4(P16) ★関心なし層は56.3%で、関心のない人がやや多い	
●献血が病気の治療に役立っていることの認知	
Q5(P18) ★認知率は40.7% 6割(59.3%)の人は認知していない	Q1(P72) ★認知率は66.4%
●血液製剤確保のために、絶えず献血が必要などの認知<新規質問>	
Q2(P20) ★認知率は46.5% 5割(53.5%)の人は認知していない ★特に高校生の6割(62.0%)が認知していない	Q2(P74) ★認知率は72.1%
●献血された輸血用血液製剤の使い道の認知<新規質問>	
Q7(P22) ★認知率は18.4% 8割(81.6%)の人は認知していない	Q3(P76) ★認知率は34.7% ★特に高校生の認知率(45.0%)が高い
●輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験<新規質問>	
Q8(P24) ★認知率は16.5% 8割(83.5%)の人は経験したことがない	Q4(P78) ★認知率は27.5% ★特に高校生の経験率(42.2%)が高い
●若年層の献血協力者の減少傾向の認知	
Q9(P26) ★認知率は32.5% 7割(67.5%)の人は認知していない ★20年度調査と比べて、認知率が37.3%→32.5%に低下	Q5(P80) ★認知率は52.9%
●献血に関する広報接触媒体	
Q10(P28) ★最も多いのは「献血バス」(53.4%) ★高校生は現場で接触率が低く、いずれの広告も「見たことがない」が13.1% ★高校生が最も接触している媒体は「テレビ」(42.7%)	Q6(P82) ★最も多いのは「献血バス」(64.7%) ★高校生は現場での接触が少なく、「テレビ」(56.7%)がトップの接触媒体
●献血キャンペーンに効果的だと思う媒体	
Q11(P30) ★「テレビ」(79.0%)が圧倒的に高い	Q7(P84) ★「テレビ」(78.7%)が圧倒的に高い
●献血キャラクター「けんげちゃん」認知	
Q12(P32) ★認知率は21.3% ★20年度調査と比べると、認知率は7.2%→21.3%と大幅に上昇 ★特に大学生・専門学校生(10.6%→29.9%)や女性(9.7%→28.2%)で大幅に上昇	Q8(P86) ★認知率は44.3% ★一般献血経験者の約2倍以上 ★特に大学生・専門学校生(57.3%)、高校生(56.1%)の認知率が高い ★17年度、20年度調査と比べると、認知率は大幅に上昇(10.9%→23.8%→44.3%)

献血未経験者	献血経験者
●献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象<新規質問>	
Q13(P34) ★「よい」が50.9%で半数。「わるい」は3.8%で好評価	Q9(P88) ★「よい」が58.4%で半数以上。「わるい」は3.0%で好評価
●献血キャンペーン認知	
Q14(P36) ★「はたちの献血キャンペーン」(24.3%)が最も認知されているキャンペーン ★一つもキャンペーンを知らない人は7割(68.6%) ★特に高校生(77.6%)と自営業(72.0%)で知らない人が多い	Q10(P90) ★「はたちの献血キャンペーン」(43.1%)が最も認知されているキャンペーン ★一つもキャンペーンを知らない人は4割(42.6%)
●「HOP STEP JUMP」を配布された記憶	
Q15(P38) ★認知率は29.8% ★投票で使用した経験がある人は2.1%	Q11(P92) ★認知率は15.1% ★投票で使用した人は5.3%
●献血では感染症に感染しないことの認知	
Q16(P40) ★認知率は48.6%。5割(51.4%)の人が認知していない ★20年度調査と比べて、認知率は59.1%→48.6%に低下	Q12(P94) ★認知率は72.4% ★20年度調査と比べて、認知率は78.4%→72.4%に低下
●血液製剤の海外血液依存の認知	
Q17(P42) ★認知率は10.8% ★9割(89.2%)が認知していない ★認知率は17年度調査より低下傾向(22.8%→14.5%→10.8%)	Q13(P96) ★認知率は20.3% ★8割(79.7%)が認知していない ★17年度、20年度調査と比べると、認知率は低下傾向(30.8%→25.3%→20.3%)
●献血ルームについて イメージ	
Q18(P44) ★「明るい」イメージは17.3%。「暗い」イメージが11.0%	
●献血ルームについて 雰囲気	
	Q14-1(P98) ★「明るい」が38.5%。「暗い」は5.7%で「明るい」と感じる人が大きく上回る
●献血ルームについて 広さ	
	Q14-2(P100) ★「広い」が22.2%。「狭い」は20.2%
●献血ルームについて 職員対応	
	Q14-3(P102) ★「良い」が48.4%。「悪い」は3.0%で「良い」と感じる人が大きく上回る
●献血ルームについて 記念品や軽食	
	Q14-4(P104) ★「良い」が43.6%。「悪い」は7.9%で「良い」と感じる人が大きく上回る
●献血についての要望・知りたいたいこと	
	Q15(P106) ★「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」(39.4%)が最も高い ★突出したものはない(要望は多岐にわたっている) ★大学生・専門学校生で「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(44.4% 1位/8項目中)。「進学や就職時」(献血の経験を考慮してほしい)(21.5% 8位/8項目中)が他層と比べて高い

17

献血未経験者	献血経験者
●初めて献血した場所	
	Q17(P110) ★「献血ルーム」(33.2%)が最も高い
●初めての献血の種類	
	Q18(P112) ★200ml献血が47.4%で半数 ★200ml献血は高校生(62.2%)と専業主婦(60.8%)で特に高い ★17年度、20年度調査と比べると、400ml献血が増え(18.9%→28.9→30.8%)、対して200ml献血が減っている(62.3%→51.8%→47.4%)
●今までの合計献血回数	
	Q21(P122) ★「1回」が33.8%。複数回献血者は66.2%
●クロス集計「初めて献血した場所」と「今までの合計献血回数」	
	Q21(P122) ★初めて献血した場所が、大学や職場の人に比べて高校で献血した人ほど献血頻度が高い
●クロス集計「家族の献血の有無」と「今までの合計献血回数」	
	Q21(P122) ★家族の献血現場を見たことがある人ほど本人の献血頻度が高まっている
●献血をしたことがない理由	
Q19(P46) ★「針を刺すのが痛くて嫌だから」が最も多い	
●献血するきっかけとなり得る要因	
Q20(P50) ★「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が最も多い ★高校生と大学生・専門学校生では「家族や友人などから勧められた」も高い	
●初めての献血のきっかけ	
	Q22(P124) ★「自分の血液が役に立ってほしいから」が最も多い
●現在献血するきっかけ	
	Q23(P126) ★「自分の血液が役に立ってほしいから」が最も多い
●初めての献血で400ml献血することへの不安<新規質問>	
Q21(P54) ★抵抗がある人は67.7%	Q19(P114) ★「特に不安を感じない」人が49.9% ★20年度調査と比べると、「不安」が上昇(26.4%→39.4%)
●家族が献血している姿を見たことがあるか	
Q22(P56) ★見たことが「ある」人は11.0%	Q24(P132) ★見たことが「ある」人は24.3% →献血未経験者の約2倍以上
●友人に献血している人がいるか	
Q21(P58) ★「いる」(32.8%)、「いない」(34.8%)、「わからない」(32.3%)で回答が分かれた	Q25(P134) ★6割(59.8%)が献血をしている友人が「いる」

18

献血未経験者	献血経験者
●高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか	
	Q26(P136) ★「非常に有効」(36.6%)と「どちらかと言えば有効」(47.5%)を合わせた有効層は84.1%
●クロス集計「初めて献血した場所」と「高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか」	
	Q26(P136) ★高校で初めて献血した人では有効層が91.4%にのぼり高い。特に「非常に有効」が全体の49.9%を占める
●献血の必要性への理解が良くなったか・理解の深まり	
Q24-1(P60) ★「はい」(27.6%)と「どちらかというとはい」(57.1%)を合わせた理解が良くなった層は84.7%	Q27-1(P138) ★「はい」(32.6%)と「どちらかというとはい」(57.7%)を合わせた理解が深まった層は90.3% ★高校生では「はい」が43.8%で特に評価が高い
●献血に協力する意識の有無・意識の高まり	
Q24-2(P62) ★「ある」(19.6%)と「どちらかというとはい」(43.4%)を合わせた意識がある層は59.0%	Q27-2(P140) ★「はい」(32.3%)と「どちらかというとはい」(54.4%)を合わせた意識が高まった層は86.9% ★意識が高まった層は高校生(90.0%)で最も高い
●今後実際に献血に行くか・献血回数の増加意向喚起	
Q24-3(P64) ★「はい」(7.5%)と「どちらかというとはい」(36.9%)を合わせた意向ありの層は44.4% ★特に高校生(49.6%)は半数近くが意向を喚起されている	Q27-3(P142) ★「はい」(28.9%)と「どちらかというとはい」(53.8%)を合わせた意向が喚起された層は82.7% ★意向が喚起された層は高校生(89.5%)で最も高い



I 調査概要 3

II 未経験者編

1. 対象者特性 (1)居住地・性別 (SC1/SC3) 7 (2)年齢・職業 (SC2/SC4) 8 (3)医療関係への関与有無 (SC5) 9 2. 献血に関する認知・関心度 (1)献血に関する認知程度 (Q1) 10 (2)献血の種類認知 (Q2) 12 (3)献血できる場所の認知 (Q3) 14 (4)献血への関心度 (Q4) 16 (5)献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q5) 18 (6)輸血用血液製剤の有効期限が短く、絶えず献血が必要であることを知っているか (Q6) 20 (7)献血された輸血用血液製剤の使い道認知 (Q7) 22 (8)輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験 (Q8) 24 (9)若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q9) 26 3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況 (1)献血に関する広報接触媒体 (Q10) 28 (2)献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q11) 30 (3)献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q12) 32 (4)献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象 (Q13) 34 (5)献血キャンペーン認知 (Q14) 36 (6)「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q15) 38 4. 感染症・血液製剤について (1)献血では感染症に感染しないことの認知 (Q16) 40 (2)血液製剤の海外血液依存の認知 (Q17) 42 5. 献血ルームのイメージ (1)献血ルームのイメージ (Q18) 44 6. 献血をしたことがない理由 (1)1位<最も大きな理由> (Q19) 46 (2)1位~3位累計 (Q19) 48 7. 献血するきっかけとなり得る要因 (1)1位<最も大きな要因> (Q20) 50 (2)1位~3位累計 (Q20) 52 8. 初めての献血について (1)初めての献血で400ml献血することへの不安意識 (Q21) 54 9. 家族・友人の献血状況 (1)家族の献血の有無 (Q22) 56 (2)友人の献血の有無 (Q23) 58 10. 献血に関する資料評価 (1)献血の必要性への理解が良くなったか (Q24-1) 60 (2)献血に協力する意識の有無 (Q24-2) 62 (3)今後の献血意向喚起 (Q24-3) 64 11. 若年層の献血協力意向を高めるアイデア (1)若年層の献血協力意向を高めるアイデア (Q25) 66

若年層献血意識調査

一結果報告書一

平成23年10月

厚生労働省

医薬食品局 血液対策課

III 経験者編

1. 対象者特性 (1)居住地・性別 (SC1/SC3) 71 (2)年齢・職業 (SC2/SC4) 72 (3)医療関係への関与有無 (SC5) 73



2. 献血に関する認知・関心度 (1)献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q1) 74 (2)輸血用血液製剤の有効期限が短く、絶えず献血が必要であることを知っているか (Q2) 76 (3)献血された輸血用血液製剤の使い道認知 (Q3) 78 (4)輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験 (Q4) 80 (5)若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q5) 82 3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況 (1)献血に関する広報接触媒体 (Q6) 84 (2)献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q7) 86 (3)献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q8) 88 (4)献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象 (Q9) 90 (5)献血キャンペーン認知 (Q10) 92 (6)「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q11) 94 4. 感染症・血液製剤について (1)献血では感染症に感染しないことの認知 (Q12) 96 (2)血液製剤の海外血液依存の認知 (Q13) 98 5. 献血ルームのイメージ (1)ルームの雰囲気について (Q14-1) 100 (2)ルームの広さについて (Q14-2) 102 (3)職員対応について (Q14-3) 104 (4)記念品や軽い飲食物について (Q14-4) 106 6. 献血についての要望・知りたいこと (1)献血についての要望・知りたいこと (Q15) 108 7. 初めての献血について (1)初めての献血した年齢 (Q16) 110 (2)初めての献血した場所 (Q17) 112 (3)初めての献血の種類 (Q18) 114 (4)初めての献血で400ml献血することへの不安意識 (Q19) 116 8. 献血回数について (1)過去1年間の200ml献血回数 (Q20-1) 118 (2)過去1年間の400ml献血回数 (Q20-2) 120 (3)過去1年間の成分献血回数 (Q20-3) 122 (4)今までの合計献血回数 (Q21) 124 9. 献血するきっかけ (1)初めての献血のきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q22) 126 (2)初めての献血のきっかけ「1位~3位累計」(Q22) 128 (3)現在献血するきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q23) 130 (4)現在献血するきっかけ「1位~3位累計」(Q23) 132 10. 献血する動機付けについて (1)家族の献血の有無 (Q24) 134 (2)友人の献血の有無 (Q25) 136 (3)高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか (Q26) 138 11. 献血に関する資料評価 (1)献血の必要性への理解の深まり (Q27-1) 140 (2)献血に協力する意識の高まり (Q27-2) 142 (3)献血回数の増加意向喚起 (Q27-3) 144 12. 若年層の献血協力意向を高めるアイデア (1)若年層の献血協力意向を高めるアイデア (Q28) 146

付)調査票/表示資料

I. 調査概要



調査目的

献血者数については、これまで減少傾向が引き続いてきたところであるが、平成20年以降、増加に転じ、これまでの献血者確保対策に一定の効果が見られているところである。しかしながら、10~20歳代の若年層の献血者数に目を転じてみると、同年代の人口減少の割合を上回る割合で減少し続け、依然として若年層の献血離れは深刻なものであり、将来の輸血医療に支障が生じることが懸念されていることから、若年層に対する普及、啓発をこれまで以上に重点的・効率的に行う必要性が生じている。そのため、若年層の献血に対する意識調査を実施し、平成17年度と平成20年度に行った同様の調査結果との比較を行うことにより、若年層の献血に対する意識等に変化があるのかどうかを検証し、検証結果を今後の若年層に対する献血推進のあり方の検討に資することを目的とする。

調査内容

- (1)若年層の献血への関心度や献血へのイメージを把握する。 (2)若年層の献血に関する認知度を把握する。 (3)若年層が献血を行った時期やきっかけを把握する。 (4)(1)~(3)について平成17年度、平成20年度の調査結果との比較を行う。

調査概要

【調査方法】 委託先調査会社が保有している一般消費者パネルに対して、インターネットを通じて質問(調査票)を送付し、回答を収集する。

【調査対象】 全国の16~29歳の献血経験者及び献血未経験者 ※献血経験者：過去に1度でも献血の経験がある者 ※献血未経験者：今まで1度も献血の経験がない者(採血前の検査で基準を満たさないため献血できなかった者を含む)

【対象者数】

献血経験者:5000名 献血未経験者:5000名 合計:10000名

※全国を右表の通り7ブロックに分け、各ブロックの若年層人口(16~29歳)の全国に占める割合を平成22年住民基本台帳年齢別人口のデータに基づき算出し、ブロックごとの回収数を決定した。

	合計	経験者	未経験者
合計	10,000	5,000	5,000
北海道	412	206	206
東北	706	353	353
関東甲信越	3,650	1,825	1,825
東海北陸	1,572	786	786
近畿	1,632	816	816
中国・四国	862	431	431
九州・沖縄	1,166	583	583

【調査期間】 平成23年10月6日(木)~10月12日(水)

<調査結果の見方>

- ・回答には、一つだけ選択するもの(単数回答)、いくつでも選択できるもの(複数回答)、自由に回答を記入(自由記述)するもの3種類がある。
- ・結果は、回答率(%)で表示している。回答率(%)は、その質問項目への回答者を母数として算出しており、母数は調査数(N)で示している。
- ・回答率(%)については、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。
- ・「単数回答」の結果は四捨五入で表示しているため、回答率(%)の合計数値が100.0%と異なる場合がある。
- ・「複数回答」の場合は、その回答率(%)の合計値は100.0%を超える場合がある。
- ・調査数(N)が、50以下は参考値である。
- ・結果の表中の **■** は前年度(23年度は20年度と比較、20年度は17年度と比較)と比較して5%以上高いもの、**■** は前年度と比較して5%以上低いものである。

II. 未経験者編

1. 対象者特性

【未経験者編】



(1)居住地・性別 (SC1/SC3)

- 【居住地】は「関東甲信越」が36.5%を占め、過去2回の調査と同様、中心となっている。以下、「近畿」(16.3%)、「東海北陸」(15.7%)の順で続き、全体構成も過去2回の調査と概ね変わらない。
- 【性別】は、全体では「男性」51.0%、「女性」49.0%とほぼ半々で20年度調査と概ね変わらない。17年度調査と比べて男性回答者が2割弱増えている。
- 【年齢】では、10代は「16～17歳」が9.5%、「18～19歳」が18.6%となり、合わせて28.1%を占める。「20～24歳」、「25～29歳」はそれぞれ36.0%を占める。過去2回調査に比べて10代の回答者が増えている。
- 【職業】では、「大学生・専門学校生」(31.9%)と「会社員」(27.4%)が中心であり、両層で6割弱を占める。20年度調査とは概ね同様の傾向となっている。17年度調査に比べて「大学生・専門学校生」が増え、「専業主婦」「その他」が減少した。
- 【医療関係への関与有無】では、「はい(携わっている)」と回答した人は8.0%で、過去2回調査と概ね変わらない。

居住地 (SC1)

	(N)	(%)				
		北海道	関東甲信越	東海北陸	近畿	中国・四国
		九州・沖縄				
全体	23年 (5000)	4.1	36.5	15.7	16.3	11.7
	20年 (5000)	2.2	36.5	15.6	16.3	11.7
	17年 (5000)	4.0	36.0	15.0	16.3	12.0

【基数:対象者全員】

性別 (SC3)

	(N)	(%)	
		男性	女性
		割合	割合
全体	23年 (5000)	51.0	49.0
	20年 (5000)	51.0	49.0
	17年 (5000)	48.8	51.2
北海道	23年 (210)	48.6	51.4
	20年 (210)	48.6	51.4
	17年 (200)	44.0	56.0
東北	23年 (353)	48.7	51.3
	20年 (355)	48.7	51.3
	17年 (350)	46.0	54.0
関東甲信越	23年 (1825)	51.2	48.8
	20年 (1825)	51.2	48.8
	17年 (1800)	48.3	51.7
東海北陸	23年 (786)	46.6	53.4
	20年 (780)	46.6	53.4
	17年 (750)	34.9	65.1
近畿	23年 (816)	51.0	49.0
	20年 (816)	51.0	49.0
	17年 (850)	49.5	50.5
中国・四国	23年 (431)	49.9	50.1
	20年 (431)	49.9	50.1
	17年 (450)	49.8	50.2
九州・沖縄	23年 (583)	49.4	50.6
	20年 (583)	49.4	50.6
	17年 (600)	49.2	50.8

【基数:対象者全員】



(2)年齢・職業 (SC2/SC4)

年齢 (SC2)

Table showing age distribution (SC2) by gender and region for years 2017, 2020, and 2023. Columns include age groups (16-17, 18-19, 20-24, 25-29) and counts.

【基数:対象者全員】

職業 (SC4)

【基数:対象者全員】

Table showing occupation distribution (SC4) by gender and region for years 2017, 2020, and 2023. Columns include occupation categories (High school, University, etc.) and percentages.



(3)医療関係への関与有無 (SC5)

SC5. あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

【基数:対象者全員】

Table showing involvement in medical fields (SC5) by gender and region for years 2017, 2020, and 2023. Columns include 'Yes' and 'No' counts and percentages.

2. 献血に関する認知・関心度



(1)献血についての認知程度 (Q1)

【献血について「よく知っている」人は約1割】

- 献血について「よく知っている」と回答した人は10.8%。「ある程度知っている」と回答した人(75.4%)も含めると認知率は86.2%で、献血について知っている人が9割弱を占める。
● 職業別では、高校生の認知率(81.3%)が他の層に比べて低い。
● 性別では、男性の認知率(83.5%)が女性の認知率(89.0%)と比べ6ポイント低い。
● 地域別では、大きな差はみられない。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、全体での認知率は19ポイント上昇した。しかし、23年度調査では20年度調査より7ポイント低下した。結果として23年度調査の認知率は、17年度調査よりは高いが、20年度調査よりは低くなった。職業別・性別・地域別でも各層概ね同様の傾向である。
➢ ただし職業別では、公務員の認知率が20年度調査と比べて11ポイント低くなっており、17年度調査の認知率よりも下回っている。また20年度調査と比べて自営業で「よく知っている」が9ポイント低下している。

2. 献血に関する認知・関心度



(1)献血についての認知程度 (Q1)

Q1. 献血について知っていますか。

【基数:対象者全員】

Table showing awareness of blood donation (Q1) by gender and region for years 2017, 2020, and 2023. Columns include 'Well known', 'Somewhat known', and 'Don't know' counts and percentages.

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(2) 献血の種類(※)の認知 (Q2)

【献血の種類(※)の認知率は4割弱】

- 献血の種類を「知っている」人は35.1%で、残りの6割以上の人は認知していない。
- 職業別では、公務員の認知率が46.2%で他の層に比べて高い。一方、高校生の76.0%が「知らない」と回答しており他の層と比べて認知率が低い。
- 性別では、男性の認知率(31.4%)が女性の認知率(38.9%)と比べて8ポイント下回っており低い。
- 地域別では、東北の認知率(41.6%)が他の地域と比べて高く、4割強にのぼる。

- 20年度調査と比べると、全体での認知率に大きな変化はみられない。
- 職業別では、専業主婦の認知率が20年度調査と比べて11ポイント低下し顕著。また自営業、高校生でもそれぞれ5ポイント程度、認知率が低下している。
- 地域別では、東北の認知率が20年度調査と比べて7ポイント低下している。

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(2) 献血の種類(※)の認知 (Q2)

Q2. 献血の種類(※)を知っていますか。

※ 献血の種類には、すべての血液の成分を採血する全血献血(200mlまたは400ml)と、必要な血液の成分だけを採血する成分献血(血漿成分献血または血小成分献血)があります。

【基数:対象者全員】	(N)	知っている		知らない
		20年	20年	
全体	(5000)	35.1	64.9	
高校生	(628)	24.0	76.0	
大学生・専門学校生	(1484)	29.1	70.9	
会社員	(1545)	37.9	62.1	
公務員	(85)	39.4	60.6	
自営業	(1545)	36.2	63.8	
専業主婦	(85)	39.3	60.7	
その他	(85)	46.2	53.8	
男性	(2556)	31.0	69.0	
女性	(2444)	38.9	61.1	
北海道	(210)	36.6	63.4	
東北	(355)	32.1	67.9	
関東甲信越	(1825)	42.9	57.2	
東海北陸	(780)	33.6	66.4	
近畿	(816)	40.3	59.7	
中国・四国	(431)	31.4	68.6	
九州・沖縄	(583)	34.3	65.7	
全体	(5000)	35.1	64.9	
高校生	(628)	24.0	76.0	
大学生・専門学校生	(1484)	29.1	70.9	
会社員	(1545)	37.9	62.1	
公務員	(85)	39.4	60.6	
自営業	(1545)	36.2	63.8	
専業主婦	(85)	39.3	60.7	
その他	(85)	46.2	53.8	
男性	(2556)	31.0	69.0	
女性	(2444)	38.9	61.1	
北海道	(210)	36.6	63.4	
東北	(355)	32.1	67.9	
関東甲信越	(1825)	42.9	57.2	
東海北陸	(780)	33.6	66.4	
近畿	(816)	40.3	59.7	
中国・四国	(431)	31.4	68.6	
九州・沖縄	(583)	34.3	65.7	

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(3) 献血できる場所の認知 (Q3)

【献血できる場所の認知率は8割強】

- 献血できる場所の認知率は、「よく知っている」人が25.0%で4人中1人が詳しい。また「ある程度知っている」(59.4%)を合わせた認知率は84.4%にのぼる。
- 職業別では、公務員の認知率(88.5%)が最も高く、対して高校生(77.8%)の認知率は他の層よりも低く、4人中1人が献血できる場所を知らない。
- 性別では、男性の認知率(79.5%)が女性の認知率(89.4%)と比べて10ポイント下回っており低い。
- 地域別では、概ね大きな差はみられないが、東海北陸の認知率(80.4%)が他の地域に比べてやや低い。

- 20年度調査と比べると、全体での認知率に大きな変化はみられない。
- 職業別では、専業主婦の認知率が20年度調査と比べて7ポイント低下している。
- 性別では、男性の認知率が20年度調査と比べてやや低下している。
- 地域別では、20年度調査と比べて認知率が、北海道で8ポイント、東北で5ポイント、近畿で6ポイント低下している。しかし「よく知っている」の回答では、北海道で7ポイント上昇している。

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(3) 献血できる場所の認知 (Q3)

Q3. 献血がどこでできるか知っていますか。(※)

※ 献血は、①献血ルーム、②献血バス、③血液センター、④会社や団体での出張献血です。

【基数:対象者全員】	(N)	よく知っている		認知計
		20年	20年	
全体	(5000)	25.0	15.7	84.4
高校生	(628)	24.5	12.2	87.7
大学生・専門学校生	(1484)	20.6	22.3	77.8
会社員	(1545)	21.9	17.9	82.1
公務員	(85)	28.7	12.1	87.9
自営業	(1545)	27.2	10.0	90.0
専業主婦	(85)	25.1	17.0	83.1
その他	(85)	24.7	13.4	86.6
男性	(2556)	29.8	11.5	88.5
女性	(2444)	27.1	10.6	88.4
北海道	(210)	21.4	19.6	80.3
東北	(355)	20.9	18.7	81.3
関東甲信越	(1825)	23.5	13.9	86.3
東海北陸	(780)	27.9	6.4	93.6
近畿	(816)	21.7	15.8	84.4
中国・四国	(431)	19.2	12.4	87.6
九州・沖縄	(583)	20.6	20.5	79.5
全体	(5000)	25.0	15.7	84.4
高校生	(628)	24.5	12.2	87.7
大学生・専門学校生	(1484)	20.6	22.3	77.8
会社員	(1545)	21.9	17.9	82.1
公務員	(85)	28.7	12.1	87.9
自営業	(1545)	27.2	10.0	90.0
専業主婦	(85)	25.1	17.0	83.1
その他	(85)	24.7	13.4	86.6
男性	(2556)	29.8	11.5	88.5
女性	(2444)	27.1	10.6	88.4
北海道	(210)	21.4	19.6	80.3
東北	(355)	20.9	18.7	81.3
関東甲信越	(1825)	23.5	13.9	86.3
東海北陸	(780)	27.9	6.4	93.6
近畿	(816)	21.7	15.8	84.4
中国・四国	(431)	19.2	12.4	87.6
九州・沖縄	(583)	20.6	20.5	79.5
全体	(5000)	25.0	15.7	84.4
高校生	(628)	24.5	12.2	87.7
大学生・専門学校生	(1484)	20.6	22.3	77.8
会社員	(1545)	21.9	17.9	82.1
公務員	(85)	28.7	12.1	87.9
自営業	(1545)	27.2	10.0	90.0
専業主婦	(85)	25.1	17.0	83.1
その他	(85)	24.7	13.4	86.6
男性	(2556)	29.8	11.5	88.5
女性	(2444)	27.1	10.6	88.4
北海道	(210)	21.4	19.6	80.3
東北	(355)	20.9	18.7	81.3
関東甲信越	(1825)	23.5	13.9	86.3
東海北陸	(780)	27.9	6.4	93.6
近畿	(816)	21.7	15.8	84.4
中国・四国	(431)	19.2	12.4	87.6
九州・沖縄	(583)	20.6	20.5	79.5



(4) 献血への関心度 (Q4)

【献血への関心度は4割強が「関心あり」層】

- 献血に対する関心度をみると、関心あり層は43.7%（非常に関心がある：6.0% + 関心がある：37.7%）に対して、関心なし層は56.3%（全く関心がない：12.5% + 特に関心がない：43.8%）を占め、関心がない人の方が多い。
- 職業別では、他の層に比べて専業主婦で関心あり層(49.7%)の割合が高く半数を占めるのに対し、公務員では35.5%にとどまり他の層と比べて関心がある人が少ない。
- 性別では、男性(34.8%)に比べて女性(52.8%)の関心度が高く、関心あり層の割合は男性を18ポイント上回る。
- 地域別では、九州・沖縄の関心度(50.4%)が他の地域に比べて高く、対して関東甲信越(39.6%)ではやや低くなっている。

- 20年度調査と比べると、全体での関心度に大きな変化はみられない。しかし、17年度調査と比べると、関心あり層が9ポイント低下している。
- 職業別では、公務員で17年度調査と20年度調査を比べると、関心あり層が8ポイント低下、23年度調査ではさらに8ポイント低下しており、年々関心が薄れている。
- 性別では、男女ともに17年度調査から関心あり層の割合が低下傾向。
- 地域別では、東北で「全く関心がない」層が20年度調査と比べて10ポイント上昇している。関東甲信越では17年度調査から関心あり層が低下傾向で、対して「全く関心がない」層が上昇傾向。



(4) 献血への関心度 (Q4)

Q4. 献血について関心がありますか。

【基数:対象者全員】	(N)	関心度				関心がある(計)	関心がない(計)
		非常に関心がある	関心がある	特に関心がない	全く関心がない		
全体	23年 (5000)	6.0	37.7	43.8	12.5	43.7	56.3
	20年 (5000)	5.2	40.7	45.5	8.6	45.9	54.1
	17年 (5000)	3.2	43.8	40.3	7.5	52.2	47.8
高校生	23年 (642)	3.9	34.4	41.4	18.3	43.3	56.7
	20年 (626)	7.5	39.5	44.6	8.5	47.0	53.0
	17年 (398)	12.8	46.7	34.2	6.3	59.5	40.5
大学生・専門学校生	23年 (1597)	6.6	41.8	41.9	9.8	48.4	51.7
	20年 (1484)	6.0	41.4	45.2	7.3	46.7	53.3
	17年 (932)	8.0	49.4	35.1	7.5	57.4	42.6
会社員	23年 (1368)	3.7	36.3	48.0	14.0	40.0	60.0
	20年 (1545)	3.1	39.4	47.6	9.6	42.7	57.3
	17年 (1596)	4.4	43.4	42.9	9.3	47.8	52.2
職業別	23年 (694)	3.2	31.7	47.1	17.8	41.8	58.2
	20年 (85)	4.7	38.8	45.9	10.6	44.5	55.5
	17年 (104)	3.2	48.1	43.3	4.8	51.9	48.1
自営業	23年 (168)	9.5	28.0	46.4	16.1	37.5	62.5
	20年 (134)	6.7	34.3	45.5	13.4	40.2	59.8
	17年 (115)	7.8	47.9	41.7	12.6	55.7	44.3
専業主婦	23年 (324)	5.3	43.8	39.8	10.5	49.7	50.3
	20年 (423)	5.4	38.0	42.3	13.3	53.4	46.6
	17年 (856)	3.4	46.7	41.5	5.7	52.8	47.2
その他	23年 (977)	5.9	34.8	46.7	12.7	40.7	59.4
	20年 (703)	5.0	40.0	44.4	10.7	45.7	54.3
	17年 (999)	5.3	44.3	41.9	7.6	50.5	49.5
性別	23年 (2843)	4.0	30.8	49.0	16.2	34.8	65.2
	20年 (2556)	3.0	34.5	51.4	11.2	38.7	61.3
	17年 (1888)	4.8	40.2	45.1	10.1	44.8	55.2
女性	23年 (2152)	8.0	29.6	38.5	3.7	52.8	47.2
	20年 (2444)	7.5	39.4	39.4	6.0	54.6	45.4
	17年 (3312)	7.9	46.7	37.8	8.2	56.0	44.0
北海道	23年 (206)	6.3	32.8	42.2	12.6	45.1	54.8
	20年 (210)	6.7	34.6	42.9	10.5	46.1	53.9
	17年 (200)	5.5	37.5	41.0	6.0	53.0	47.0
東北	23年 (193)	4.0	29.5	37.4	13.0	49.6	50.4
	20年 (355)	3.2	36.2	46.5	3.1	50.4	49.6
	17年 (350)	5.7	44.3	42.0	8.0	50.0	50.0
関東甲信越	23年 (1822)	4.9	34.7	45.6	14.7	39.6	60.3
	20年 (1825)	4.3	39.1	45.3	11.3	40.7	59.3
	17年 (1800)	5.7	45.5	41.1	7.8	51.1	48.9
地域別	23年 (765)	6.2	34.9	46.7	12.2	41.1	58.9
	20年 (780)	4.6	36.8	48.8	7.7	43.4	56.6
	17年 (750)	6.6	41.3	35.9	3.2	53.9	46.1
近畿	23年 (614)	7.1	35.8	41.9	11.6	46.4	53.5
	20年 (816)	5.3	34.9	46.7	7.8	44.0	56.0
	17年 (850)	3.8	35.5	40.8	6.8	52.6	47.4
中国・四国	23年 (431)	7.7	34.3	43.4	11.9	45.1	55.0
	20年 (431)	5.1	39.2	48.0	7.8	45.0	55.0
	17年 (450)	7.1	42.2	43.8	6.4	48.8	51.2
九州・沖縄	23年 (582)	7.2	33.2	42.0	7.5	50.4	49.5
	20年 (583)	7.3	33.2	38.9	7.8	53.5	46.5
	17年 (600)	7.5	46.8	37.5	6.8	55.7	44.3



(5) 献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q5)

【献血が病気の治療に役立っていることの認知率は4割】

- 献血がさまざまな病気の治療に役立っていることの認知率は40.7%。
- 職業別では、公務員の認知率(48.1%)が他の層と比べて高い。
- 性別での大きな差はみられない。
- 地域別では、東北の認知率が44.5%で最も高く、次いで中国・四国(43.6%)、九州・沖縄(42.4%)が高い。

- 20年度調査と比べると、全体での治療に役立っていることの認知率は7ポイント低下している。
- 職業別では、20年度調査と比べて、公務員を除く全ての層で認知率が低下している。
- 性別では、20年度調査と比べて、男女ともに認知率が7ポイント以上低下している。
- 地域別では、20年度調査と比べて、北海道で9ポイント、東海北陸で11ポイント、近畿で12ポイント認知率が低下しており顕著。



(5) 献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q5)

Q5. 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

【基数:対象者全員】	(N)	認知率	
		知っている	知らない
全体	20年 (5000)	40.7	59.3
高校生	20年 (626)	38.8	61.2
大学生・専門学校生	20年 (1484)	44.5	55.5
会社員	20年 (1545)	39.3	60.7
職業別	20年 (85)	46.3	53.7
公務員	20年 (85)	48.1	51.9
自営業	20年 (134)	48.2	51.8
専業主婦	20年 (423)	38.7	61.3
その他	20年 (703)	45.5	54.5
性別	20年 (2556)	40.9	59.1
女性	20年 (2444)	40.4	59.6
北海道	20年 (210)	38.8	61.2
東北	20年 (355)	44.5	55.5
関東甲信越	20年 (1825)	41.2	58.8
地域別	20年 (780)	46.1	53.9
東海北陸	20年 (780)	37.9	62.1
近畿	20年 (816)	49.8	50.2
中国・四国	20年 (431)	43.6	56.4
九州・沖縄	20年 (583)	42.4	57.6
	20年 (600)	49.6	50.4

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(6) 輸血用血液製剤の有効期限が短く、絶えず献血が必要なことを知っているか (Q6)

【献血が絶えず必要なことの認知率は5割弱】

<新規質問>

- 献血が輸血用血液製剤の有効期限が短いために絶えず必要であることの認知率は、46.5%で半数近くを占める。
- 職業別では、大学生・専門学校生(51.9%)と公務員(51.0%)の認知率が高く、対して高校生(38.0%)が他の層と比べて認知率が低い。
- 性別では、男性の認知率(43.0%)に比べて、女性の認知率(50.2%)が7ポイント高い。
- 地域別では、中国・四国(50.6%)と九州・沖縄(53.7%)の認知率が他の地域と比べて高く、半数以上の人が認知している。

20

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(6) 輸血用血液製剤の有効期限が短く、絶えず献血が必要なことを知っているか (Q6)

Q6. 献血された輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なことを知っていますか。
※血液製剤の有効期間は一番短い血小板製剤で採血後4日間、赤血球製剤は21日間です。

【基数：対象者全員】

	(N)	知っている	知らない
全体	(5000)	46.5	53.5
職業別			
高校生	(642)	38.0	62.0
大学生・専門学校生	(1597)	51.9	48.1
会社員	(1368)	44.4	55.6
公務員	(104)	51.0	49.0
自営業	(168)	43.5	56.5
専業主婦	(324)	45.4	54.6
その他	(797)	45.9	53.1
性別			
男性	(2548)	43.0	57.0
女性	(2452)	50.2	49.8
地域別			
北海道	(206)	47.6	52.4
東北	(353)	49.9	50.1
関東甲信越	(1825)	45.3	54.7
東海北陸	(786)	43.6	56.4
近畿	(816)	45.8	54.2
中国・四国	(431)	50.6	49.4
九州・沖縄	(583)	53.7	46.3

21

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(7) 献血された輸血用血液製剤の使い道認知 (Q7)

<新規質問>

【輸血用血液製剤の使い道の認知率は2割弱】

- 献血された輸血用血液製剤の使い道の認知率は18.4%。
- 職業別では、大学生・専門学校生(21.2%)と公務員(21.2%)の認知率が他の層と比べるとやや高い。
- 性別での大きな差はみられない。
- 地域別では、東北の認知率(22.4%)が他の地域と比べてやや高い。

22

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(7) 献血された輸血用血液製剤の使い道認知 (Q7)

Q7. 献血された輸血用血液製剤の使い道は、交通事故などの大量出血時よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことを知っていますか。
※約8割が病氣(うちがんの治療3割)に使われ、交通事故などによる輸血は約1割程度。

【基数：対象者全員】

	(N)	知っている	知らない
全体	(5000)	18.4	81.6
職業別			
高校生	(642)	18.8	81.2
大学生・専門学校生	(1597)	21.2	78.8
会社員	(1368)	16.7	83.3
公務員	(104)	21.2	78.8
自営業	(168)	16.7	83.3
専業主婦	(324)	17.3	82.7
その他	(797)	15.7	84.3
性別			
男性	(2548)	17.3	82.7
女性	(2452)	19.5	80.5
地域別			
北海道	(206)	18.9	81.1
東北	(353)	22.4	77.6
関東甲信越	(1825)	16.8	83.2
東海北陸	(786)	19.0	81.0
近畿	(816)	18.1	81.9
中国・四国	(431)	21.3	78.7
九州・沖縄	(583)	17.8	82.2

23

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(8) 輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験 (Q8)

<新規質問>

【患者の感謝の気持ちを目や耳にした人は2割弱】

- 輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験のある人は16.5%。
- 職業別では、公務員の経験率(21.2%)が他の層と比べてやや高く、対して自営業の経験率(11.9%)が他の層と比べてやや低い。
- 性別での大きな差はみられない。
- 地域別では、東北での経験率(21.5%)が他の地域と比べてやや高い。

24

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(8) 輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験 (Q8)

Q8. 輸血の医療を受けた多くの患者さんは、献血をしてくれた方に感謝(献血してくれてありがとう)の気持ちを持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか。

【基数:対象者全員】		(N)	ある	ない
全体		(5000)	16.5	83.5
職業別	高校生	(642)	18.4	81.6
	大学生・専門学校生	(1597)	18.3	81.7
	会社員	(1368)	15.2	84.8
	公務員	(104)	21.2	78.8
	自営業	(168)	11.9	88.1
	専業主婦	(324)	17.0	83.0
	その他	(797)	13.9	86.1
性別	男性	(2548)	14.8	85.2
	女性	(2452)	16.4	81.6
地域別	北海道	(206)	13.6	86.4
	東北	(353)	21.5	78.5
	関東甲信越	(1825)	16.3	83.7
	東海北陸	(786)	15.4	84.6
	近畿	(816)	14.3	85.7
	中国・四国	(431)	18.1	81.9
	九州・沖縄	(583)	18.7	81.3

25

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(9) 若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q9)

【若年層の献血協力者が減少していることの認知率は3割強】

- 献血へ協力してくれる10代・20代の若年層が大幅に減少していることを「知っている」人は32.5%で3人中1人。
- 職業別では、公務員の認知率(44.2%)が他の層に比べて高い。その他の層では3割程度の認知率にとどまる。
- 性別での大きな差はみられない。
- 地域別では、東北の認知率(38.5%)が他の地域と比べて高い。

- > 20年度調査と比べると、全体での若年層の献血協力者が減少していることの認知率は5ポイント低下している。
- > 職業別では、20年度調査と比べると、公務員と自営業の認知率が9ポイント低下しており顕著。
- > 性別では、20年度調査と比べると、男性の認知率が6ポイント低下している。
- > 地域別では、20年度調査と比べると、東海北陸、近畿、中国・四国の認知率がそれぞれ6ポイント低下している。

26

2. 献血に関する認知・関心度

【未経験者編】



(9) 若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q9)

Q9. 献血へ協力していただける若い方の数が、近年大幅に減っています(*). 知っていましたが、*最近5年間で、20代の献血者数は140万人から108万人(23%減)に、10代の献血者数は48万人から29万人(40%減)も減少しています。

【基数:対象者全員】		(N)	知っている	知らない
全体	20年	(5000)	32.5	67.5
	20年	(5000)	37.3	62.7
高校生	20年	(628)	31.9	68.1
	20年	(628)	33.7	66.3
大学生・専門学校生	20年	(1484)	34.0	66.0
	20年	(1484)	40.2	59.8
会社員	20年	(1545)	31.0	69.0
	20年	(1545)	36.7	63.3
公務員	20年	(65)	44.2	55.8
	20年	(65)	52.9	47.1
自営業	20年	(134)	27.4	72.6
	20年	(134)	38.6	63.4
専業主婦	20年	(423)	29.9	70.1
	20年	(423)	35.7	64.3
その他	20年	(703)	32.9	67.1
	20年	(703)	34.6	65.4
男性	20年	(2556)	31.4	68.6
	20年	(2556)	37.0	63.0
女性	20年	(2444)	33.6	66.5
	20年	(2444)	37.5	62.5
北海道	20年	(210)	34.0	66.0
	20年	(210)	39.5	60.5
東北	20年	(353)	38.5	61.5
	20年	(353)	42.8	57.2
関東甲信越	20年	(1825)	31.8	68.2
	20年	(1825)	35.5	64.5
東海北陸	20年	(786)	30.7	69.3
	20年	(786)	36.9	63.1
近畿	20年	(816)	31.5	68.5
	20年	(816)	37.9	62.1
中国・四国	20年	(431)	34.1	65.9
	20年	(431)	40.1	59.9
九州・沖縄	20年	(583)	32.8	67.2
	20年	(583)	36.2	63.8

27



(1) 献血に関する広報接触媒体 (Q10)

【献血に関する広告は「献血バス」「街頭での呼びかけ」の接触が多い】

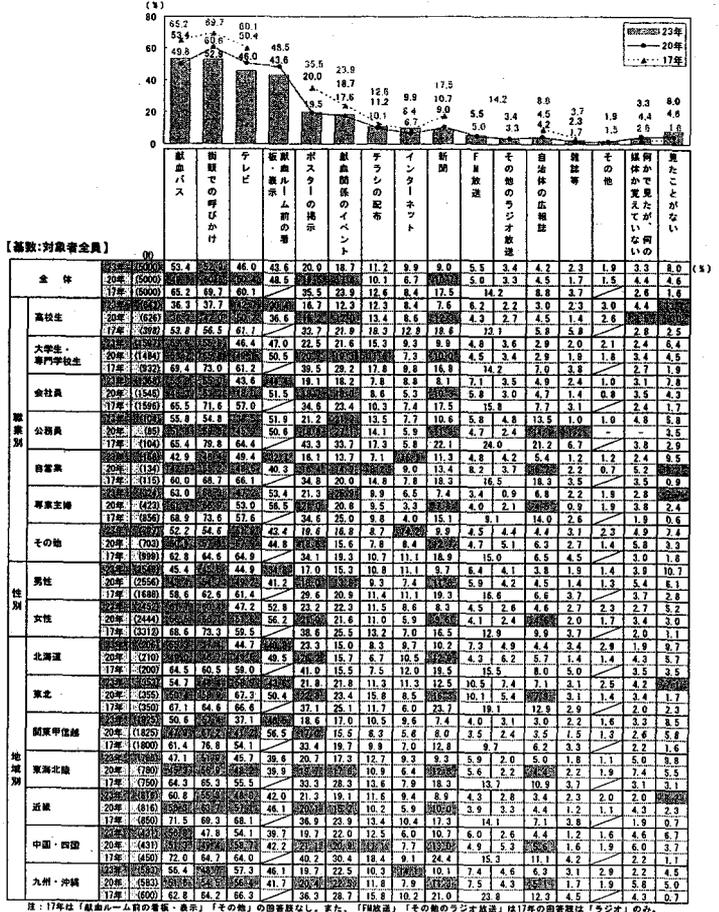
- 献血に関して接触したことがある広報媒体をみると、「献血バス」が53.4%で最も高く、次いで「街頭での呼びかけ」(52.9%)、「テレビ」(46.0%)、「献血ルーム前の看板・表示」(43.6%)と続く。その他の媒体の接触率は2割以下となる。
- 職業別では、「献血バス」は大学生・専門学校生(59.6%)と専業主婦(63.0%)が高い。また専業主婦は「街頭での呼びかけ」(58.3%)「献血ルーム前の看板・表示」(53.4%)も高く、現場での接触が目立つ。自営業は「テレビ」(49.4%)が接触率が最も高い広告であることが特徴的。一方、高校生は「献血バス」(36.3%)、「街頭での呼びかけ」(37.7%)、「献血ルーム前の看板・表示」(30.4%)、「献血関係のイベント」(12.3%)など、他の層と比べて総じて接触率が低く、いずれの広告も「見たことがない」人が13.1%と高い。「テレビ」に関しては高校生の42.7%が接触しており、高校生の最も接触率が高い広告である。
- 性別では、女性で特に「献血バス」(61.7%)、「街頭での呼びかけ」(60.4%)、「献血ルーム前の看板・表示」(52.8%)といった現場での接触率が男性に比べて高い。
- 地域別では、「街頭での呼びかけ」は北海道(37.4%)で特に低く、中国・四国(47.8%)も他の地域と比べて低い。「テレビ」は東北(58.9%)、中国・四国(54.1%)、九州・沖縄(57.3%)で他の地域と比べて高く、関東甲信越(37.1%)で低い。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、各媒体で総じて接触率が低下している。20年度調査と23年度調査を比べると、「街頭での呼びかけ」において8ポイント接触率が低下している。
- 属性別では、17年度調査と20年度調査を比べると、職業別・性別・地域別の各層で主要媒体の接触率は、概ね低下している。23年度調査は20年度調査と比べて、「献血バス」が大学生・専門学校生、会社員、性別では女性、地域では北海道、中国・四国で接触率が上昇したが、いずれも17年度調査の接触率は下回る。「インターネット」は自営業、地域では九州・沖縄で接触率が上昇しており、過去2回調査の接触率を上回っている。
- 職業別・性別・地域別の各層で総じていずれの広告媒体も「見たことがない」人が17年度調査より増加傾向にある。



(1) 献血に関する広報接触媒体 (Q10)

Q10. 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたこと)がありますか。(いくつでも)



(2) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q11)

【献血キャンペーンに効果的な媒体は「テレビ」が8割弱】

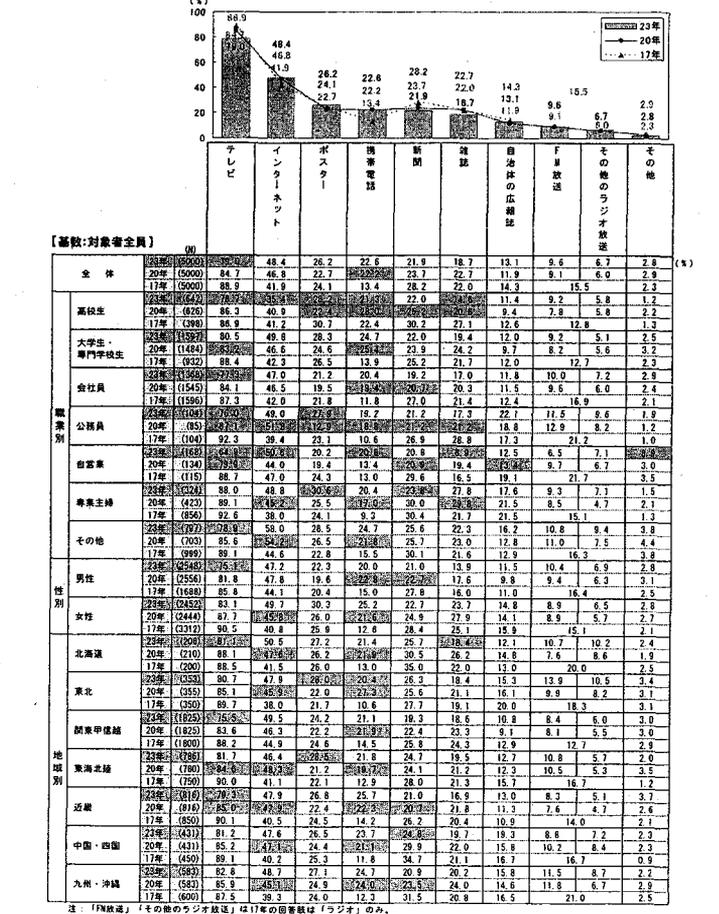
- 献血のキャンペーンを行う際に効果的と思われる媒体は、「テレビ」が79.0%で圧倒的に高い。次いで「インターネット」が48.4%。以下、「ポスター」(26.2%)、「携帯電話」(22.6%)、「新聞」(21.9%)が続く。
- 職業別では、各層とも「テレビ」「インターネット」が上位1位と2位を占める。その中で高校生は「インターネット」(35.4%)が他の層と比べて低い。専業主婦は「テレビ」が圧倒的に高く(88.0%)にのぼる。対して自営業では「テレビ」(64.9%)が他の層に比べて低い。
- 性別では、男性よりも女性の方が「テレビ」(83.1%)、「ポスター」(30.3%)、「携帯電話」(25.2%)、「雑誌」(23.7%)などを挙げる割合が高い。
- 地域別では、関東甲信越では「テレビ」(75.5%)が、他の地域と比べてやや低い。

- 過去2回調査と比べると、「テレビ」と「新聞」において効果的と考えられる割合が低下傾向である。対して「インターネット」においては上昇傾向がみられる。
- 職業別では、20年度調査と比べて、高校生で「テレビ」「インターネット」「携帯電話」「雑誌」を効果的と考える割合が低下しているが、「ポスター」に関しては上昇している。会社員や公務員、自営業などの勤労者では特に、17年度調査から「テレビ」を挙げる割合が顕著に低下傾向にあるが、一方「携帯電話」を効果的と考える人が増えている。
- 性別では、女性で「インターネット」「携帯電話」を効果的と考える割合が17年度調査から上昇傾向にある。
- 地域別では、特に関東甲信越と近畿において「テレビ」を挙げる割合が17年度調査から低下傾向にある。



(2) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q11)

Q11. 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか。(いくつでも)



3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況 【未経験者編】



(3) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q12)

【けんけつちゃんの認知率は2割強】

- 献血キャラクター けんけつちゃんの認知率は21.3%で4人中1人に認知されている。
 - 職業別では、高校生(26.3%)、大学生・専門学校生 (29.9%) といった学生と公務員(25.0%)の認知率が他の層と比べて高い。
 - 性別では、女性の認知率(28.2%)が男性の認知率(14.6%)と比べて14ポイント高く、認知されている。
 - 地域別では、東北の認知率が30.6%で他の地域と比べて10ポイント程度高い。
- 20年度調査と比べると、全体での認知率は14ポイント上昇し、23年度調査の認知率は2割を超えた。
 職業別では、各層とも17年度調査より認知率が上昇傾向にあるが、特に高校生、大学生・専門学校生、公務員での上昇率が高い。
 性別では、女性の認知率が20年度調査と比べて19ポイントと大幅に上昇している。
 地域別では、東北の認知率の上昇が顕著で20年度調査と比べて18ポイント上昇している。

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況 【未経験者編】



(3) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q12)

Q12. 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

【基数:対象者全員】

全体	年次	(N)	知っている	
			知っている	知らない
全体	23年	(6000)	21.3	78.7
	20年	(5000)	7.2	92.8
	17年	(5000)	8.0	92.0
高校生	23年	(642)	26.3	73.7
	20年	(626)	12.0	88.0
	17年	(398)	6.0	94.0
大学生・専門学校生	23年	(1597)	29.9	70.1
	20年	(1454)	13.6	86.4
	17年	(932)	8.5	91.5
会社員	23年	(1568)	25.0	75.0
	20年	(1545)	8.3	91.7
	17年	(1596)	8.0	92.0
公務員	23年	(85)	25.0	75.0
	20年	(85)	7.1	92.9
	17年	(104)	6.7	93.3
自営業	23年	(168)	15.5	84.5
	20年	(134)	8.2	91.8
	17年	(115)	7.8	92.2
専業主婦	23年	(324)	13.9	86.1
	20年	(423)	8.8	91.2
	17年	(856)	8.0	92.0
その他	23年	(297)	16.1	83.9
	20年	(703)	4.4	95.6
	17年	(999)	4.0	96.0
性別	23年	(513)	14.6	85.4
	20年	(2556)	4.8	95.2
	17年	(1688)	4.0	96.0
女性	23年	(452)	28.2	71.8
	20年	(2444)	9.7	90.3
	17年	(3112)	8.5	91.5
地域別	23年	(200)	10.5	89.5
	20年	(210)	3.0	97.0
	17年	(200)	3.0	97.0
北海道	23年	(35)	30.6	69.4
	20年	(455)	17.2	82.8
	17年	(350)	4.0	96.0
関東甲信越	23年	(825)	20.0	80.0
	20年	(1620)	7.2	92.8
	17年	(1600)	8.0	92.0
東海北陸	23年	(962)	21.3	78.7
	20年	(780)	7.0	93.0
	17年	(750)	7.0	93.0
近畿	23年	(611)	20.0	80.0
	20年	(816)	5.0	95.0
	17年	(650)	5.0	95.0
中国・四国	23年	(431)	20.0	80.0
	20年	(431)	8.0	92.0
	17年	(450)	8.0	92.0
九州・沖縄	23年	(83)	20.4	79.6
	20年	(583)	5.7	94.3
	17年	(600)	6.0	94.0

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況 【未経験者編】



(4) 献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象 (Q13)

【けんけつちゃんの印象は半数が「よい」】

<新規質問>

- 献血キャラクター けんけつちゃんを知っている人にけんけつちゃんの印象をたずねたところ、「よい」と感じている人が50.9%で半数。「わるい」は3.8%であった。
- 職業別では、公務員、自営業、専業主婦は回答者数が少ないため、参考値。高校生、大学生・専門学校生では会社員と比べて「どちらともいえない」と回答する人が少なく、関心を持たれている。
- 性別では、「よい」と感じている人が男性(43.4%)に比べて女性(55.0%)で12ポイント高い。
- 地域別では、大きな差はみられない。なお、北海道は回答者数が少ないため、参考値。

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況 【未経験者編】



(4) 献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象 (Q13)

Q13. Q12で「けんけつちゃん」を知っていると答えた方へお聞きします。献血推進のキャラクターとして「けんけつちゃん」の印象を教えてください。

【基数:「けんけつちゃん」知っている人】

全体	年次	(N)	印象	
			よい	どちらともいえない
全体	23年	(1064)	50.9	45.3
	20年	(169)	50.9	41.4
	17年	(477)	53.2	43.8
高校生	23年	(201)	42.3	56.2
	20年	(26)	42.3	50.0
	17年	(16)	37.5	50.0
大学生・専門学校生	23年	(47)	68.1	31.9
	20年	(128)	53.1	43.0
	17年	(128)	53.1	43.0
会社員	23年	(373)	43.4	49.9
	20年	(691)	55.0	42.8
	17年	(691)	55.0	42.8
性別	23年	(34)	58.8	41.2
	20年	(108)	51.9	42.6
	17年	(380)	49.5	47.1
地域別	23年	(169)	52.7	44.4
	20年	(164)	51.2	45.1
	17年	(90)	48.9	45.6
北海道	23年	(119)	51.3	44.5
	20年	(119)	51.3	44.5
	17年	(600)	6.0	94.0



(5) 献血キャンペーン認知 (Q14)

【最も認知されている献血キャンペーンは「はたちの献血」で2割強】

- 献血に関するキャンペーンを知っているかたずねたところ、「はたちの献血キャンペーン」の認知率が他のキャンペーンと比べて高く、24.3%となった。その他のキャンペーンの認知は1割程度以下で、一つもキャンペーンを知らない人が68.6%と7割弱にのぼる。
- 職業別では、一つもキャンペーンを知らない人の割合が高校生で77.6%、自営業で72.0%にのぼり、他の層と比べて高い。公務員の認知率は「はたちの献血キャンペーン」(29.8%)、「LOVE in Actionキャンペーン」(14.4%)、「愛の血液助け合い運動」(10.6%)のいずれのキャンペーンも、他の層と比べて最も高かった。
- 性別では、女性でいずれかのキャンペーンを認知している割合(38.4%)は男性(24.7%)に比べて14ポイント高い。特に「はたちの献血キャンペーン」の認知率が男性(18.1%)と比べて女性(30.7%)で高い。
- 地域別では、東北のキャンペーン認知率が高く、特に「はたちの献血キャンペーン」(33.7%)と「LOVE in Actionキャンペーン」(21.2%)において他の地域よりも認知されている。

<参考:17年度・20年度調査結果>

※17年度調査及び20年度調査ではキャンペーンを「知っている」「知らない」のうち1つを選択することにより回答。

【基数:対象者全員】

年齢	性別	職業別	地域別	知っている		知らない
				20年	17年	
全体				24.3	24.3	68.6
高校生				8.1	13.2	77.6
大学生・専門学校生				12.3	24.4	66.9
会社員				11.3	27.4	68.4
公務員				14.4	29.8	61.5
自営業				8.3	19.6	72.0
専業主婦				12.3	32.4	63.3
その他				9.3	25.6	70.6
男性				9.0	18.1	75.3
女性				12.8	30.7	61.6
北海道				11.7	24.8	68.9
東北				21.2	33.7	56.4
関東甲信越				8.8	22.6	70.9
関東北陸				8.5	19.7	74.2
近畿				8.4	25.7	67.9
中国・四国				11.6	25.5	65.9
九州・沖縄				15.8	26.8	64.0

<参考:印象に残った具体的なキャッチフレーズ、メッセージ>

【基数:キャンペーン認知者】

25年度調査 キャンペーン認知者 (n)	1571
印象に残ったフレーズ等なし/覚えていない	72.6%
印象に残ったフレーズ等/記憶あり	27.4%

記憶された具体的なフレーズ/メッセージ等
(記憶が多かったもの)

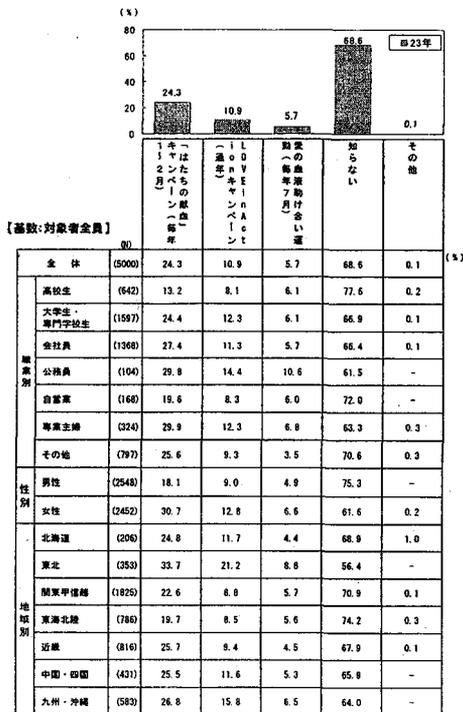
はたちの献血
LOVE in Action
石川遼が出ていたCM、ポスター
血液を必要としている人がいます
一型は血液が不足しています
あなたの献血で救われる命があります
CM
献血は愛
ぼくも、いのちの、助けになれる
献血で助け合しましょう



(5) 献血キャンペーン認知 (Q14)

Q14. 献血に関するキャンペーンを知っていますか。(いくつでも)

(キャンペーン認知者に対し)献血に関するキャンペーンで、印象に残ったキャッチフレーズやメッセージがあれば、ご記入下さい。



(6) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q15)

【HOP STEP JUMPを配布された人は1割】

- 高校3年生を対象に、「HOP STEP JUMP」という普及啓発資料が配布されていることを認知している人は9.8%で1割。授業で使用した経験がある人は2.1%にとどまる。
- 職業別では、高校生(16.5%)と大学生・専門学校生(17.5%)が他の層と比べて高いものの、2割弱にとどまる。
- 性別による大きな差はみられない。
- 地域別では、東北の認知率が14.4%で、他の地域と比べて高い。

- 過去2回調査と比べると、全体では大きな変化はみられない。
- 職業別では、大学生・専門学校生において、17年度調査より認知率が上昇傾向にある。
- 性別では、大きな変化はみられない。
- 地域別では、東北において、17年度調査より認知率が上昇傾向にある。



(6) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q15)

Q15. 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資料「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

【基数:対象者全員】

年齢	性別	職業別	地域別	配布された記憶		知らない	認知計
				配布されただけ	授業等で使用した		
全体				9.2	2.1	88.7	11.3
高校生				16.5	12.0	71.5	28.5
大学生・専門学校生				17.5	13.8	68.7	31.3
会社員				3.5	1.1	95.4	4.6
公務員				8.2	5.9	85.9	14.1
自営業				5.4	1.3	93.3	6.7
専業主婦				6.4	3.2	90.4	9.6
その他				4.5	2.2	93.3	6.7
男性				9.2	3.1	87.7	12.3
女性				10.3	3.2	86.5	13.5
北海道				7.8	2.0	90.2	9.8
東北				14.4	11.9	73.7	26.3
関東甲信越				8.0	6.0	86.0	14.0
関東北陸				8.4	7.5	84.1	15.9
近畿				7.5	5.6	86.9	13.1
中国・四国				6.8	5.3	87.9	12.7
九州・沖縄				7.0	4.8	88.2	12.8



(1) 献血では感染症に感染しないことの認知 (Q16)

【献血では感染症に感染しないことの認知率は5割弱】

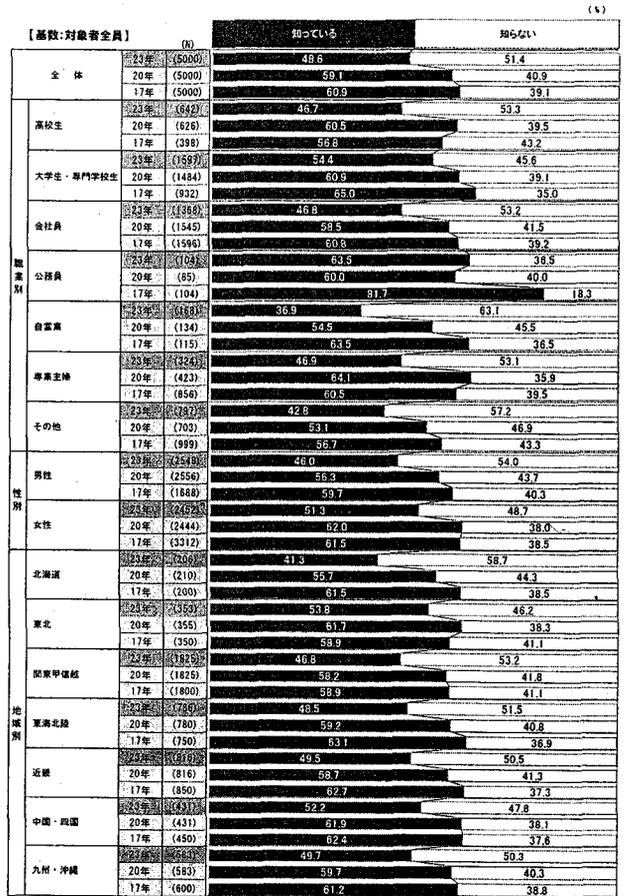
- 献血でエイズ、肝炎といった感染症に感染しないことを認知している人は48.6%。
- 職業別では、大学生・専門学校生の認知率(54.4%)と公務員の認知率(63.5%)が他の層と比べて高く、一方自営業の認知率(36.9%)は他の層と比べて低い。
- 性別では、女性の認知率(51.3%)が男性の認知率(46.0%)に比べて5ポイント高い。
- 地域別では、北海道の認知率(41.3%)が他の地域と比べて低く、一方東北の認知率(53.8%)は他の地域と比べて高い。

- 17年度調査と20年度調査では全体での認知率に大きな変化はみられなかったが、23年度調査では全体の認知率は11ポイント低下した。
- 職業別では、20年度調査と比べると、公務員以外の層で認知率が低下している。特に自営業、専業主婦ではそれぞれ17ポイント以上低下しており顕著。
- 性別・地域別では、いずれの層も20年度調査と比べると認知率が大幅に低下している。



(1) 献血では感染症に感染しないことの認知 (Q16)

Q16. 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。



(2) 血液製剤の海外血液依存の認知 (Q17)

【血液製剤の海外血液依存の認知率は1割】

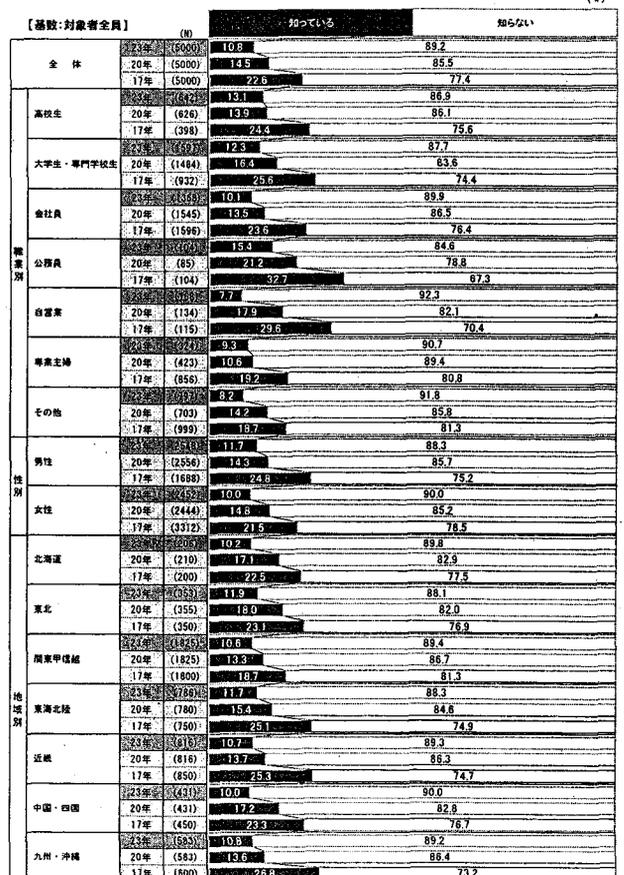
- 血液製剤は未だ海外の血液に依存しているということを認知している人は10.8%で1割にとどまる。
- 職業別では、公務員の認知率(15.4%)が他の層と比べてやや高い。
- 性別・地域別による大きな差はみられない。

- 過去2回調査と比べると、全体の認知率は低下傾向にあり、23年度調査は17年度調査から12ポイント認知率が低下している。
- 職業別では、特に公務員と自営業で17年度調査と23年度調査を比べると認知率が17ポイント以上低下しており顕著である。
- 職業別、性別、地域別のいずれの層も、17年度調査から認知率が低下傾向にある。



(2) 血液製剤の海外血液依存の認知 (Q17)

Q17. 血液製剤(*)は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。
*重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ58%台である。





(1) 献血ルームのイメージ (Q18)

【献血ルームのイメージは「明るい」イメージが「暗い」イメージを上回る】

- 献血ルームのイメージについては、「ふつう」の印象を持っている人が41.4%を占め、最多、「明るい」イメージは17.3%に対して、「暗い」イメージが11.0%と、「明るい」イメージが「暗い」イメージを上回る。その一方で、3割(30.3%)の人は「わからない」と回答している。
● 職業別では、いずれの層も「明るい」イメージが「暗い」イメージを上回っている。
● 性別では、「明るい」イメージを持っている割合は男性(14.4%)に比べて女性(20.3%)が高い。
● 地域別では、「明るい」イメージは東北(22.7%)と九州・沖縄(23.3%)で他の地域に比べて高く、2割を超える。

- 20年度調査と比べると、全体では「明るい」と「わからない」が上昇した一方、「ふつう」と「暗い」が低下した。
➢ 職業別では、20年度調査と比べると、いずれの層も「明るい」イメージが上昇し、「暗い」イメージが低下している。
➢ 性別では、20年度調査と比べると、男性で「明るい」イメージが5ポイント上昇し、一方「暗い」イメージが5ポイント低下しており、評価が高くなっている。
➢ 地域別では、20年度調査と比べると、東北と九州・沖縄で「明るい」イメージが8ポイント上昇している。

6. 献血をしたことがない理由



(1) 1位<最も大きな理由> (Q19)

【献血したことがない1番の理由は「針を刺すのが痛くて嫌だから」が1割強】

- 献血をしたことがない理由を大きい順に3つまで選んでもらったところ、1位の理由(最も大きな理由)として挙げられたのは「針を刺すのが痛くて嫌だから」がトップで12.2%。次いで「健康上出来ないと思ったから」(9.3%)、「なんとなく不安だから」(8.4%)、「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」(7.4%)、「恐怖心」(6.3%)などが1割弱で続く。また献血をしたことがない理由が「わからない」人が10.4%にのぼり、1割の人が特別に理由がなく献血に協力した経験がないといえる。
● 職業別では、専業主婦で「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」(16.7%)が他の層と比べて高く、トップの理由となっている。一方高校生は、理由が「わからない」人が20.4%と2割にのぼり、他の層と比べて高い。
● 性別では、男性と比べて女性において「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」(12.2%)が高く、一方男性は女性に比べて理由が「わからない」人(13.8%)が高い。
● 地域別では、近畿で「なんとなく不安だから」(12.0%)とする割合が他の地域に比べてやや高い。

- 過去2回調査と比べると、全体では理由が「わからない」人が17年度調査より上昇傾向にある。
➢ 職業別では、高校生で理由が「わからない」人が、20年度調査と23年度調査を比べて15ポイント上昇しており顕著。
➢ 性別では、男性において17年度調査より「わからない」人が上昇傾向にある。
➢ 地域別では、東北で「近くに献血する場所や機会がなかったから」「献血している所に入りづらかったから」が20年度調査と比べて低下している。



(1) 献血ルームのイメージ (Q18)

Q18. 献血ルームのイメージを教えてください。

Table with columns for age, gender, occupation, and region, and rows for 'bright', 'normal', 'dark', and 'don't know' categories. Includes a small bar chart for 'don't know' responses.

注: 17年は「わからない」の回答数なし。

6. 献血をしたことがない理由



(1) 1位<最も大きな理由> (Q19)

Q19. 献血したことがないのはどのような理由からですか。理由の大きい順に3つまでお選びください。(それぞれ1つずつ)

Table with columns for age, gender, occupation, and region, and rows for various reasons for not donating blood. Includes a small bar chart for 'don't know' responses.

注: 17年は「その他」の回答数なし。

6. 献血をしたことがない理由

【未経験者編】



(2)1位~3位累計 (Q19)

【献血したことがない理由(累計)は「針を刺すのが痛くて嫌だから」が3割弱】

- 献血をしたことがない理由を1位~3位の累計でみると、「針を刺すのが痛くて嫌だから」がトップで27.7%。次に「いざとならなく不安だから」(25.9%)、「恐怖心」(22.4%)、「時間がかかりそうだから」(20.1%)が続き、高い理由となっている。
職業別では、高校生で「近くに献血する場所や機会がなかったから」(20.1%)がやや高い。大学生は他の層に比べて「針を刺すのが痛くて嫌だから」(30.6%)、「いざとならなく不安だから」(28.8%)、「時間がかかりそうだから」(22.9%)、「忙しくて献血する時間がなかったから」(17.8%)がやや高い。なお、専業主婦では1位の理由と同様に、「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」(21.9%)が他の層より高い。
性別では、女性で「健康上出来なかったから」(23.0%)、「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」(15.3%)という理由が男性に比べて高い。一方男性は「時間がかかりそうだから」(23.1%)、「血を採られるという感じが嫌だ」(19.8%)、「献血する意思がない」(15.0%)という理由が女性に比べて高い。
地域別では、近畿で「献血している所に入りづらかったから」(16.1%)が他の地域と比べてやや高い。

- 20年度調査と比べると、全体では「献血している所に入りづらかったから」が6ポイント低下し、「わからない」が14ポイント上昇した。
職業別では、過去2回調査と比べて専業主婦では「いざとならなく不安だから」「近くに献血する場所や機会がなかったから」「献血している所に入りづらかったから」といった理由が低下し、「献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた」や「海外渡航歴等による献血制限で献血したくてもできない」といった理由が上昇した。高校生では「針を刺すのが痛くて嫌だから」「いざとならなく不安だから」「近くに献血する場所や機会がなかったから」「献血している所に入りづらかったから」といった理由がそれぞれ5ポイント以上、20年度調査と比べて低下している。
性別では、男性も女性も過去2回調査と比べて「献血している所に入りづらかったから」が低下している。
地域別では、全ての地域で20年度調査と比べて「献血している所に入りづらかったから」が低下している。北海道では「恐怖心」が20年度調査と比べて6ポイント上昇している。

<参考>献血をしたことがない理由(その他の記述)

Table with 2 columns: Reason (献血をしたことがない理由(その他の記述)), Count (記数が多かったもの). Rows include: 貧血体質のため, 採血後具合が悪くなるから, メリットがない/お金がもたらえない, などなど/面倒くさい/人を教えることに興味がない, 献血の際の事故が怖い/衛生面で不安, 無料採取された血液を販売して利益をあげているから, 体調が悪くなるか心配, 採血しにくい血管だから, 体重制限があるから, 注射、採血が苦手/血管が苦手.

6. 献血をしたことがない理由

【未経験者編】



(2)1位~3位累計 (Q19)

Q19. 献血をしたことがない理由を3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)

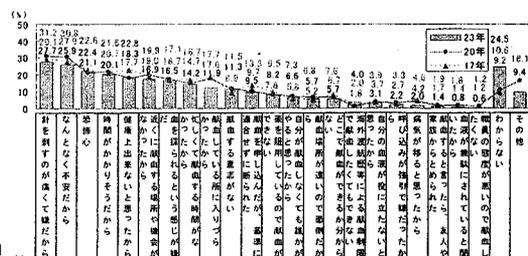


Table with columns: Category (e.g., 全体, 高校生, 大学生), Year (2017, 2019, 2023), and Reason (e.g., 針を刺すのが痛くて嫌だから, 恐怖心, 時間がかかりそうだから). Includes a detailed table for regional breakdown (地域別).

7. 献血するきっかけとなり得る要因

【未経験者編】



(1)1位<最も大きな要因> (Q20)

【きっかけとなり得る要因の1位は「針の痛みを和らげる」が1割強】

- 献血をするきっかけになり得る要因を大きい順に3つまで選んでもらったところ、1位の要因(最も大きな要因)として、「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」計で11.6%。前述の献血をしたことがない理由でも「針を刺すのが痛くて嫌だから」が1位であり、針を刺す時の痛みが献血へのネックとなっていると考えられる。また、僅差で「家族や友人などから勧められた」(11.5%)が主要な要因の1つとして挙げられている。
職業別では、「家族や友人などから勧められた」が、高校生では15.4%、大学生・専門学校生では13.3%で他の層と比べて高く、トップの要因として挙げられている。
性別では、男性において「献血は絶対しない」人(20.7%)が女性に比べて7ポイント高い。
地域別では、大きな差はみられない。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、全体では「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」が9ポイント低下する一方、「献血は絶対しない」が上昇している。23年度調査と20年度調査では傾向に大きな変化はみられない。
職業別では、公務員で「献血したときの処遇品(記念品)が良かった」が過去2回調査と比べて8ポイント前後上昇し、23年度調査ではトップの要因となっている。自営業では「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が20年度調査と比べて9ポイント上昇し、高い理由となっている。
性別では、20年度調査と比べて大きな変化はみられない。
地域別では、各層で17年度調査より「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」が低下傾向にある。

7. 献血するきっかけとなり得る要因

【未経験者編】



(1)1位<最も大きな要因> (Q20)

Q20. あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)

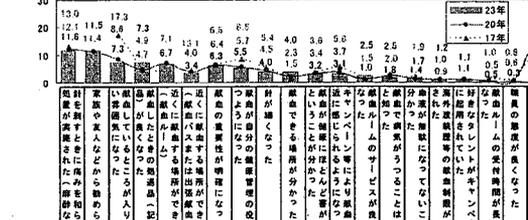


Table with columns: Category (e.g., 全体, 高校生, 大学生), Year (2017, 2019, 2023), and Factor (e.g., 針の痛みを和らげる処置が実施された, 家族や友人などから勧められた, 献血したときの処遇品(記念品)が良かった). Includes a detailed table for regional breakdown (地域別).



(2)1位~3位累計 (Q20)

【きっかけとなり得る要因(累計)は「針の痛みを和らげる」が2割強】

- 献血をするきっかけになり得る要因を1~3位の累計で見ると、「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が最も高く24.2%。
● 職業別では、高校生で「家族や友人などから勧められた」(27.6%)、「献血できる場所が分かった」(17.1%)が他の層と比べて高く、一方「献血したときの処遇品(記念品)が良かった」(16.4%)、「献血ルームのサービスが良かった」(9.7%)が他の層と比べて低い。
● 性別では、男性で「献血が絶対しない」(20.7%)の割合が女性と比べて7ポイント高い。
● 地域別では、関東甲信越で「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」(15.8%)、「近くに献血する場所ができた(献血バスまたは出張献血)」(8.7%)が他の地域と比べてやや低い。一方、東北北陸と九州・沖縄では「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」と「近くに献血する場所ができた(献血バスまたは出張献血)」が他の地域と比べてやや高い。

- 20年度調査と比べると、全体では「献血したときの処遇品(記念品)が良かった」、「献血ルームのサービスが良かった」がそれぞれ8ポイント以上上昇している。「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」は17年度調査より低下傾向である。
➢ 職業別、性別では、各層で20年度調査と比べて「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」が低下し、「献血したときの処遇品(記念品)が良かった」と「献血ルームのサービスが良かった」が上昇している。
➢ 地域別では、北海道と東北で「献血が自分の健康管理の役に立つようになった」が17年度調査より低下傾向にある。

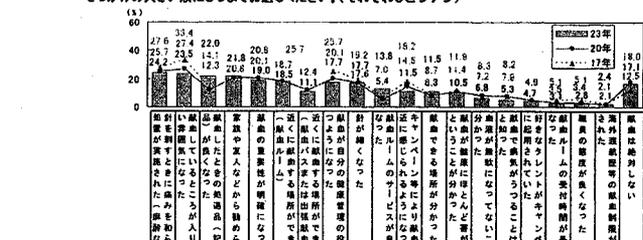
<参考:献血するきっかけとなり得る項目(具体例と理由)>

Table with 3 columns: 献血したときの処遇品(記念品)が良かった(具体例(記載が多かったもの)), 献血ルームのサービスが良かった(具体例(記載が多かったもの)), 献血が絶対しない理由(記載が多かったもの). Rows include items like 'お菓子がよくあった', '図書カード', '現金支給', etc.



(2)1位~3位累計 (Q20)

Q20. あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



【基数:対象者全員】

Large data table showing survey results for Q20, including counts and percentages for various demographic groups like '高校生', '大学生・専門学校生', '会社員', etc., across different years.

8. 初めての献血について



(1)初めての献血で400ml献血することへの不安意識 (Q21)

<新規質問>

【初めての献血で400ml献血することに抵抗がある人は7割弱】

- 初めての献血で400ml献血することに抵抗を感じるかたずねたところ、「どちらかというはい(どちらかという)と抵抗がある」が36.9%を占め、「はい(抵抗がある)」(30.8%)と合わせると抵抗がある人は67.7%で3人中2人の割合であった。一方、「どちらかというといえ(どちらかという)と抵抗がない」(15.3%)と「いいえ(抵抗がない)」(17.0%)を合わせた抵抗がない人は32.3%で3人中1人であった。
● 職業別では、専業主婦で抵抗がある人の割合(76.5%)が他の層と比べて高く、一方自営業(62.5%)では他の層と比べて低い。
● 性別では、女性の抵抗がある人の割合(71.2%)が男性(64.4%)と比べて7ポイント上回っている。
● 地域別では、九州・沖縄で「はい(抵抗がある)」と回答している人の割合(64.5%)がやや低い。

8. 初めての献血について



(1)初めての献血で400ml献血することへの不安意識 (Q21)

Q21. 血液の有効かつ安全な活用のため、現在では400mlを推奨していますが、仮にあなたが初めての献血する場合、200mlでなく400mlの献血に抵抗を感じますか。

Stacked bar chart and data table showing responses to Q21 regarding resistance to donating 400ml of blood. The chart shows 'はい(抵抗がある)', 'どちらかという(抵抗がある)', 'いいえ(抵抗がない)', and '抵抗がない(計)'. The table provides the corresponding counts and percentages for various demographic groups.



(1) 家族の献血の有無 (Q22)

【家族が献血している姿を見た経験がある人は1割強】

- 家族が献血している姿を見たことが「ある」という人は11.0%で1割強にとどまる。
- 職業別では、専業主婦で見たことが「ある」人は17.3%で、他の層と比べて高い。
- 性別では、見たことが「ある」人は男性(8.4%)と比べて女性(13.8%)の方が5ポイント上回る。
- 地域別では、北海道で見たことが「ある」(7.3%)の割合が他の地域に比べてやや低い。

- 20年度調査と比べると、全体での大きな変化はみられない。
- 属性別でも、20年度調査と比べて概ね大きな変化はみられない。



(1) 家族の献血の有無 (Q22)

Q22. ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

【基数：対象者全員】	(n)	ある		おぼえていない
		20年	21年	
全体	5000	11.0	11.6	11.6
高校生	647	12.6	9.4	11.8
大学生・専門学校生	1484	10.4	9.8	11.7
会社員	1348	10.3	11.5	11.5
公務員	85	9.6	8.2	9.6
自営業	119	8.9	17.9	8.7
専業主婦	423	17.3	10.2	17.9
その他	75	8.0	10.7	10.2
男性	2519	8.4	14.0	9.5
女性	2444	13.8	11.0	14.0
北海道	210	7.3	16.0	7.8
東北	355	13.6	10.2	11.9
関東甲信越	1825	11.6	7.3	10.5
東海北陸	780	8.9	11.0	13.6
近畿	816	9.0	9.3	11.6
中国・四国	431	11.7	12.1	11.7
九州・沖縄	583	10.6	9.1	10.6



(2) 友人の献血の有無 (Q23)

【献血経験のある友人がいる人は3割強】

- 友達に献血をしている人かいないかたずねたところ、「いる」が32.8%、「いない」が34.8%、「わからない」が32.3%と回答が分かれた。
- 職業別にみると、高校生で献血経験のある友人がいる人は12.9%で1割強にとどまり、他の層と比べて低いが、大学生・専門学校生では41.4%、公務員では58.7%が「いる」と回答しており他の層と比べて高い。
- 性別では、「いる」の割合が男性(28.1%)に比べて女性(37.7%)で10ポイント上回っている。
- 地域別では、東北で「いる」が4割弱(38.2%)で他の地域と比べて高い。

- 20年度調査と比べると、全体での大きな変化はみられない。
- 職業別では、20年度調査と比べて、公務員で11ポイント「いる」人が上昇する一方、自営業で9ポイント低下している。
- 性別による大きな傾向の変化はみられない。
- 地域別では、北海道で「いる」人が20年度調査と比べて7ポイント低下する一方、九州・沖縄では5ポイント上昇している。



(2) 友人の献血の有無 (Q23)

Q23. あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

【基数：対象者全員】	(n)	いる		わからない	
		20年	21年	20年	21年
全体	5000	32.8	32.3	32.5	32.3
高校生	647	12.9	35.7	39.5	35.7
大学生・専門学校生	1484	41.4	28.6	28.2	41.4
会社員	1348	30.2	31.4	31.6	30.2
公務員	85	58.7	17.3	25.9	58.7
自営業	119	21.4	44.6	35.8	21.4
専業主婦	423	34.3	35.8	32.4	34.3
その他	75	24.5	38.6	37.3	24.5
男性	2519	28.1	35.5	35.4	28.1
女性	2444	37.7	29.0	28.3	37.7
北海道	210	34.0	32.0	27.6	34.0
東北	355	38.2	28.6	28.7	38.2
関東甲信越	1825	32.4	31.3	32.9	32.4
東海北陸	780	28.8	34.5	32.4	28.8
近畿	816	33.1	33.5	31.5	33.1
中国・四国	431	31.8	34.6	31.1	31.8
九州・沖縄	583	36.5	31.6	37.4	36.5



(1) 献血の必要性への理解が良くなったか (Q24-1)

【資料を読んで献血の必要性への理解が良くなった人は8割強】

- 献血に関する資料の閲覧後に、献血の必要性への理解が良くなったかをたずねたところ、「はい(良くなった)」が27.6%で「どちらかというはい(どちらかという良くなった)」が57.1%。両者を合わせると、理解が良くなった人は84.7%にのぼる。
- 職業別では、理解が良くなった人の割合は専業主婦(89.2%)と大学生・専門学校生(87.6%)で他の層と比べて高い。一方、会社員、公務員、自営業といった勤労者ではやや評価が低い傾向にある。
- 性別では、女性の理解が良くなった人の割合(88.9%)が、男性(80.6%)に比べて8ポイント上回っている。
- 地域別では、東北で理解が良くなった人の割合が90.7%にのぼり、他の地域と比べて高い一方、北海道(81.1%)と関東甲信越(82.4%)では他の地域に比べて評価が低い。

- 20年度調査と比べると、全体では理解が良くなった人の割合が7ポイント低下し、評価が低くなっている。
- 職業別では、20年度調査と比べて各層で評価が低くなっているが、特に専業主婦で「はい(良くなった)」の割合が12ポイント低下している。
- 性別では、男性も女性もともに「はい(良くなった)」の割合が20年度調査と比べて6ポイント程度低下している。
- 地域別では、東北以外の地域で20年度調査と比べて、理解が良くなった人の割合が5ポイント以上低下している。



(1) 献血の必要性への理解が良くなったか (Q24-1)

Q24. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。
1) 献血の必要性への理解は良くなりましたか。

【基数:対象者全員】	(N)	はい		どちらかというはい		いいえ		はい(計)	いいえ(計)
		20年	17年	20年	17年	20年	17年		
全体	20年(5000)	27.6	30.0	57.1	57.1	15.3	12.8	84.7	12.8
高校生	20年(626)	32.9	32.9	87.6	87.6	6.5	12.4	90.7	12.4
	17年(398)	22.4	22.4	84.7	84.7	15.3	15.3	87.6	12.4
大学生・専門学校生	20年(1484)	34.5	34.5	87.6	87.6	6.5	12.4	90.7	12.4
	17年(932)	19.8	19.8	84.7	84.7	15.3	15.3	87.6	12.4
会社員	20年(1545)	32.2	32.2	84.7	84.7	15.3	15.3	91.0	9.0
	17年(1596)	17.4	17.4	87.6	87.6	15.3	15.3	87.6	12.4
公務員	20年(85)	31.8	31.8	84.7	84.7	15.3	15.3	92.9	7.1
	17年(104)	21.2	21.2	84.7	84.7	15.3	15.3	91.3	8.7
自営業	20年(134)	22.6	22.6	84.7	84.7	15.3	15.3	93.9	6.1
	17年(115)	26.1	26.1	84.7	84.7	15.3	15.3	93.9	6.1
専業主婦	20年(423)	43.7	43.7	89.2	89.2	6.5	12.4	95.7	4.3
	17年(856)	20.1	20.1	84.7	84.7	15.3	15.3	88.4	11.6
その他	20年(702)	33.0	33.0	84.7	84.7	15.3	15.3	90.0	10.0
	17年(999)	19.9	19.9	84.7	84.7	15.3	15.3	85.6	14.4
男性	20年(2556)	29.6	29.6	80.6	80.6	15.3	15.3	88.9	11.1
	17年(1688)	17.3	17.3	84.7	84.7	15.3	15.3	85.7	14.4
女性	20年(2444)	38.9	38.9	88.9	88.9	6.5	12.4	95.4	4.6
	17年(3212)	20.5	20.5	84.7	84.7	15.3	15.3	88.7	11.3
北海道	20年(210)	30.7	30.7	84.7	84.7	15.3	15.3	91.0	9.0
	17年(200)	21.0	21.0	84.7	84.7	15.3	15.3	88.0	12.0
東北	20年(355)	37.6	37.6	90.7	90.7	6.5	12.4	97.2	2.8
	17年(350)	16.9	16.9	84.7	84.7	15.3	15.3	83.7	16.3
関東甲信越	20年(1825)	24.8	24.8	84.7	84.7	15.3	15.3	90.7	9.3
	17年(1800)	19.6	19.6	84.7	84.7	15.3	15.3	87.6	12.4
東海北陸	20年(780)	33.6	33.6	84.7	84.7	15.3	15.3	90.9	9.1
	17年(750)	17.7	17.7	84.7	84.7	15.3	15.3	88.5	11.5
近畿	20年(816)	33.1	33.1	84.7	84.7	15.3	15.3	93.3	6.7
	17年(850)	20.6	20.6	84.7	84.7	15.3	15.3	88.4	11.6
中国・四国	20年(431)	33.6	33.6	84.7	84.7	15.3	15.3	91.9	8.1
	17年(450)	17.6	17.6	84.7	84.7	15.3	15.3	87.1	12.9
九州・沖縄	20年(583)	31.2	31.2	84.7	84.7	15.3	15.3	90.5	9.5
	17年(600)	21.3	21.3	84.7	84.7	15.3	15.3	88.7	11.4



(2) 献血に協力する意識の有無 (Q24-2)

【献血に協力する意識がある人は6割弱】

- 献血に関する資料の閲覧後に、今は献血に協力する気持ちがあるか否かをたずねたところ、「ある」人の15.6%と、「どちらかというある」人の43.4%を合わせた意識がある人は59.0%で6割弱を占める。
- 職業別では、意識がある人の割合が公務員(50.0%)、自営業(50.6%)で他の層と比べて低い。
- 性別では、男性の意識がある人の割合(52.6%)が女性(65.7%)に比べて13ポイント下回っている。
- 地域別では、関東甲信越で意識がある人の割合(54.7%)が他の地域に比べてやや低い。

- 過去2回調査と比べると、全体での意識がある人の割合は6ポイント低下している。
- 職業別では、20年度調査と比べると、公務員と自営業で意識がある人の割合の低下が顕著で、10ポイント程度低下している。
- 性別では、20年度調査と比べて、男性で「どちらかというある」が7ポイント低下し、23年度調査の意識がある人の割合が5割強にとどまった。
- 地域別では、20年度調査と比べると、各層で意識のある人の割合が低下しているが、特に東北、関東甲信越、近畿、中国・四国、九州・沖縄では大きく低下している。



(2) 献血に協力する意識の有無 (Q24-2)

Q24. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。
2) 今は献血に協力する気持ちはありますか。

【基数:対象者全員】	(N)	ある		どちらかというある		ない		ある(計)	ない(計)
		20年	17年	20年	17年	20年	17年		
全体	20年(5000)	15.6	16.3	28.7	25.4	14.3	9.4	65.2	34.8
高校生	20年(626)	16.3	16.3	43.0	26.2	13.6	6.5	65.0	35.0
	17年(398)	19.3	19.3	43.0	24.1	13.6	6.5	68.7	31.3
大学生・専門学校生	20年(1484)	16.8	16.8	45.5	25.4	12.3	6.5	62.3	37.7
	17年(932)	16.4	16.4	44.8	25.1	12.3	6.5	66.2	33.8
会社員	20年(1545)	13.5	13.5	32.3	25.1	12.1	6.5	65.8	34.2
	17年(1596)	12.7	12.7	32.3	27.9	15.0	6.5	64.5	35.5
公務員	20年(85)	15.5	15.5	36.5	30.8	19.2	6.5	63.5	36.5
	17年(104)	12.9	12.9	30.6	31.7	19.7	6.5	59.6	40.4
自営業	20年(134)	18.5	18.5	42.2	31.5	17.9	6.5	60.9	39.1
	17年(115)	13.4	13.4	42.0	28.4	17.2	6.5	66.6	30.4
専業主婦	20年(423)	16.5	16.5	44.8	24.4	12.3	6.5	68.6	31.4
	17年(856)	13.4	13.4	33.0	25.1	17.4	6.5	67.5	32.5
その他	20年(702)	13.9	13.9	41.8	28.6	15.7	6.5	65.7	34.3
	17年(999)	15.8	15.8	44.8	27.3	12.1	6.5	66.6	33.4
男性	20年(2556)	11.7	11.7	40.9	30.0	17.4	6.5	60.9	39.1
	17年(1688)	12.7	12.7	48.1	28.0	11.2	6.5	60.8	39.2
女性	20年(2444)	19.7	19.7	46.0	30.8	11.1	6.5	65.7	34.3
	17年(3212)	20.3	20.3	46.5	22.6	7.7	6.5	69.8	30.2
北海道	20年(210)	14.5	14.5	33.3	24.8	7.5	6.5	67.8	32.2
	17年(200)	14.1	14.1	45.5	23.8	16.5	6.5	59.7	40.3
東北	20年(355)	20.5	20.5	39.5	25.2	14.3	6.5	66.0	34.0
	17年(350)	15.5	15.5	32.6	24.0	16.5	6.5	67.5	32.5
関東甲信越	20年(1825)	16.4	16.4	45.0	25.2	13.3	6.5	65.1	34.9
	17年(1800)	17.5	17.5	41.8	22.5	13.2	6.5	62.9	37.2
東海北陸	20年(780)	12.5	12.5	42.2	29.1	13.1	6.5	64.5	35.5
	17年(750)	12.1	12.1	46.3	27.9	11.3	6.5	60.8	39.2
近畿	20年(816)	17.2	17.2	44.3	28.6	13.3	6.5	63.1	36.9
	17年(850)	17.2	17.2	44.3	23.9	14.4	6.5	61.7	38.3
中国・四国	20年(431)	17.2	17.2	48.3	25.5	8.5	6.5	65.9	34.0
	17年(450)	13.9	13.9	35.5	24.7	9.9	6.5	66.4	33.6
九州・沖縄	20年(583)	16.2	16.2	44.3	27.0	12.9	6.5	64.8	35.2
	17年(600)	17.2	17.2	46.5	26.7	7.4	6.5	66.0	34.0



(3)今後の献血意向喚起 (Q24-3)

【今後の献血意向が喚起された人は4割強】

- 献血に関する資料の閲覧後に、今後、実際に献血に行くかをたずねたところ、「はい(行く)の7.5%と、「どちらかというとはい(どちらかというで行く)」の36.9%を合わせた意向ありの人は44.4%。4割強の回答者が献血への意向を喚起されている。
- 職業別では、意向ありの人の割合は高校生(49.6%)が高く、半数近くが意向を喚起されている。対して公務員(32.7%)や自営業(33.9%)は他の層と比べて喚起されている割合が低い。
- 性別では、男性の意向ありの割合(39.6%)が女性(49.4%)に比べて10ポイント下回っている。
- 地域別では、関東甲信越の意向ありの割合(39.0%)が他の地域と比べて低い。

- 過去2回調査と比べると、全体での意向ありの割合は低下傾向にある。
- 職業別では、20年度調査と比べると、公務員、自営業、専業主婦で意向ありの割合が7ポイント以上低下している。
- 性別では、過去2回調査と比べると、男性で意向ありの割合が低下傾向にある。
- 地域別では、関東甲信越、中国・四国、九州・沖縄で意向ありの割合が20年度調査と比べて5ポイント以上低下している。

11. 若年層の献血協力意向を高めるアイデア



(1)若年層の献血協力意向を高めるアイデア (Q25)

【献血意向を高めるには「処遇品・記念品」、「人気タレント起用」、「PR」等】

- 若年層の献血協力意向を高めるアイデアを自由記述形式でたずねたところ、「処遇品、記念品をよくする／特典をつける」や「報酬をお金にする」といった、献血者に直接メリットがある内容。「人気タレントを使う」や「インターネット、テレビ、雑誌でのPR」など、より興味を引き、アクセスしやすいPR方法を考える必要があるといった内容。また献血が出来る施設に関しては、「気軽に行ける、入りやすい、明るい、親しみを持って」雰囲気を作り、「人通りの多い、駅前、繁華街、何かのついでや待ち時間にできる」場所で献血が出来る施設を設ける必要があるといった内容が多くあげられた。



(3)今後の献血意向喚起 (Q24-3)

Q24. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。
3) 今後、実際に献血に行きますか。

【基数：対象者全員】

年齢	性別	職業別	地域別	意向				合計										
				はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ											
23年	20年	17年	23年	20年	17年	23年	20年	17年	23年	20年	17年	23年	20年	17年	23年	20年	17年	
(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	(5000)	
7.5	36.9	35.4	20.2	44.4	55.6	47.4	52.6	49.5	50.5	49.6	50.3	52.2	47.8	56.8	43.2	48.0	50.1	
高校生	大学生・専門学校生	会社員	公務員	自営業	専業主婦	その他	男性	女性	北海道	東北	関東甲信越	東海北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄			

11. 若年層の献血協力意向を高めるアイデア



(1)若年層の献血協力意向を高めるアイデア (Q25)

Q25. 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますが、広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

【対象者全員】

若年層の献血協力意向を高めるアイデア
(記載が多かったもの)

処遇品、記念品をよくする／特典をつける
人気タレントを使う
インターネットでの呼びかけ／インターネット広告／SNSでの呼びかけ
テレビでのPR
気軽に行けるような雰囲気作り／入りやすい雰囲気作り／明るい雰囲気作り／親しみを持ってようにする
学校の授業で取り入れる／学校でのPR
安全性をアピール／恐怖感、抵抗感の払しょく
高校、学校に献血バスがくる
香客が集まる場所に献血コーナーを設ける／香客が集まる場所でキャンペーンをする
献血についての詳しい説明、周知
人通りの多い場所で行う／駅前、繁華街で行う／行きやすい場所で献血できる／何かのついでや待ち時間できる
献血の重要性、必要性をアピール
有名な人が実際に献血している様子を見せる／同年代の人がやっている姿を見せる
注射の痛みが少なくなる
献血することによるメリットを伝える
ボランティアでは限界がある／義務化する
大学キャンパスなどへの出張を増やす／大学でキャンペーンをする
献血イベントの実施／イベント会場に出張
献血によってどれだけ人が救われるかを示せばいい
報酬をお金にする
献血がいつ、どこでやっているかの情報の周知
雑誌でPR
献血ルーム、献血バス自体を増やす
適合基準の見直し／適合基準の明確な表記
病院で献血ができる／健康診断時に献血もできる

Ⅲ. 経験者編

1. 対象者特性

【経験者編】



(1) 居住地・性別 (SC1/SC3)

- 【居住地】は「関東甲信越」が36.5%を占めており、過去2回調査と同様、中心となっている。以下、「近畿」(16.3%)、「東海北陸」(15.7%)の順で続き、全体構成も過去2回調査と概ね変わらない。
- 【性別】は、全体では「男性」50.4%、「女性」49.6%とほぼ半々。20年度調査と概ね変わらない。17年度調査に比べて男性が16ポイント増えている。
- 【年齢】では、20代が9割弱(86.5%)を占めているが、過去2回調査と比べて10代の割合が増えている。
- 【職業】では、「会社員」(40.4%)、「大学生・専門学校生」(29.6%)が中心であり、両層で7割を占める。20年度調査とは概ね同様の傾向となっている。17年度調査に比べて「大学生・専門学校生」が増え、「専業主婦」「その他」が低下した。
- 【医療関係への関与有無】では、「携わっている」と回答した人は17.1%で、過去2回調査と比べて携わっている人の割合が6ポイント増えている。

居住地 (SC1)

	(n)	居住地 (%)			
		北海道	関東甲信越	東海北陸	九州・沖縄
全体	23年 (5000)	4.1	36.5	15.7	11.7
	20年 (5000)	4.2	36.5	15.6	11.7
	17年 (5000)	4.0	38.0	15.0	12.0

【基数：対象者全員】

性別 (SC3)

地域別	(n)	性別 (%)	
		男性	女性
全体	23年 (5000)	50.4	49.6
	20年 (5000)	51.1	48.9
	17年 (5000)	44.4	55.6
北海道	23年 (210)	50.0	50.0
	17年 (200)	46.5	53.5
東北	23年 (355)	50.1	49.9
	17年 (350)	48.0	52.0
関東甲信越	23年 (1825)	50.1	49.9
	17年 (1800)	33.7	66.3
東海北陸	23年 (786)	50.9	49.1
	20年 (780)	51.9	48.1
近畿	23年 (816)	50.6	49.4
	20年 (816)	50.2	49.8
中国・四国	23年 (431)	50.3	49.7
	20年 (431)	50.8	49.2
九州・沖縄	23年 (583)	49.9	50.1
	20年 (583)	49.9	50.1
		34.6	65.4

【基数：対象者全員】

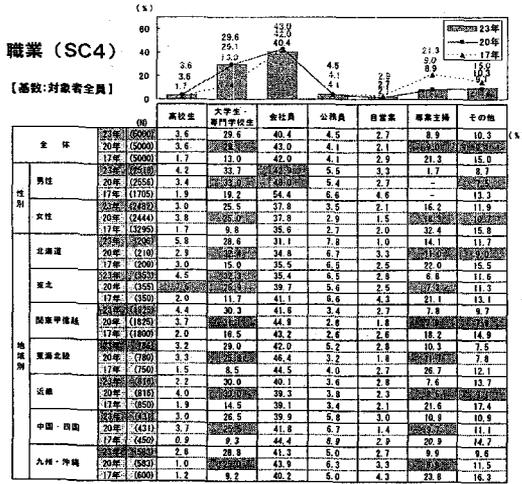


(2)年齢・職業 (SC2/SC4)

年齢 (SC2)

性別	年齢	年齢 (SC2)			
		10-17歳	18-19歳	20-24歳	25-29歳
全体	23年 (5000)	30.1	43.7	43.2	
	20年 (5000)	30.1	43.7	43.0	
	17年 (5000)	30.1	43.7	43.0	
男性	23年 (2556)	30.1	43.9	43.8	
	20年 (2556)	30.1	43.9	43.8	
	17年 (1705)	30.1	43.9	43.8	
女性	23年 (2444)	30.1	43.5	42.6	
	20年 (2444)	30.1	43.5	42.6	
	17年 (1705)	30.1	43.5	42.6	
北海道	23年 (210)	30.1	43.7	43.1	
	20年 (210)	30.1	43.7	43.1	
	17年 (200)	30.1	43.7	43.1	
東北	23年 (355)	30.1	43.9	43.5	
	20年 (355)	30.1	43.9	43.5	
	17年 (350)	30.1	43.9	43.5	
関東甲信越	23年 (1825)	30.1	43.7	43.1	
	20年 (1825)	30.1	43.7	43.1	
	17年 (1800)	30.1	43.7	43.1	
東海北陸	23年 (780)	30.1	43.7	43.0	
	20年 (780)	30.1	43.7	43.0	
	17年 (750)	30.1	43.7	43.0	
近畿	23年 (816)	30.1	43.7	43.9	
	20年 (816)	30.1	43.7	43.9	
	17年 (850)	30.1	43.7	43.9	
中国・四国	23年 (431)	30.1	43.7	43.2	
	20年 (431)	30.1	43.7	43.2	
	17年 (450)	30.1	43.7	43.2	
九州・沖縄	23年 (583)	30.1	43.7	43.9	
	20年 (583)	30.1	43.7	43.9	
	17年 (600)	30.1	43.7	43.9	

【基数:対象者全員】



(3)医療関係への関与の有無 (SC5)

SC5. あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

【基数:対象者全員】

性別	職業	年齢	関与の有無 (SC5)	
			関与している (%)	関与していない (%)
全体	23年 (5000)	17.1	82.9	
	20年 (5000)	11.0	89.0	
	17年 (5000)	10.0	90.0	
高校生	23年 (180)	13.9	86.1	
	20年 (181)	7.2	92.8	
	17年 (87)	4.6	95.4	
大学生・専門学校生	23年 (1481)	23.8	76.2	
	20年 (1453)	14.1	85.9	
	17年 (652)	13.0	87.0	
会社員	23年 (2019)	15.8	84.2	
	20年 (2152)	10.3	89.7	
	17年 (2099)	11.0	89.0	
公務員	23年 (225)	26.7	73.3	
	20年 (207)	17.4	82.6	
	17年 (203)	15.8	84.2	
自営業	23年 (135)	8.1	91.9	
	20年 (106)	4.4	95.6	
	17年 (143)	3.3	96.7	
専業主婦	23年 (444)	7.4	92.6	
	20年 (448)	5.8	94.2	
	17年 (1067)	6.7	93.3	
その他	23年 (616)	10.7	89.3	
	20年 (453)	8.6	91.4	
	17年 (749)	6.9	93.1	
男性	23年 (2618)	15.8	84.2	
	20年 (2550)	8.8	91.2	
	17年 (1705)	7.0	93.0	
女性	23年 (2182)	8.6	91.4	
	20年 (2444)	13.8	86.2	
	17年 (3295)	11.0	89.0	
北海道	23年 (210)	14.8	85.2	
	20年 (210)	13.0	87.0	
	17年 (200)	13.0	87.0	
東北	23年 (355)	15.8	84.2	
	20年 (355)	14.3	85.7	
	17年 (350)	9.1	90.9	
関東甲信越	23年 (1825)	13.8	86.2	
	20年 (1825)	8.1	91.9	
	17年 (1800)	8.6	91.4	
東海北陸	23年 (780)	20.1	79.9	
	20年 (780)	11.3	88.7	
	17年 (750)	9.9	90.1	
近畿	23年 (816)	16.2	83.8	
	20年 (816)	10.5	89.5	
	17年 (850)	10.1	89.9	
中国・四国	23年 (431)	21.3	78.7	
	20年 (431)	12.1	87.9	
	17年 (450)	11.3	88.7	
九州・沖縄	23年 (583)	20.9	79.1	
	20年 (583)	13.0	87.0	
	17年 (600)	12.5	87.5	

2. 献血に関する認知・関心度



(1)献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q1)

【献血が病気の治療に役立っていることの認知率は7割弱】

- 献血がさまざまな病気の治療に役立っていることの認知率は66.4%。献血経験者の3人中2人が認知している。
- 職業別では、専業主婦の認知率(57.4%)が他の層と比べて低く6割弱。一方公務員(72.4%)と大学生・専門学校生(71.6%)で認知率が他の層と比べて高く、7割を超える。
- 性別での大きな差はみられない。
- 地域別では、北海道での認知率が高く73.3%。その他の地域は概ね変わらず65%前後。

- 20年度調査と比べると、全体での治療に役立っていることへの認知率は大きな変化はみられない。
- 職業別では、20年度調査と比べて、自営業で認知率が5ポイント上昇している。
- 性別では、大きな変化はみられない。
- 地域別では、20年度調査と比べて、東北で認知率が5ポイント低下している。その他の地域には大きな変化はみられない。

2. 献血に関する認知・関心度



(1)献血が病気の治療に役立っていることの認知 (Q1)

Q1. 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

【基数:対象者全員】

性別	職業	年齢	認知の有無 (%)	
			知っている (%)	知らない (%)
全体	23年 (5000)	66.4	33.6	
	20年 (5000)	65.9	34.1	
	17年 (5000)	68.9	31.1	
高校生	23年 (180)	71.6	28.4	
	20年 (181)	64.6	35.4	
	17年 (87)	69.9	30.1	
大学生・専門学校生	23年 (1481)	71.6	28.4	
	20年 (1453)	64.3	35.7	
	17年 (652)	64.9	35.1	
会社員	23年 (2019)	72.4	27.6	
	20年 (2152)	75.8	24.2	
	17年 (2099)	66.7	33.3	
公務員	23年 (225)	61.3	38.7	
	20年 (207)	57.4	42.6	
	17年 (203)	58.7	41.3	
自営業	23年 (135)	64.1	35.9	
	20年 (106)	61.8	38.2	
	17年 (143)	67.6	32.4	
専業主婦	23年 (444)	65.5	34.5	
	20年 (448)	65.2	34.8	
	17年 (1067)	66.3	33.7	
その他	23年 (616)	73.3	26.7	
	20年 (453)	70.0	30.0	
	17年 (749)	64.0	36.0	
男性	23年 (2618)	69.5	30.5	
	20年 (2550)	66.4	33.6	
	17年 (1705)	62.5	37.5	
女性	23年 (2182)	64.6	35.4	
	20年 (2444)	67.7	32.3	
	17年 (3295)	66.3	33.7	
北海道	23年 (210)	73.3	26.7	
	20年 (210)	70.0	30.0	
	17年 (200)	64.0	36.0	
東北	23年 (355)	69.5	30.5	
	20年 (355)	66.4	33.6	
	17年 (350)	62.5	37.5	
関東甲信越	23年 (1825)	64.6	35.4	
	20年 (1825)	67.7	32.3	
	17年 (1800)	66.3	33.7	
東海北陸	23年 (780)	69.1	30.9	
	20年 (780)	66.4	33.6	
	17年 (750)	66.4	33.6	
近畿	23年 (816)	68.3	31.7	
	20年 (816)	66.4	33.6	
	17年 (850)	66.4	33.6	
中国・四国	23年 (431)	68.3	31.7	
	20年 (431)	66.4	33.6	
	17年 (450)	66.4	33.6	
九州・沖縄	23年 (583)	67.6	32.4	
	20年 (583)	66.4	33.6	
	17年 (600)	66.4	33.6	

2. 献血に関する認知・関心度

【経験者編】



(2) 輸血用血液製剤の有効期限が短く、絶えず献血が必要なことを知っているか (Q2)

<新規質問>

【献血が絶えず必要なことの認知率は7割強】

- 献血が輸血用血液製剤の有効期限が短いために絶えず必要であることの認知率は、72.1%で割強を占める。
- 職業別では、大学生・専門学校生(77.2%)と公務員(76.9%)の認知率が他の層と比べて高い一方、高校生では62.8%にとどまり低い。
- 性別では、男性の認知率(68.3%)に比べて、女性の認知率(76.0%)が8ポイント高い。
- 地域別では、各地域で7割以上の認知率がある。

76

2. 献血に関する認知・関心度

【経験者編】



(2) 輸血用血液製剤の有効期限が短く、絶えず献血が必要なことを知っているか (Q2)

Q2. 献血された輸血用血液製剤の有効期限は短く、絶えず献血が必要なことを知っていますが、※血液製剤の有効期限は一番短い血小板製剤が採血後4日間、赤血球製剤は21日間です。

【基数:対象者全員】		知っている	知らない
全体	(5000)	72.1	27.9
高校生	(180)	62.8	37.2
大学生・専門学校生	(1481)	77.2	22.8
会社員	(2019)	70.0	30.0
公務員	(225)	76.9	23.1
自営業	(135)	65.9	34.1
専業主婦	(444)	70.7	29.3
その他	(516)	70.0	30.0
性別			
男性	(2518)	68.3	31.7
女性	(2482)	76.0	24.0
地域別			
北海道	(206)	74.8	25.2
東北	(353)	70.0	30.0
関東甲信越	(1825)	71.2	28.8
東海北陸	(786)	71.2	28.8
近畿	(816)	71.0	29.0
中国・四国	(431)	74.5	25.5
九州・沖縄	(583)	76.5	23.5

77

2. 献血に関する認知・関心度

【経験者編】



(3) 献血された輸血用血液製剤の使い道認知 (Q3)

<新規質問>

【輸血用血液製剤の使い道の認知率は3割強】

- 献血された輸血用血液製剤の使い道の認知率は34.7%で、3人中1人が認知している。
- 職業別では、高校生の認知率(45.0%)が他の層と比べて高く、半数近くが認知している。一方、専業主婦(27.0%)と自営業(28.9%)は他の層と比べると認知率が低い。
- 性別では、男性の認知率(36.8%)が女性の認知率(32.6%)に比べてやや高い。
- 地域別では、大きな差はみられない。

78

2. 献血に関する認知・関心度

【経験者編】



(3) 献血された輸血用血液製剤の使い道認知 (Q3)

Q3. 献血された輸血用血液製剤の使い道は、交通事故などの大量出血時よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことを知っていますか。

※約8割が病氣(うちがんの治療3割)に使われ、交通事故などによる輸血は約1割程度。

【基数:対象者全員】		知っている	知らない
全体	(5000)	34.7	65.3
高校生	(180)	45.0	55.0
大学生・専門学校生	(1481)	38.1	61.9
会社員	(2019)	35.1	64.9
公務員	(225)	39.6	60.4
自営業	(135)	28.9	71.1
専業主婦	(444)	27.0	73.0
その他	(516)	25.8	74.2
性別			
男性	(2518)	36.8	63.2
女性	(2482)	32.6	67.4
地域別			
北海道	(206)	33.0	67.0
東北	(353)	31.7	68.3
関東甲信越	(1825)	33.7	66.3
東海北陸	(786)	35.6	64.4
近畿	(816)	35.5	64.5
中国・四国	(431)	36.9	63.1
九州・沖縄	(583)	36.4	63.6

79

2. 献血に関する認知・関心度

【経験者編】



(4) 輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験 (Q4)

<新規質問>

【患者の感謝の気持ちを目や耳にした人は3割弱】

- 輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験のある人は27.5%。
- 職業別では、高校生の経験率が42.2%と他の層と比べて高い。次いで大学生・専門学校生の経験率が高く、30.2%を占め、3人中1人が経験している。
- 性別では、男女で大きな差はみられない。
- 地域別では、大きな差はみられない。

80

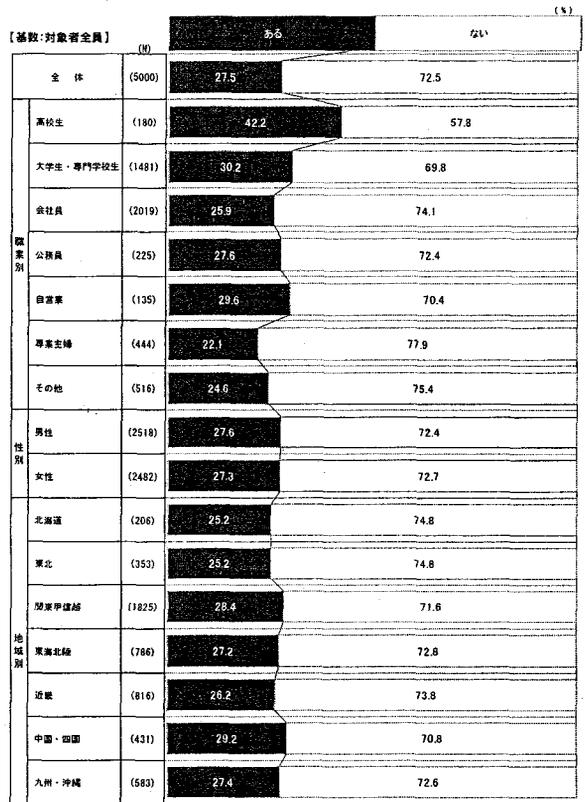
2. 献血に関する認知・関心度

【経験者編】



(4) 輸血の治療を受けた患者の感謝の気持ちを目や耳にした経験(Q4)

Q4. 輸血の治療を受けた多くの患者さんは、献血をしてくれた方に感謝(献血してくれてありがとう)の気持ちを持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか。



81

2. 献血に関する認知・関心度

【経験者編】



(5) 若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q5)

【若年層の献血協力者が減少していることの認知率は5割強】

- 献血へ協力してくれる10代・20代の若年層が大幅に減少していることを「知っている」人は52.9%で半数を占める。
- 職業別では、大学生・専門学校生の認知率(58.6%)が他の層と比べて高い一方、専業主婦では43.9%にとどまり他の層と比べると低い。
- 性別では、男女で大きな差はみられない。
- 地域別では、東北(47.6%)、関東甲信越(51.0%)、東海北陸(49.2%)での認知率が低く、その他の地域での認知率は6割近くにのぼる。

- 20年度調査と比べると、全体での認知率は大きく変わらない。
- 職業別では、20年度調査と比べると、専業主婦の認知率が9ポイント、自営業の認知率が7ポイント低下している。
- 性別では、20年度調査と比べて、男性の認知率には変化がなく、女性の認知率がやや低下している。
- 地域別では、20年度調査と比べて、東北の認知率が15ポイント低下しており顕著である。

82

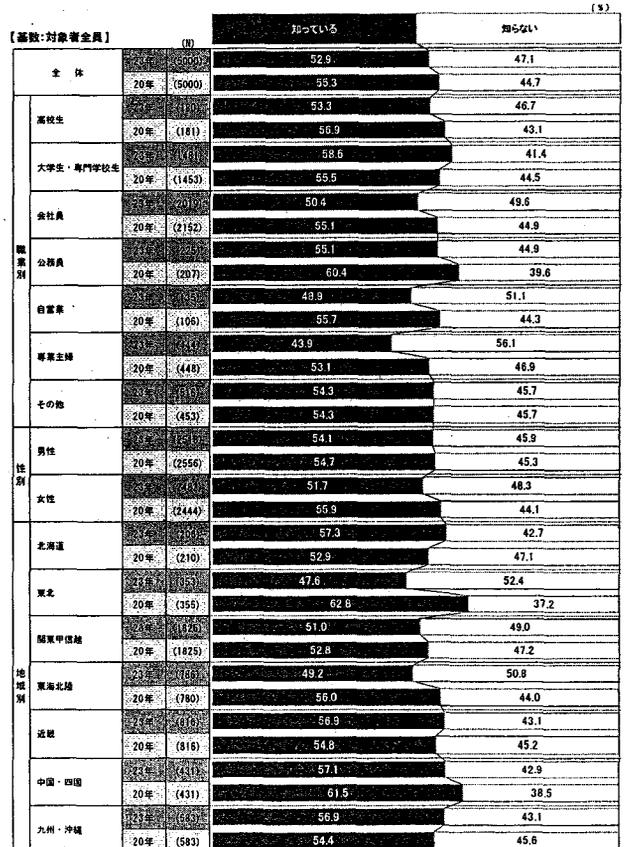
2. 献血に関する認知・関心度

【経験者編】



(5) 若年層の献血協力者の減少傾向認知 (Q5)

Q5. 献血へ協力してくださる若い方が、近年大幅に減っています(*). 知っていましたか。
* 最近5年間で、20代の献血者数は140万人から108万人(23%減)に、10代の献血者数は48万人から29万人(40%減)も減少しています。



83

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(1) 献血に関する広報接触媒体 (Q6)

【献血に関する広告は「献血バス」「街頭での呼びかけ」の接触が多い】

- 献血に関して接触したことのある広報媒体をみると、「献血バス」が64.7%で最も高く、僅差で「街頭での呼びかけ」(64.1%)、「献血ルーム前の看板・表示」(63.4%)が続く、次いで「テレビ」が51.7%で、以上が主要な接触媒体である。
- 職業別では、各層の主要な接触媒体は「献血バス」「街頭での呼びかけ」「献血ルーム前の看板・表示」「テレビ」である。特に「献血バス」は専業主婦で高く71.4%と7割を超える一方、高校生は48.3%にとどまり他の層と比べて低い接触率である。高校生は「献血バス」(48.3%)、「街頭での呼びかけ」(41.1%)、「献血ルーム前の看板・表示」(47.2%)といった現場での接触が他の層と比べて少なく、「テレビ」(56.7%)がトップの接触媒体となっている。また「インターネット」(22.8%)についても他の層と比べて接触率が高い。
- 性別では、女性は「献血バス」(69.9%)、「街頭での呼びかけ」(69.9%)、「献血ルーム前の看板・表示」(70.6%)といった現場での接触率が男性に比べて高い。
- 地域別では、「街頭での呼びかけ」は関東甲信越(68.4%)、東海北陸(64.9%)、近畿(64.2%)で他の地域と比べて高い。一方、「テレビ」は東北(64.9%)、中国・四国(61.9%)、九州・沖縄(57.6%)が高い。

- ▶ 17年度調査と20年度調査を比べると、全体での各媒体の接触率は総じて低下しており、特に「ポスターの掲示」が18ポイント低下した。20年度調査と23年度調査を比べると、「献血バス」で7ポイント、「インターネット」で5ポイント接触率が上昇した。
- ▶ 職業別・性別・地域別のいずれも各層で「献血バス」と「インターネット」の接触率は20年度調査と比べると上昇しており、対して「街頭での呼びかけ」は概ね低下している。

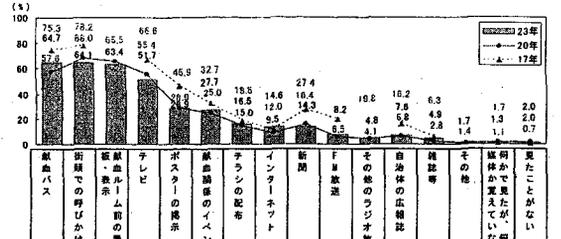
3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(1) 献血に関する広報接触媒体 (Q6)

Q6. 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたこと)がありますか。(いくつでも)



【基数:対象者全員】

属性	調査年	総数	接触率 (%)														
			献血バス	街頭での呼びかけ	献血ルーム前の看板・表示	テレビ	ポスターの掲示	献血キャンペーンのイベント	チラシの配布	インターネット	新聞	M放送	その他のラジオ放送	自治体の広報誌	雑誌	その他	何かが変わったが、何のいらない
全体	23年 (5000)	64.1	63.4	51.7	28.9	27.7	16.5	15.0	14.3	8.2	4.9	7.6	4.8	1.7	1.3	2.0	2.0
	20年 (5000)	65.5	65.5	65.5	50.5	35.5	15.0	15.0	15.0	6.5	4.1	7.8	4.1	1.7	2.0	2.0	2.0
	17年 (5000)	75.3	78.2	66.6	48.9	32.7	18.5	12.0	27.4	19.8	16.2	6.3	4.1	1.1	0.7	3.3	3.3
高校生	23年 (181)	47.2	56.7	27.2	22.2	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
	20年 (181)	61.9	61.9	61.9	52.1	24.4	12.0	15.4	12.2	4.0	2.9	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
大学生・専門学校生	23年 (491)	65.8	66.3	52.6	33.6	26.6	16.1	19.6	16.1	9.9	5.7	5.5	6.0	1.8	1.2	2.8	2.8
	20年 (491)	65.8	66.3	52.6	33.6	26.6	16.1	19.6	16.1	9.9	5.7	5.5	6.0	1.8	1.2	2.8	2.8
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
会社員	23年 (209)	72.9	73.3	64.0	43.4	31.1	17.9	12.1	25.2	21.4	14.5	6.6	1.0	0.7	1.0	0.7	1.0
	20年 (209)	72.9	73.3	64.0	43.4	31.1	17.9	12.1	25.2	21.4	14.5	6.6	1.0	0.7	1.0	0.7	1.0
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
公務員	23年 (207)	60.4	60.4	48.9	33.8	32.9	20.4	14.4	18.6	6.0	4.0	20.4	4.9	0.9	1.8	1.8	1.8
	20年 (207)	60.4	60.4	48.9	33.8	32.9	20.4	14.4	18.6	6.0	4.0	20.4	4.9	0.9	1.8	1.8	1.8
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
自営業	23年 (143)	66.4	63.6	64.3	43.4	31.5	15.4	18.2	28.7	25.9	18.1	8.4	2.8	0.7	2.8	0.7	2.8
	20年 (143)	66.4	63.6	64.3	43.4	31.5	15.4	18.2	28.7	25.9	18.1	8.4	2.8	0.7	2.8	0.7	2.8
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
専業主婦	23年 (152)	71.9	71.9	69.9	48.8	34.7	18.1	7.1	27.7	15.5	22.4	5.2	0.9	0.7	0.9	0.7	0.9
	20年 (152)	71.9	71.9	69.9	48.8	34.7	18.1	7.1	27.7	15.5	22.4	5.2	0.9	0.7	0.9	0.7	0.9
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
その他	23年 (453)	56.3	56.3	42.3	24.1	25.0	15.7	12.2	16.3	8.9	6.2	7.0	5.7	1.4	1.7	2.7	2.7
	20年 (453)	56.3	56.3	42.3	24.1	25.0	15.7	12.2	16.3	8.9	6.2	7.0	5.7	1.4	1.7	2.7	2.7
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
性別	23年 (256)	69.9	70.6	50.8	31.9	30.3	17.4	12.8	12.2	6.5	3.3	8.2	4.6	1.9	1.0	1.3	1.3
	20年 (256)	69.9	70.6	50.8	31.9	30.3	17.4	12.8	12.2	6.5	3.3	8.2	4.6	1.9	1.0	1.3	1.3
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
地域別	23年 (244)	78.9	81.0	79.4	50.4	34.8	18.5	11.2	22.0	12.8	17.7	6.6	1.2	0.8	0.8	0.8	0.8
	20年 (244)	78.9	81.0	79.4	50.4	34.8	18.5	11.2	22.0	12.8	17.7	6.6	1.2	0.8	0.8	0.8	0.8
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
北海道	23年 (210)	68.3	72.8	64.5	40.1	20.2	18.5	13.6	28.2	23.7	13.4	5.7	1.7	1.1	1.1	1.1	1.1
	20年 (210)	68.3	72.8	64.5	40.1	20.2	18.5	13.6	28.2	23.7	13.4	5.7	1.7	1.1	1.1	1.1	1.1
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
東北	23年 (355)	64.9	67.9	44.0	27.6	15.8	11.0	6.0	4.3	4.8	4.4	2.0	1.4	2.8	2.8	2.8	2.8
	20年 (355)	64.9	67.9	44.0	27.6	15.8	11.0	6.0	4.3	4.8	4.4	2.0	1.4	2.8	2.8	2.8	2.8
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
関東甲信越	23年 (1180)	75.1	82.6	52.2	45.0	30.0	16.6	11.2	12.0	12.4	6.6	1.2	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
	20年 (1180)	75.1	82.6	52.2	45.0	30.0	16.6	11.2	12.0	12.4	6.6	1.2	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
東海北陸	23年 (780)	64.9	61.2	51.7	28.4	28.9	12.4	12.6	15.8	9.4	4.1	9.0	4.7	1.1	1.8	1.1	1.1
	20年 (780)	64.9	61.2	51.7	28.4	28.9	12.4	12.6	15.8	9.4	4.1	9.0	4.7	1.1	1.8	1.1	1.1
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
近畿	23年 (816)	71.3	74.8	63.3	45.2	34.8	18.9	11.6	33.9	23.2	19.2	6.1	1.3	0.4	1.3	0.4	1.3
	20年 (816)	71.3	74.8	63.3	45.2	34.8	18.9	11.6	33.9	23.2	19.2	6.1	1.3	0.4	1.3	0.4	1.3
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
中国・四国	23年 (431)	63.8	57.6	25.2	30.0	15.9	16.0	12.0	5.1	9.8	6.7	1.9	1.2	1.4	1.2	1.4	1.2
	20年 (431)	63.8	57.6	25.2	30.0	15.9	16.0	12.0	5.1	9.8	6.7	1.9	1.2	1.4	1.2	1.4	1.2
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8
九州・沖縄	23年 (583)	64.8	64.8	56.7	42.7	37.8	19.7	12.0	30.3	25.3	22.0	6.5	1.2	0.3	1.2	0.3	1.2
	20年 (583)	64.8	64.8	56.7	42.7	37.8	19.7	12.0	30.3	25.3	22.0	6.5	1.2	0.3	1.2	0.3	1.2
	17年 (87)	48.3	41.1	47.2	26.9	20.6	12.7	18.5	12.0	6.1	2.8	3.2	2.2	0.9	2.8	3.9	2.8

3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(2) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q7)

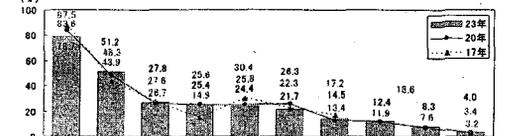
【献血キャンペーンに効果的な媒体は「テレビ」が8割弱】

- 献血のキャンペーンを行う際に効果的だと思う媒体は、「テレビ」が78.7%で圧倒的に高い。次いで「インターネット」が51.2%。以下、「ポスター」(27.8%)、「携帯電話」(25.4%)、「新聞」(24.4%)が続く。
- 職業別では、各層とも「テレビ」「インターネット」が上位1位と2位を占める。その中で専業主婦は他の層と比べて「テレビ」(85.4%)、「自治体の広報誌」(23.0%)が高い。また高校生では「新聞」(30.6%)が他の層と比べて高く、「テレビ」「インターネット」に次いで3位の媒体となっている。
- 性別では、男性よりも女性で「テレビ」(82.7%)、「ポスター」(30.1%)、「雑誌」(24.8%)などを挙げる割合が高い。
- 地域別では、関東甲信越は「テレビ」(76.2%)の割合が他の地域と比べて低い。

- ▶ 過去2回調査と比べると、全体での「テレビ」が挙げられる割合は低下傾向、一方「インターネット」は上昇傾向にある。「携帯電話」は17年度調査と20年度調査を比べると11ポイント上昇し、23年度調査では20年度調査と横並びの結果である。
- ▶ 職業別では、「テレビ」は過去2回調査と比べて各層で概ね低下傾向にあり、特に大学生・専門学校生、公務員、自営業などで顕著である。一方「インターネット」は各層で上昇傾向にあるが、特に高校生、自営業が20年度調査と比べて10ポイント以上上昇している。
- ▶ 性別では、過去2回調査と比べて、男性は「テレビ」が低下している。「インターネット」は男女ともに過去2回調査から上昇傾向。
- ▶ 地域別では、東北で「インターネット」と「携帯電話」が過去2回調査と比べて上昇傾向にあるのに対し、「テレビ」「ポスター」「新聞」「雑誌」「自治体の広報誌」は20年度調査と比べてそれぞれ5ポイント以上低下している。その他、関東甲信越と中国・四国でも「テレビ」及び「雑誌」が20年度調査と比べて低下している。

(2) 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 (Q7)

Q7. 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか。(いくつでも)



3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(3) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q8)

【けんけつちゃんの認知率は4割強】

- 献血キャラクター「けんけつちゃん」の認知率は44.3%で、献血経験者の半数近くの人が認知している。
- 職業別では、大学生・専門学校生 (57.3%)、高校生 (56.1%) といった学生層での認知率が特に高く、認知者が6割にのぼる。
- 性別では、女性の認知率 (52.0%) が男性の認知率 (36.7%) と比べて15ポイント高い。
- 地域別では、近畿での認知率が37.3%で他の地域と比べて低い。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、全体でのけんけつちゃんの認知率は17ポイント上昇、さらに20年度調査と23年度調査を比べると21ポイント上昇しており、認知が進んでいるといえる。
- 職業別では、各層で17年度調査より認知率が上昇傾向にあるが、特に高校生、大学生・専門学校生といった学生層での上昇率が高い。
- 性別では、女性の認知率が20年度調査と比べて23ポイントと大幅に上昇している。
- 地域別では、北海道の認知率は20年度調査では他の地域と比べて低かったが、23年度調査では20年度調査より27ポイントと大幅に上昇し、他の地域と同様4割を超える認知率となった。

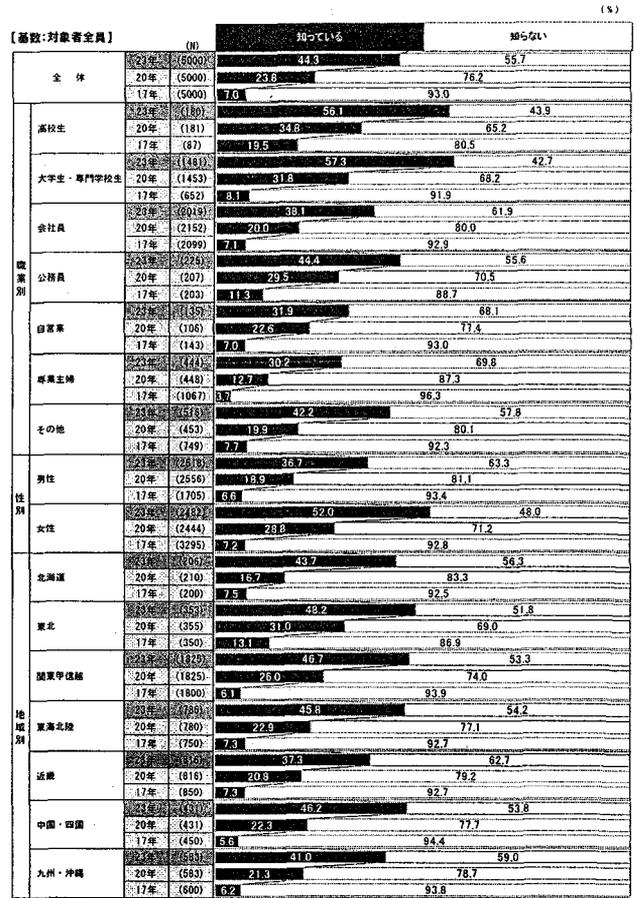
3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(3) 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知 (Q8)

Q8. 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。



3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(4) 献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象 (Q9)

<新規質問>

【けんけつちゃんの印象は6割弱が「よい」】

- 献血キャラクター「けんけつちゃん」を知っている人にけんけつちゃんの印象をたずねたところ、「よい」と感じている人が58.4%で6割弱を占め、半数以上となった。対して「わるい」は3.0%であった。
- 職業別では、高校生で「よい」が67.3%と7割弱を占め、他の層と比べて評価が高い。なお、自営業は回答者数が少ないため、参考値。
- 性別では、「よい」と感じている人が男性 (54.9%) と比べて女性 (60.9%) で6ポイント高い。
- 地域別では、北海道は「わるい」評価がほとんどないが、「どちらともいえない」が52.2%で半数を占め、他の地域と比べて高い。

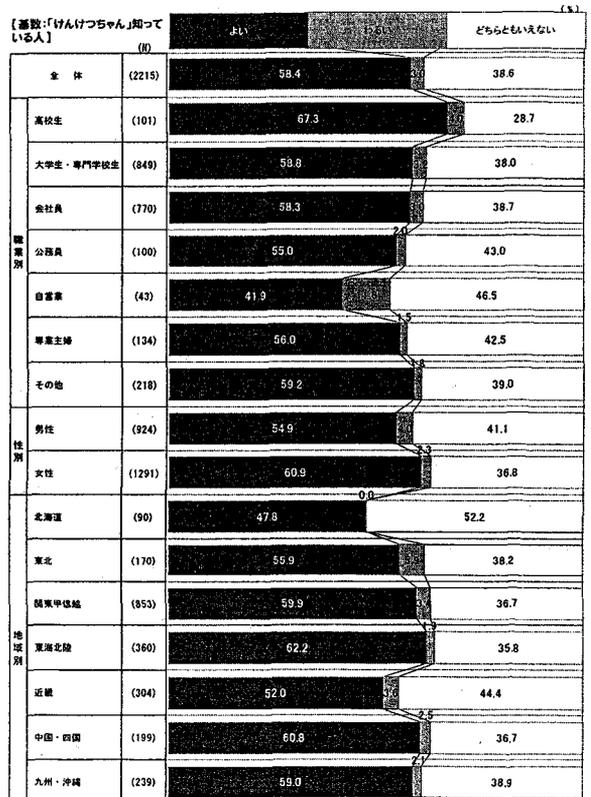
3. 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

【経験者編】



(4) 献血キャラクター「けんけつちゃん」の印象 (Q9)

Q9. Q8で「けんけつちゃん」を知っていると答えた方へお聞きします。献血推進のキャラクターとして「けんけつちゃん」の印象を教えてください。





(5) 献血キャンペーン認知 (Q10)

【最も認知されている献血キャンペーンは「はたちの献血」で4割強】

- 献血に関するキャンペーンを知っているかたずねたところ、「はたちの献血キャンペーン」の認知率が他のキャンペーンと比べて高く、43.1%と半数近くにのぼる。次いで「LOVE in Actionキャンペーン」が24.4%、「愛の血液助け合い運動」が17.9%で、それぞれ2割前後の認知率であった。一つもキャンペーンを知らない人は42.6%で、何らかのキャンペーンを知っている人の方が多かった。
- 職業別では、公務員でいずれのキャンペーンも「知らない」と回答した人は28.4%。4人中3人近くの人が何らかのキャンペーンを認知しており、他の層と比べてキャンペーンの認知率が高い。またキャンペーンごとにも見ていくと、「はたちの献血キャンペーン」は公務員での認知率(57.3%)が他の層と比べて高く、一方高校生の認知率は28.9%と低い。「LOVE in Actionキャンペーン」は大学生・専門学校生で30.0%に認知されており他の層と比べて高く、「愛の血液助け合い運動」は高校生で26.1%認知されており高い。
- 性別では、男性に比べて女性において、いずれかのキャンペーンを認知している割合が10ポイント高い。特に「はたちの献血キャンペーン」は男性の認知率(37.4%)と比べて女性の認知率(48.9%)が高い。
- 地域別では、「はたちの献血キャンペーン」は北海道の認知率(50.0%)が他の地域と比べて高く、「LOVE in Actionキャンペーン」は東北の認知率(38.2%)が他の地域と比べて高い。

<参考>17年度・20年度調査結果>

※17年度調査及び20年度調査ではキャンペーンを「知っている」「知らない」のうち1つを選択することにより回答。

全体	知っている (%)	知らない (%)
20年 (5000)	43.1	42.6
17年 (5000)	44.1	43.6
高校生 (190)	28.9	48.3
17年 (187)	29.9	47.6
大学生・専門学校生 (1481)	42.8	39.2
17年 (1453)	43.9	38.9
会社員 (2019)	42.7	44.4
17年 (2099)	45.7	43.0
公務員 (225)	57.3	28.4
17年 (209)	57.3	28.4
自営業 (135)	37.8	46.7
17年 (143)	37.8	46.7
専業主婦 (444)	42.8	45.5
17年 (1067)	42.8	45.5
その他 (516)	45.7	45.5
17年 (749)	45.7	45.5
性別		
男性 (2516)	37.4	47.4
17年 (1795)	38.8	46.4
女性 (2482)	48.9	37.7
17年 (3205)	49.1	37.0
地域別		
北海道 (209)	50.0	39.0
17年 (241)	49.8	39.0
東北 (353)	38.2	46.0
17年 (350)	38.2	46.0
関東甲信越 (1823)	40.0	46.1
17年 (1800)	40.8	45.1
東海北陸 (786)	39.9	43.8
17年 (750)	40.0	43.0
近畿 (816)	44.6	43.6
17年 (850)	44.6	43.6
中国・四国 (431)	47.6	42.0
17年 (431)	47.6	42.0
九州・沖縄 (583)	47.2	38.3
17年 (600)	47.2	38.3

【基数：キャンペーン認知者】

20年度調査「キャンペーン認知者」(n)	2871
印象に残ったフレーズ等なし/覚えていない	65.9%
印象に残ったフレーズ等/記憶あり	34.1%

はたちの献血
石川運が出たCM、ポスター
LOVE in Action
あなたの献血で救われる命があります
献血は愛
ほくらも、いのちの、助けになれる
～型の血液が不足しています
けんけつちゃんの影響、グッズ
40分で救える命がある
血液を必要としている人がいます



(6) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q11)

【HOP STEP JUMPを配布された人は2割弱】

- 高校3年生を対象に、「HOP STEP JUMP」という普及啓発資料が配布されていることを認知している人は15.1%と2割弱。授業で使用した経験がある人は5.3%にとどまる。
- 職業別では、高校生の認知率が37.2%と高く4割弱にのぼる。また大学生・専門学校生が25.0%で3割弱にのぼり、勤労者と比べて認知率が高い。
- 性別による大きな差はみられない。
- 地域別では、北海道の認知率が10.2%で、他の地域と比べてやや低い。

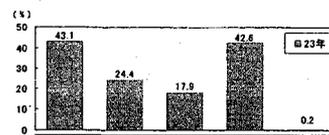
- > 20年度調査と比べると、全体では大きな変化はみられない。
- > 職業別では、大学生・専門学校生において、17年度調査より認知率が上昇傾向にある。
- > 性別では、大きな変化はみられない。
- > 地域別では、北海道において17年度調査と20年度調査を比べると認知率が上昇していたが、23年度調査は低下しており17年度調査並みの認知率となった。



(5) 献血キャンペーン認知 (Q10)

Q10. 献血に関するキャンペーンを知っていますか。(いくつでも)

(キャンペーン認知者に対し)献血に関するキャンペーンで、印象に残ったキャッチフレーズやメッセージがあれば、ご記入下さい。



【基数：対象者全員】

全体	知っている (%)	知らない (%)
20年 (5000)	43.1	42.6
17年 (5000)	44.1	43.6
高校生 (190)	28.9	48.3
17年 (187)	29.9	47.6
大学生・専門学校生 (1481)	42.8	39.2
17年 (1453)	43.9	38.9
会社員 (2019)	42.7	44.4
17年 (2099)	45.7	43.0
公務員 (225)	57.3	28.4
17年 (209)	57.3	28.4
自営業 (135)	37.8	46.7
17年 (143)	37.8	46.7
専業主婦 (444)	42.8	45.5
17年 (1067)	42.8	45.5
その他 (516)	45.7	45.5
17年 (749)	45.7	45.5
性別		
男性 (2516)	37.4	47.4
17年 (1795)	38.8	46.4
女性 (2482)	48.9	37.7
17年 (3205)	49.1	37.0
地域別		
北海道 (209)	50.0	39.0
17年 (241)	49.8	39.0
東北 (353)	38.2	46.0
17年 (350)	38.2	46.0
関東甲信越 (1823)	40.0	46.1
17年 (1800)	40.8	45.1
東海北陸 (786)	39.9	43.8
17年 (750)	40.0	43.0
近畿 (816)	44.6	43.6
17年 (850)	44.6	43.6
中国・四国 (431)	47.6	42.0
17年 (431)	47.6	42.0
九州・沖縄 (583)	47.2	38.3
17年 (600)	47.2	38.3



(6) 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶 (Q11)

Q11. 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資料「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

全体	20年 (5000)	17年 (5000)	配布された記憶		知らない (%)	認知計 (%)
			配布された	記憶なし		
全体	9.0	9.0	84.9	85.3	15.1	14.7
20年	9.0	9.0	84.9	85.3	15.1	14.7
17年	9.0	9.0	84.9	85.3	15.1	14.7
高校生	37.2	21.0	66.5	65.6	31.5	34.5
20年	37.2	21.0	66.5	65.6	31.5	34.5
17年	37.2	21.0	66.5	65.6	31.5	34.5
大学生・専門学校生	25.0	13.9	79.1	81.4	25.0	20.9
20年	25.0	13.9	79.1	81.4	25.0	20.9
17年	25.0	13.9	79.1	81.4	25.0	20.9
会社員	5.9	6.2	89.5	88.3	10.4	11.7
20年	5.9	6.2	89.5	88.3	10.4	11.7
17年	5.9	6.2	89.5	88.3	10.4	11.7
公務員	11.6	7.7	85.3	87.0	14.7	13.0
20年	11.6	7.7	85.3	87.0	14.7	13.0
17年	11.6	7.7	85.3	87.0	14.7	13.0
自営業	5.2	8.8	80.4	85.8	9.6	14.2
20年	5.2	8.8	80.4	85.8	9.6	14.2
17年	5.2	8.8	80.4	85.8	9.6	14.2
専業主婦	4.1	6.0	83.9	91.9	6.2	6.3
20年	4.1	6.0	83.9	91.9	6.2	6.3
17年	4.1	6.0	83.9	91.9	6.2	6.3
その他	5.1	7.7	86.7	86.5	8.1	6.8
20年	5.1	7.7	86.7	86.5	8.1	6.8
17年	5.1	7.7	86.7	86.5	8.1	6.8
性別						
男性	10.0	9.3	84.4	87.3	15.7	16.2
20年	10.0	9.3	84.4	87.3	15.7	16.2
17年	10.0	9.3	84.4	87.3	15.7	16.2
女性	8.6	8.7	85.4	86.9	14.6	13.1
20年	8.6	8.7	85.4	86.9	14.6	13.1
17年	8.6	8.7	85.4	86.9	14.6	13.1
地域別						
北海道	10.2	11.0	81.9	88.5	10.2	11.5
20年	10.2	11.0	81.9	88.5	10.2	11.5
17年	10.2	11.0	81.9	88.5	10.2	11.5
東北	11.0	11.8	85.6	82.0	14.4	18.0
20年	11.0	11.8	85.6	82.0	14.4	18.0
17年	11.0	11.8	85.6	82.0	14.4	18.0
関東甲信越	10.2	7.9	83.8	85.1	16.1	14.9
20年	10.2	7.9	83.8	85.1	16.1	14.9
17年	10.2	7.9	83.8	85.1	16.1	14.9
東海北陸	11.2	7.6	83.2	84.2	16.8	15.8
20年	11.2	7.6	83.2	84.2	16.8	15.8
17年	11.2	7.6	83.2	84.2	16.8	15.8
近畿	8.6	8.2	86.6	85.5	13.4	14.5
20年	8.6	8.2	86.6	85.5	13.4	14.5
17年	8.6	8.2	86.6	85.5	13.4	14.5
中国・四国	10.0	10.0	84.5	84.5	15.6	13.5
20年	10.0	10.0	84.5	84.5	15.6	13.5
17年	10.0	10.0	84.5	84.5	15.6	13.5
九州・沖縄	6.2	6.9	86.1	89.5	8.9	13.8
20年	6.2	6.9	86.1	89.5	8.9	13.8
17年	6.2	6.9	86.1	89.5	8.9	13.8



(1) 献血では感染症に感染しないことの認知 (Q12)

【献血では感染症に感染しないことの認知率は7割強】

- 献血でエイズ、肝炎といった感染症に感染しないことを認知している人は72.4%。
- 職業別では、自営業の認知率が57.0%で6割弱にとどまり、他の層と比べて低い。
- 性別では、女性の認知率(75.4%)が男性の認知率(69.4%)と比べて6ポイント高い。
- 地域別では、東北の認知率(68.3%)が他の地域と比べてやや低い。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、全体での認知率はほぼ横並びであったが、23年度調査は20年度調査と比べて6ポイント認知率が低下している。
- 職業別では、各層で20年度調査より認知率が低下しているが、特に自営業で18ポイント低下して顕著。
- 性別では、男女ともに20年度調査と比べると認知率が低下している。
- 地域別では、東北で20年度調査と比べて認知率の低下が大きく、13ポイント低下している。



(1) 献血では感染症に感染しないことの認知 (Q12)

Q12. 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

【高次:対象者全員】

	年次	n	知っている		知らない	
			割合	人数	割合	人数
全体	23年	(5000)	72.4	3612	27.6	1388
	20年	(5000)	78.4	3920	21.6	1080
	17年	(5000)	79.9	3995	20.1	1005
高校生	23年	(180)	69.3	125	30.7	65
	20年	(181)	76.2	138	23.8	43
	17年	(87)	78.2	68	21.8	19
大学生・専門学校生	23年	(481)	76.2	366	23.8	115
	20年	(1453)	80.6	1170	19.4	283
	17年	(652)	80.6	525	19.5	127
会社員	23年	(2019)	71.0	1433	29.0	586
	20年	(2152)	76.4	1644	23.6	508
	17年	(2099)	80.2	1683	19.8	416
公務員	23年	(225)	77.8	175	22.2	50
	20年	(207)	81.6	169	18.4	38
	17年	(203)	88.2	179	11.8	24
自営業	23年	(326)	57.0	186	43.0	140
	20年	(106)	74.5	79	25.5	27
	17年	(143)	83.9	120	16.1	23
専業主婦	23年	(448)	72.7	326	27.3	122
	20年	(448)	81.5	365	18.5	43
	17年	(1067)	79.4	847	20.6	220
その他	23年	(316)	69.4	219	30.6	97
	20年	(453)	78.4	355	21.6	68
	17年	(749)	76.5	573	23.5	176
性別	23年	(2518)	69.4	1547	30.6	971
	20年	(2556)	76.2	1947	23.8	609
	17年	(1705)	77.2	1314	22.8	391
女性	23年	(1423)	75.4	1073	24.6	350
	20年	(2444)	80.8	1973	19.2	471
	17年	(3295)	81.3	2680	18.7	615
地域別	23年	(205)	75.2	154	24.8	51
	20年	(210)	79.0	166	21.0	44
	17年	(200)	84.5	169	15.5	31
北海道	23年	(353)	68.3	241	31.7	112
	20年	(355)	81.4	289	18.6	66
	17年	(350)	83.4	292	16.6	48
東北	23年	(1825)	71.1	1307	28.9	518
	20年	(1825)	76.3	1391	23.7	434
	17年	(1800)	79.1	1424	20.9	376
関東甲信越	23年	(766)	72.3	554	27.7	212
	20年	(780)	79.4	619	20.6	161
	17年	(750)	79.6	597	20.4	153
近畿	23年	(818)	72.8	596	27.2	222
	20年	(818)	78.7	644	21.3	174
	17年	(850)	78.9	670	21.2	180
中国・四国	23年	(431)	74.2	320	25.8	111
	20年	(431)	81.7	352	18.3	59
	17年	(450)	79.1	356	20.9	94
九州・沖縄	23年	(582)	79.1	460	20.9	122
	20年	(582)	81.2	472	18.8	60
	17年	(600)				



(2) 血液製剤の海外血液依存の認知 (Q13)

【血液製剤の海外血液依存の認知率は2割】

- 血液製剤は未だ海外の血液に依存しているということを知っている人は20.3%で、5人中1人の割合。
- 職業別では、専業主婦の認知率(13.1%)が他の層と比べて低く、1割強にとどまる。一方高校生の認知率は26.1%で他の層と比べて高い。
- 性別では、大きな差はみられない。
- 地域別では、中国・四国の認知率(26.7%)が他の地域と比べて高い。

- 20年度調査と17年度調査を比べると、全体での認知率は6ポイント低下し、23年度調査は20年度調査と比べてさらに5ポイント認知率が低下している。
- 職業別では、各層で認知率は17年度調査から低下傾向にある。
- 性別では、男女ともに認知率は17年度調査から低下傾向にある。
- 地域別では、中国・四国の認知率のみが20年度調査と比べてやや上昇した。その他の地域は20年度調査の認知率を下回っている。



(2) 血液製剤の海外血液依存の認知 (Q13)

Q13. 血液製剤(*)は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

*重症輸血に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ58%台である。

【高次:対象者全員】

	年次	n	知っている		知らない	
			割合	人数	割合	人数
全体	23年	(5000)	20.3	1015	79.7	3985
	20年	(5000)	25.3	1265	74.7	3735
	17年	(5000)	30.8	1540	69.2	2460
高校生	23年	(180)	26.1	47	73.9	133
	20年	(181)	32.0	33	68.0	68
	17年	(87)	34.5	30	65.5	57
大学生・専門学校生	23年	(481)	29.1	140	70.9	341
	20年	(1453)	26.9	390	73.1	1063
	17年	(652)	32.7	213	67.3	439
会社員	23年	(2019)	20.3	410	79.7	1609
	20年	(2152)	24.7	532	75.3	1620
	17年	(2099)	32.9	691	67.1	1408
公務員	23年	(225)	23.1	52	76.9	173
	20年	(207)	28.0	58	72.0	149
	17年	(203)	37.4	76	62.6	127
自営業	23年	(326)	20.0	65	79.9	261
	20年	(106)	29.2	31	70.8	75
	17年	(143)	37.8	54	62.2	109
専業主婦	23年	(448)	13.1	59	86.9	389
	20年	(448)	20.6	92	79.4	356
	17年	(1087)	23.3	114	76.7	973
その他	23年	(316)	14.9	47	85.1	269
	20年	(453)	22.3	101	77.7	352
	17年	(749)	30.4	228	69.6	521
性別	23年	(2518)	22.0	554	78.0	1964
	20年	(2556)	27.0	690	73.0	1866
	17年	(1705)	35.6	300	64.4	1405
女性	23年	(1423)	18.6	206	81.4	1217
	20年	(2444)	23.5	595	76.5	1849
	17年	(3295)	28.3	350	71.7	2945
地域別	23年	(205)	19.4	40	80.6	165
	20年	(210)	26.2	44	73.8	166
	17年	(200)	25.5	41	74.5	159
北海道	23年	(353)	16.4	58	83.6	295
	20年	(355)	26.8	127	73.2	228
	17年	(350)	34.9	123	65.1	227
東北	23年	(1825)	19.6	368	80.4	1457
	20年	(1825)	25.0	337	75.0	1488
	17年	(1800)	27.0	321	73.0	1479
関東甲信越	23年	(766)	18.5	141	81.5	625
	20年	(780)	23.5	186	76.5	594
	17年	(750)	33.9	225	66.1	525
近畿	23年	(818)	23.0	188	77.0	630
	20年	(818)	27.8	223	72.2	595
	17年	(850)	32.8	272	67.2	578
中国・四国	23年	(431)	26.7	115	73.3	316
	20年	(431)	22.3	94	77.7	337
	17年	(450)	31.6	142	68.4	308
九州・沖縄	23年	(582)	20.2	117	79.8	465
	20年	(582)	23.8	139	76.2	443
	17年	(600)	31.5	189	68.5	411



(1) ルームの雰囲気について (Q14-1)

【献血ルームのイメージは「明るい」イメージが「暗い」イメージを上回る】

- 献血ルームのイメージについては、「ふつう」の印象を持っている人が47.5%を占め、ほぼ半数。「明るい」イメージが38.5%に対して、「暗い」イメージが5.7%で「明るい」イメージが「暗い」イメージを大きく上回っており好評価。
- 職業別では、自営業で「ふつう」(50.4%)や「わからない」(11.9%)といった割合が高く、「明るい」イメージ(32.6%)を持っている人の割合が他の層と比べて低い。
- 性別では、「明るい」と評価する割合は女性(43.4%)が男性(33.7%)を10ポイント上回り高い。
- 地域別では、「明るい」イメージが近畿(32.2%)で最も低く3割強にとどまる。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、全体で「明るい」と評価する割合は7ポイント低下している。20年度調査と23年度調査では大きな変化はみられない。
- 職業別では、高校生で「明るい」と評価する割合が、17年度調査と20年度調査を比べると10ポイント低下していたが、23年度調査では上昇し、17年度調査の割合と横並び。
- 性別では、17年度調査と比べて20年度調査で男女ともに「明るい」の割合が低下していたが、23年度調査では上昇している。
- 地域別では、北海道と東北では17年度調査から「明るい」の割合が低下傾向にある。その他の地域では、17年度調査と20年度調査を比べると「明るい」の割合が低下しているが、23年度調査では上昇し、ほぼ17年度調査並みに回復している。



(2) ルームの広さについて (Q14-2)

【献血ルームの広さは「ふつう」が半数】

- 献血ルームの広さのイメージについてたずねたところ、「広い」が22.2%に対して、「狭い」が20.2%でありほぼ同率である。「ふつう」と評価する人が47.3%でほぼ半数を占める。
- 職業別では、「狭い」と感じている割合が自営業(15.6%)で他の層と比べるとやや低い。
- 性別では、女性で「広い」と感じる割合(24.9%)が男性(19.6%)と比べて5ポイント高い。
- 地域別では、近畿で「広い」と感じる人の割合(17.4%)が他の地域と比べて低く、「狭い」(25.4%)と感じる人が多い。

- 過去2回調査と比べると、全体のイメージは概ね変化していない。
- 職業別では、20年度調査と比べると、会社員、公務員、自営業で「狭い」と感じる人の割合が低下している。
- 性別では、20年度調査と比べると、男性で「狭い」と感じる割合が5ポイント低下している。
- 地域別では、20年度調査と比べると、東北、関東甲信越、九州・沖縄で「狭い」と感じる割合がそれぞれ5ポイント以上低下している。



(1) ルームの雰囲気について (Q14-1)

Q14. 献血ルームのイメージを教えてください。(1) ルームの雰囲気

【基数：対象者全員】		(n)	明るい	暗い	わからない
全体	20年	(5000)	38.5	5.7	57.8
	20年	(5000)	34.7	7.8	57.5
	17年	(5000)	42.1	8.3	49.6
高校生	20年	(181)	38.9	7.2	53.9
	20年	(181)	29.3	9.4	61.3
	17年	(87)	39.1	9.2	51.7
大学生・専門学校生	20年	(1453)	41.5	9.0	49.5
	20年	(1453)	37.8	7.0	55.2
	17年	(652)	51.1	7.7	41.2
会社員	20年	(2152)	32.1	7.8	59.1
	20年	(2099)	40.3	9.1	50.6
	17年	(2099)	40.6	4.0	55.4
公務員	20年	(207)	42.0	4.1	53.9
	20年	(203)	43.3	4.0	52.7
	17年	(203)	32.6	5.2	62.2
自営業	20年	(106)	34.0	7.3	58.7
	20年	(143)	42.0	7.7	50.3
	17年	(143)	39.9	6.8	53.3
専業主婦	20年	(448)	35.3	6.7	58.0
	20年	(1067)	38.8	9.1	52.1
	17年	(1067)	39.1	6.8	54.1
その他	20年	(453)	39.3	9.1	51.6
	20年	(749)	43.0	6.4	50.6
	17年	(749)	33.7	6.1	60.2
男性	20年	(2556)	29.9	6.7	63.4
	20年	(1705)	38.2	9.1	52.7
	17年	(1705)	43.4	5.4	51.2
女性	20年	(2444)	39.7	6.6	53.7
	20年	(3295)	44.2	7.8	48.0
	17年	(3295)	39.3	6.4	54.3
北海道	20年	(210)	43.3	5.6	51.1
	20年	(200)	50.5	7.5	42.0
	17年	(200)	34.6	4.2	61.2
東北	20年	(355)	37.7	5.9	56.4
	20年	(350)	47.1	4.3	48.6
	17年	(350)	41.3	6.9	51.8
関東甲信越	20年	(1825)	35.0	7.8	57.2
	20年	(1800)	44.1	8.6	47.3
	17年	(1800)	37.0	5.3	57.7
東海北陸	20年	(780)	32.7	6.9	60.4
	20年	(750)	39.6	8.8	51.6
	17年	(750)	32.2	7.5	60.3
近畿	20年	(816)	29.9	6.4	63.7
	20年	(850)	34.1	12.2	53.7
	17年	(850)	37.4	4.1	58.5
中国・四国	20年	(431)	34.6	6.5	58.9
	20年	(450)	39.8	6.7	53.5
	17年	(450)	42.2	7.7	50.1
九州・沖縄	20年	(583)	38.3	6.8	54.9
	20年	(600)	48.8	5.2	46.0
	17年	(600)	48.8	5.2	46.0

注：17年は「わからない」の回答数なし。



(2) ルームの広さについて (Q14-2)

Q14. 献血ルームのイメージを教えてください。(2) ルームの広さについて

【基数：対象者全員】		(n)	広い	狭い	わからない
全体	20年	(5000)	22.2	20.2	10.3
	20年	(5000)	20.4	24.5	7.0
	17年	(5000)	20.9	24.5	7.2
高校生	20年	(181)	18.3	26.1	7.2
	20年	(181)	18.3	27.1	8.3
	17年	(87)	18.5	29.7	7.7
大学生・専門学校生	20年	(1453)	23.3	21.9	9.0
	20年	(1453)	20.5	25.1	5.9
	17年	(652)	24.7	22.5	5.9
会社員	20年	(2152)	21.0	19.1	10.9
	20年	(2099)	18.9	24.3	7.3
	17年	(2099)	19.9	24.9	7.3
公務員	20年	(207)	23.1	16.9	10.7
	20年	(203)	26.6	26.6	5.8
	17年	(203)	22.7	19.2	10.7
自営業	20年	(106)	19.3	15.6	14.8
	20年	(143)	21.7	32.1	4.7
	17年	(143)	17.5	23.1	10.9
専業主婦	20年	(448)	23.4	21.8	8.3
	20年	(1067)	29.1	24.1	7.1
	17年	(1067)	20.7	27.0	7.1
その他	20年	(453)	21.1	19.0	12.6
	20年	(749)	24.7	19.6	9.5
	17年	(749)	21.4	22.7	12.6
男性	20年	(2556)	19.6	22.3	10.7
	20年	(1705)	17.6	27.7	6.7
	17年	(1705)	17.4	26.8	10.7
女性	20年	(2444)	24.9	18.0	9.8
	20年	(3295)	23.9	21.1	7.4
	17年	(3295)	22.5	23.3	10.7
北海道	20年	(210)	20.9	19.9	12.6
	20年	(200)	23.9	21.4	9.5
	17年	(200)	24.0	22.5	12.6
東北	20年	(355)	19.3	18.7	13.0
	20年	(350)	22.8	24.5	9.3
	17年	(350)	20.0	20.9	13.0
関東甲信越	20年	(1825)	24.6	19.4	9.3
	20年	(1800)	21.2	24.4	5.6
	17年	(1800)	22.2	23.9	9.3
東海北陸	20年	(780)	20.1	20.0	9.8
	20年	(750)	19.4	22.8	7.2
	17年	(750)	20.9	24.0	7.2
近畿	20年	(816)	17.4	25.4	10.3
	20年	(850)	19.0	28.6	7.4
	17年	(850)	17.4	30.6	10.3
中国・四国	20年	(431)	20.9	23.0	8.6
	20年	(431)	14.8	23.0	8.6
	17年	(450)	20.7	25.6	8.6
九州・沖縄	20年	(583)	21.8	16.3	8.7
	20年	(600)	23.5	23.3	7.4
	17年	(600)	22.5	20.0	8.7

注：17年は「わからない」の回答数なし。



(3) 職員の対応について (Q14-3)

【 職員の対応については半数が「良い」印象 】

- 職員の対応についてたずねたところ、「良い」がほぼ半数の48.4%を占める。また「ふつう」も41.3%となっており、「悪い」と感じる人は3.0%にとどまった。職員に対する評価は概ね良好である。
- 職業別では、「良い」の割合が高校生で55.6%、大学生・専門学校生で56.4%となり、それぞれ6割弱を占め、他の層と比べて評価が高い。
- 性別・地域別による大きな差はみられない。

- 20年度調査と比べると、全体でのイメージに大きな変化はみられない。
- 職業別では、大学生・専門学校生で「良い」の割合が20年度調査と比べると5ポイント上昇している。
- 性別・地域別では、20年度調査と比べて大きな変化はみられない。



(3) 職員の対応について (Q14-3)

Q14. 献血ルームのイメージを教えてください。 (3) 職員の対応について

【基数:対象者全員】	(N)	イメージ			
		良い	ふつう	悪い	わからない
全体	23年 (5000)	48.4	41.3	3.0	7.4
	20年 (5000)	47.2	44.9	3.0	5.5
	17年 (5000)	37.8	51.5	3.0	4.7
高校生	23年 (180)	55.6	38.9	3.0	3.0
	20年 (181)	53.0	40.3	3.0	3.4
	17年 (87)	48.7	49.6	3.0	3.7
大学生・専門学校生	23年 (1481)	56.4	38.9	3.0	3.0
	20年 (1453)	51.1	41.1	3.0	3.0
	17年 (652)	45.6	48.0	3.0	4.4
会社員	23年 (2018)	42.5	45.6	3.0	8.4
	20年 (2152)	44.1	42.6	3.0	7.4
	17年 (2099)	36.3	52.6	3.0	5.1
職業別	23年 (1225)	45.3	41.3	3.0	7.9
	20年 (207)	48.3	41.3	3.0	6.8
	17年 (203)	40.4	47.8	3.0	7.0
自営業	23年 (335)	48.9	37.6	3.0	6.4
	20年 (106)	50.0	37.7	3.0	6.4
	17年 (143)	32.9	62.9	3.0	4.2
専業主婦	23年 (444)	45.7	45.0	3.0	6.3
	20年 (448)	44.4	44.2	3.0	6.6
	17年 (1067)	34.6	54.6	3.0	5.2
その他	23年 (436)	49.2	37.1	3.0	10.9
	20年 (453)	48.1	37.1	3.0	7.9
	17年 (749)	38.5	52.6	3.0	7.0
性別	23年 (2510)	47.2	41.3	3.0	7.8
	20年 (2556)	45.9	42.1	3.0	5.4
	17年 (1705)	37.2	52.6	3.0	4.3
女性	23年 (2444)	47.4	40.3	3.0	6.9
	20年 (3295)	38.1	54.6	3.0	4.9
	17年 (3295)	38.1	54.6	3.0	4.9
地域別	23年 (210)	52.9	37.6	3.0	6.3
	20年 (210)	50.5	40.0	3.0	6.7
	17年 (200)	45.0	47.0	3.0	6.3
東北	23年 (353)	48.4	37.6	3.0	6.5
	20年 (355)	48.5	37.6	3.0	6.2
	17年 (350)	38.3	51.6	3.0	5.1
関東甲信越	23年 (1825)	48.8	37.6	3.0	7.1
	20年 (1825)	45.8	41.3	3.0	6.2
	17年 (1800)	38.4	54.6	3.0	3.0
東海北陸	23年 (786)	49.6	37.6	3.0	6.5
	20年 (780)	47.7	37.6	3.0	6.3
	17年 (750)	37.9	54.6	3.0	4.4
近畿	23年 (816)	45.8	41.3	3.0	7.9
	20年 (816)	47.2	37.6	3.0	6.3
	17年 (850)	35.4	54.6	3.0	5.4
中国・四国	23年 (403)	49.7	37.6	3.0	10.0
	20年 (431)	50	37.6	3.0	11.5
	17年 (450)	33.8	54.6	3.0	6.3
九州・沖縄	23年 (583)	47.0	37.6	3.0	7.9
	20年 (583)	46.5	37.6	3.0	6.8
	17年 (600)	39.5	54.6	3.0	5.7

注: 17年は「わからない」の回答数なし。



(4) 記念品や軽い飲食物について (Q14-4)

【 記念品や軽い飲食物については4割強が「良い」印象 】

- 記念品や軽い飲食物についてたずねたところ、「良い」が43.6%に対し、「悪い」は7.9%となっており、「良い」と感じる人の割合が大きく上回る。なお、「ふつう」という意見も41.7%を占める。
- 職業別では、自営業で「良い」評価(35.6%)が他の層と比べて低く、一方大学生・専門学校生(47.9%)と専業主婦(48.4%)では「良い」評価が高く半数近くを占める。
- 性別では、女性の「良い」評価(47.9%)が男性(39.3%)を9ポイント上回り高い。
- 地域別では、東海北陸で「良い」評価(48.1%)が他の地域と比べてやや高く、一方近畿では「良い」評価(38.8%)が他の地域と比べてやや低い。

- 過去2回調査と比べて、全体での「良い」評価は上昇傾向である。
- 職業別では、過去2回調査と比べて、大学生・専門学校生、会社員、専業主婦で「良い」評価が上昇傾向にある。
- 性別では、男女ともに過去2回調査と比べて、「良い」が上昇し、「ふつう」が低下の傾向にある。
- 地域別では、東海北陸で過去2回調査と比べて、「良い」が上昇し、「ふつう」が低下の傾向にある。



(4) 記念品や軽い飲食物について (Q14-4)

Q14. 献血ルームのイメージを教えてください。 (4) 記念品や軽い飲食物について

【基数:対象者全員】	(N)	イメージ			
		良い	ふつう	悪い	わからない
全体	23年 (5000)	43.6	41.7	7.9	6.8
	20年 (5000)	40.9	46.9	9.9	10.0
	17年 (5000)	26.7	51.8	11.8	7.9
高校生	23年 (180)	41.7	40.0	10.8	6.7
	20年 (181)	40.9	40.9	11.6	7.2
	17年 (87)	47.1	37.6	14.9	3.0
大学生・専門学校生	23年 (1481)	47.9	37.6	7.8	5.3
	20年 (1453)	43.8	41.3	10.0	4.7
	17年 (652)	41.6	41.3	8.6	6.3
会社員	23年 (2018)	40.0	41.3	6.3	7.2
	20年 (2152)	37.8	41.3	10.3	5.1
	17年 (2099)	34.0	47.8	12.9	3.0
職業別	23年 (1225)	42.7	37.6	6.0	7.1
	20年 (207)	44.0	37.6	10.6	3.8
	17年 (203)	44.3	37.6	8.9	3.0
自営業	23年 (335)	35.6	41.3	10.4	10.4
	20年 (106)	31.0	41.3	14.2	11.8
	17年 (143)	35.7	41.3	8.4	11.8
専業主婦	23年 (444)	48.4	37.6	5.1	6.5
	20年 (448)	44.6	37.6	7.1	12.2
	17年 (1067)	36.6	41.3	12.3	6.3
その他	23年 (436)	44.0	37.6	6.3	9.1
	20年 (453)	42.8	37.6	7.9	6.4
	17年 (749)	37.4	41.3	11.2	6.3
性別	23年 (2510)	39.3	41.3	9.3	7.5
	20年 (2556)	37.6	41.3	11.8	5.5
	17年 (1705)	31.1	41.3	13.4	3.0
女性	23年 (2444)	47.9	37.6	6.2	6.1
	20年 (3295)	44.3	37.6	7.8	12.4
	17年 (3295)	39.6	41.3	10.9	3.0
地域別	23年 (210)	47.2	37.6	6.3	7.3
	20年 (210)	49.0	37.6	9.0	7.1
	17年 (200)	40.0	41.3	10.0	3.0
東北	23年 (353)	41.9	37.6	9.6	7.9
	20年 (355)	41.1	37.6	8.5	5.6
	17年 (350)	34.6	41.3	12.6	3.0
関東甲信越	23年 (1825)	45.6	37.6	8.2	6.6
	20年 (1825)	39.9	41.3	10.1	12.7
	17年 (1800)	40.4	37.6	11.6	3.0
東海北陸	23年 (786)	48.1	37.6	7.8	5.2
	20年 (780)	40.9	37.6	10.5	14.5
	17年 (750)	35.1	41.3	10.7	3.0
近畿	23年 (816)	38.8	41.3	6.3	7.0
	20年 (816)	37.1	41.3	9.4	12.9
	17年 (850)	30.0	41.3	13.9	3.0
中国・四国	23年 (403)	42.5	37.6	6.7	10.0
	20年 (431)	43.4	37.6	10.2	5.8
	17年 (450)	33.8	41.3	12.9	3.0
九州・沖縄	23年 (583)	40.1	37.6	5.5	6.3
	20年 (583)	43.9	37.6	9.9	12.9
	17年 (600)	39.5	41.3	10.0	3.0

注: 17年は「わからない」の回答数なし。



(1) 献血についての要望・知りたいこと (Q15)

【献血についての要望・知りたいことは多岐にわたる】

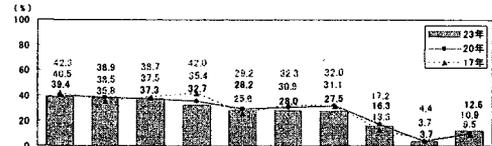
- 献血についての要望や知りたいことをたずねたところ、「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」が39.4%。僅差で「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(38.9%)、「献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい」(37.3%)などが続いており、突出したものはなく要望は多岐にわたっている。
- 職業別では、大学生・専門学校生で「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(44.4%)、「進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい」(21.5%)が他の層と比べて高い。また専業主婦では「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」(46.6%)、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」(36.7%)が他の層と比べて高い。自営業では要望・知りたいことは「特になし」の人が20.7%を占め、他の層と比べて高い。
- 性別では、総じて男性よりも女性で要望や知りたいことがある。特に女性では「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」(42.3%)、「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(41.5%)、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」(31.6%)、「献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい」(30.7%)といった要望が男性と比べて高い。
- 地域別では、多少のスパイクはあるものの、全体的には大きな違いはみられない。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、全体では「献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」が低下している。20年度調査と23年度調査は全体的に大きな変化はみられない。
- 職業別では、過去2回調査と比べて、自営業と専業主婦で総じて知りたいことや要望が減少している。
- 性別では、20年度調査と比べると、女性で「献血された血液がどのように使われるのか知りたい」が6ポイント低下している。また過去2回調査と比べると、女性で「献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」という要望が低下傾向である。
- 地域別では、20年度調査と比べると、東北、東海北陸、中国・四国で「献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」といった要望が低下した。



(1) 献血についての要望・知りたいこと (Q15)

Q15. 献血について何か要望又は知りたいことがありますか。(いくつでも)



【基数:対象者全員】

性別	職業別	地域別	年代	要望・知りたいこと												
				正しい知識、必要性を知らせてほしい	職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい	献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい	進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい	学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい	献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい	献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい	献血された血液がどのように使われるのかを知りたい	特になし	その他			
全体	20年(5000)	20年(5000)	20年(5000)	42.3	38.9	38.7	32.7	28.2	28.0	27.5	16.3	3.7	12.6	4.0	3.7	10.9
高校生	20年(181)	20年(181)	20年(181)	44.2	44.4	41.4	23.2	23.2	23.2	24.9	2.2	16.0	11.5	1.1	11.5	11.5
大学生・専門学校生	20年(1453)	20年(1453)	20年(1453)	40.0	40.0	37.2	36.1	23.9	23.9	23.9	2.9	12.0	12.0	1.9	12.0	12.0
会社員	20年(2152)	20年(2152)	20年(2152)	42.0	38.2	37.3	40.1	22.3	25.0	29.7	11.6	3.4	8.4	3.4	8.4	8.4
公務員	20年(207)	20年(207)	20年(207)	34.3	41.5	55.3	34.8	24.2	24.6	24.6	4.3	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4
自営業	20年(104)	20年(104)	20年(104)	37.0	44.2	41.5	34.0	29.2	27.4	33.0	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8	6.8
専業主婦	20年(448)	20年(448)	20年(448)	46.6	46.6	44.2	36.7	27.9	27.9	14.5	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
その他	20年(453)	20年(453)	20年(453)	44.2	39.7	39.9	33.5	28.9	32.6	10.4	5.6	12.6	12.6	4.9	12.6	12.6
男性	20年(2556)	20年(2556)	20年(2556)	36.6	36.4	36.3	31.0	24.8	26.5	15.3	2.8	15.3	15.3	2.8	15.3	15.3
女性	20年(2444)	20年(2444)	20年(2444)	42.3	41.5	38.4	34.5	31.6	30.7	17.2	4.6	9.9	9.9	4.6	9.9	9.9
北海道	20年(210)	20年(210)	20年(210)	42.8	45.3	38.7	40.9	29.3	30.7	26.5	16.6	3.1	9.3	3.1	9.3	9.3
東北	20年(354)	20年(354)	20年(354)	34.5	35.5	36.5	22.5	28.0	27.5	8.5	4.5	14.5	14.5	4.5	14.5	14.5
関東甲信越	20年(1825)	20年(1825)	20年(1825)	41.3	38.8	34.0	35.1	29.1	28.4	30.5	17.9	4.2	13.1	4.2	13.1	13.1
東海北陸	20年(780)	20年(780)	20年(780)	40.3	37.1	40.6	38.9	26.3	25.4	14.6	4.0	9.1	9.1	4.0	9.1	9.1
近畿	20年(816)	20年(816)	20年(816)	42.8	42.8	42.8	42.8	28.3	28.3	16.4	3.7	11.4	11.4	3.7	11.4	11.4
中国・四国	20年(431)	20年(431)	20年(431)	39.4	44.3	38.7	31.0	28.5	27.1	10.4	2.3	10.9	10.9	2.3	10.9	10.9
九州・沖縄	20年(583)	20年(583)	20年(583)	43.9	41.3	43.3	30.9	34.0	32.8	15.8	4.3	8.8	8.8	4.3	8.8	8.8

7. 初めての献血について



(1) 初めての献血した年齢 (Q16)

【初めての献血した年齢は10代が6割強】

- 初めての献血した年齢は、「16~17歳」が29.3%、「18~19歳」が33.8%、「20~24歳」が32.1%で、ともに1/3程度を占めている。10代で初めて献血を経験した人の割合が全体の6割強を占める。
- 職業別で見ると、当然ではあるが高校生は「16~17歳」が86.7%と9割近くを占め大半。大学生・専門学校生は「18~19歳」が43.8%で最も多い。一方、会社員、公務員は「16~17歳」が他の層と比べて低く、「20~24歳」での献血経験が最も多い。
- 性別では、女性の「16~17歳」での経験率は31.6%で男性(27.0%)と比べて5ポイント高い。男性は「20~24歳」での経験率(34.3%)が女性(29.8%)に比べて5ポイント高く、男性に比べて女性の方が若いうちに献血を経験している傾向がみられる。
- 地域別では、東北で「16~17歳」での経験率(39.7%)が他の地域と比べて高い。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、全体では「16~17歳」での経験率が6ポイント低下している。一方、「18~19歳」「20~24歳」が若干上昇している。20年度調査と23年度調査では大きな変化はみられない。
- 職業別では、17年度調査と20年度調査を比べると、大学生・専門学校生、会社員、公務員、専業主婦で「16~17歳」が低下。20年度調査と23年度調査を比べると専業主婦で「16~17歳」が上昇しているが、その他の層に関しては大きな変化はみられない。
- 性別では、17年度調査と20年度調査を比べると、女性は「16~17歳」での経験率が低下し、「18~19歳」での経験率が上昇。23年度調査は、20年度調査と比べて大きな変化はみられない。
- 地域別では、北海道、関東甲信越、東海北陸、九州・沖縄で、上記女性の層と同様の傾向にある。

7. 初めての献血について



(1) 初めての献血した年齢 (Q16)

Q16. 初めての献血をしたのはいつですか。

性別	職業別	地域別	年代	初めての献血した年齢			
				16~17歳	18~19歳	20~24歳	25~29歳
全体	20年(5000)	20年(5000)	20年(5000)	29.3	33.8	32.1	4.8
高校生	20年(181)	20年(181)	20年(181)	86.7	6.7	6.7	0.0
大学生・専門学校生	20年(1453)	20年(1453)	20年(1453)	23.9	43.8	28.9	4.4
会社員	20年(2152)	20年(2152)	20年(2152)	21.5	38.2	38.2	2.1
公務員	20年(207)	20年(207)	20年(207)	22.2	38.6	38.6	10.1
自営業	20年(104)	20年(104)	20年(104)	31.1	31.1	31.1	5.2
専業主婦	20年(448)	20年(448)	20年(448)	34.9	34.9	26.5	6.0
その他	20年(453)	20年(453)	20年(453)	30.7	39.7	32.9	6.2
男性	20年(2556)	20年(2556)	20年(2556)	27.0	34.3	34.3	5.3
女性	20年(2444)	20年(2444)	20年(2444)	31.6	32.1	29.8	4.4
北海道	20年(210)	20年(210)	20年(210)	39.7	39.7	31.1	9.4
東北	20年(354)	20年(354)	20年(354)	39.0	39.0	24.5	3.9
関東甲信越	20年(1825)	20年(1825)	20年(1825)	32.9	31.9	28.6	5.6
東海北陸	20年(780)	20年(780)	20年(780)	27.0	36.0	31.0	3.8
近畿	20年(816)	20年(816)	20年(816)	25.7	35.7	37.1	5.4
中国・四国	20年(431)	20年(431)	20年(431)	26.9	32.7	35.2	4.2
九州・沖縄	20年(583)	20年(583)	20年(583)	21.4	41.5	32.4	4.4



(2)初めての献血した場所 (Q17)

【初めての献血した場所は献血ルームが3割強】

- 初めての献血した場所は、「献血ルーム」が33.2%で最も高く、3人中1人。次いで、「献血バス」が21.8%、「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」が21.2%で続く。
- 職業別では、高校生は「高校(での集団献血)」(28.9%)と「献血バス」(26.1%)が他の層と比べて高く、「献血ルーム」(32.8%)とそれぞれ1/3近くで分かれる。大学生・専門学校生は「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(30.2%)が他の層と比べて高く、「献血ルーム」(34.5%)について第2位の場所である。専業主婦では「献血ルーム」が42.6%で4割強を占め、他の層と比べて高い。
- 性別では、女性の「献血ルーム」(40.6%)での経験率が男性(26.0%)と比べて15ポイントと大きく上回っている。一方男性は「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(25.7%)での経験率が女性と比べて9ポイント上回っている。
- 地域別では、東北で「高校(での集団献血)」(24.1%)、近畿で「献血バス」(31.6%)が他の地域に比べて高い。

- 20年度調査と23年度調査を比べると、全体で大きな変化はみられない。
- 職業別では、20年度調査と比べると、高校生で「高校(での集団献血)」が9ポイント低下、自営業では「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」が9ポイント上昇し「献血ルーム」が8ポイント低下している。
- 性別では、20年度調査と比べると、大きな変化はみられない。
- 地域別では、20年度調査と比べると、北海道では「献血バス」での経験率が上昇し、「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」と「献血ルーム」が低下。東海北陸では「高校(での集団献血)」が20年度調査と比べて低下。また、九州・沖縄では「献血ルーム」が上昇している。



(2)初めての献血した場所 (Q17)

Q17. 初めての献血した場所はどこですか。

【基数:対象者全員】	(N)	献血した場所				献血ルーム(献血センター)	覚えていない
		高校	大学キャンパス又は専門学校・各種学校	献血バス	その他		
全体	23年 (5000)	15.9	21.2	33.2	29.7	33.2	1.7
	20年 (5000)	15.0	21.2	32.8	31.0	32.8	2.1
	17年 (5000)	22.0	18.2	32.6	27.2	32.6	6.4
高校生	23年 (180)	28.9	9.3	32.8	8.3	32.8	8.3
	20年 (181)	18.1	38.1	31.5	15.5	31.5	5.5
	17年 (87)	16.1	48.3	48.3	16.1	48.3	16.1
大学生・専門学校生	23年 (1491)	15.6	30.2	34.5	19.7	34.5	1.7
	20年 (1453)	20.0	30.0	32.4	17.6	32.4	1.7
	17年 (652)	21.3	21.3	37.4	19.9	37.4	1.7
会社員	23年 (2019)	15.1	25.9	31.1	27.9	31.1	1.7
	20年 (2152)	16.3	24.7	31.2	27.8	31.2	1.7
	17年 (2099)	21.6	21.6	31.5	25.3	31.5	1.7
公務員	23年 (207)	13.1	14.2	30.2	22.5	30.2	1.7
	20年 (207)	17.4	14.2	27.1	21.3	27.1	1.7
	17年 (203)	20.2	18.2	29.1	32.5	29.1	1.7
自営業	23年 (130)	12.3	16.9	28.9	42.9	28.9	6.7
	20年 (106)	13.8	13.8	36.8	35.6	36.8	5.7
	17年 (143)	18.2	2.8	33.6	35.5	33.6	3.5
専業主婦	23年 (449)	15.3	10.0	42.6	32.1	42.6	3.4
	20年 (448)	11.6	12.0	40.4	35.9	40.4	3.5
	17年 (1067)	28.0	19.2	28.6	24.2	28.6	2.4
その他	23年 (510)	14.3	17.2	32.4	36.1	32.4	3.3
	20年 (453)	18.1	15.0	36.4	30.5	36.4	0.1
	17年 (749)	19.4	2.0	36.0	32.6	36.0	3.2
性別	23年 (2517)	16.3	16.0	29.0	38.9	29.0	3.9
	20年 (2556)	19.6	16.1	25.1	39.2	25.1	2.9
	17年 (1705)	20.7	6.0	27.2	46.1	27.2	3.6
女性	23年 (2287)	15.4	11.5	40.6	32.5	40.6	3.2
	20年 (2444)	16.4	10.4	40.9	32.3	40.9	1.3
	17年 (3295)	23.0	4.7	35.4	56.9	35.4	1.3
北海道	23年 (209)	13.1	14.3	35.0	37.6	35.0	3.9
	20年 (210)	12.8	11.7	40.0	35.5	40.0	1.7
	17年 (200)	10.0	5.0	43.0	42.0	43.0	3.0
東北	23年 (353)	24.1	13.3	30.3	32.3	30.3	3.3
	20年 (355)	27.6	13.3	32.4	26.7	32.4	1.7
	17年 (350)	32.2	13.4	27.7	26.7	32.2	1.7
関東甲信越	23年 (1825)	15.5	20.2	35.4	38.9	35.4	2.4
	20年 (1825)	19.2	18.7	37.4	34.7	37.4	2.4
	17年 (1860)	22.7	14.0	38.0	25.3	38.0	2.4
東海北陸	23年 (789)	13.5	17.0	34.6	34.9	34.6	2.9
	20年 (780)	20.5	14.7	31.5	33.3	31.5	1.9
	17年 (750)	23.5	5.5	28.1	42.5	28.1	3.2
近畿	23年 (816)	10.7	14.7	27.5	47.1	27.5	3.2
	20年 (850)	13.5	14.5	27.5	44.5	27.5	2.7
	17年 (850)	18.5	5.4	27.9	48.2	27.9	2.7
中国・四国	23年 (431)	14.6	14.1	28.3	43.0	28.3	2.6
	20年 (431)	18.2	6.0	27.8	48.0	27.8	1.9
	17年 (450)	20.0	9.1	26.9	44.0	26.9	2.0
九州・沖縄	23年 (543)	12.0	17.5	36.5	43.8	36.5	2.9
	20年 (583)	14.9	6.0	29.2	53.9	29.2	2.4
	17年 (600)	27.7	5.0	35.7	51.6	35.7	1.7

注: 17年は「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」の回答なし。



(3)初めての献血の種類 (Q18)

【初めての献血の種類は「200ml献血」が半数】

- 初めての献血は「200ml献血」での経験率が47.4%と半数を占める。「400ml献血」は30.9%、「成分献血」は5.7%であった。
- 職業別では、「200ml献血」は高校生(62.2%)と専業主婦(60.8%)でそれぞれ6割強を占めており高い。
- 性別では、男性は「200ml献血」(35.9%)より「400ml献血」(41.1%)での経験率が高い。対して女性は「200ml献血」が59.1%で6割強を占めており高い。
- 地域別では、九州・沖縄で「400ml献血」が40.8%を占め、「200ml献血」(37.7%)での経験率よりも高くなっている。

- 過去2回調査と比べると、全体の「400ml献血」での経験率が上昇傾向で、対して「200ml献血」が低下傾向である。
- 職業別では、過去2回調査と比べると、公務員以外の層で概ね「400ml献血」が上昇傾向で、「200ml献血」が低下傾向。公務員では17年度調査と20年度調査を比べると「400ml献血」が11ポイント上昇したが、23年度調査では8ポイント低下した。
- 性別・地域別でも、過去2回調査と比べると、各層で「200ml献血」が低下傾向、「400ml献血」が上昇傾向にある。



(3)初めての献血の種類 (Q18)

Q18. 初めての献血の種類は何ですか。

【基数:対象者全員】	(N)	献血の種類			覚えていない
		200ml献血	400ml献血	成分献血	
全体	23年 (5000)	47.4	30.9	5.7	16.0
	20年 (5000)	51.6	27.3	5.7	13.8
	17年 (5000)	62.3	21.1	5.5	11.2
高校生	23年 (180)	62.2	31.1	30.6	30.6
	20年 (181)	69.6	30.8	24.9	30.6
	17年 (87)	71.3	27.1	23.0	23.0
大学生・専門学校生	23年 (1453)	44.3	33.3	5.3	14.7
	20年 (1453)	52.0	30.0	5.1	14.3
	17年 (652)	58.9	25.9	5.9	14.9
会社員	23年 (2019)	47.3	30.9	5.9	14.9
	20年 (2152)	48.2	28.2	5.3	13.2
	17年 (2099)	59.8	25.8	5.5	11.5
公務員	23年 (207)	45.3	30.3	8.0	11.1
	20年 (207)	41.5	30.5	6.3	8.7
	17年 (203)	57.6	25.6	6.9	10.0
自営業	23年 (130)	39.3	36.7	6.7	23.7
	20年 (106)	42.5	31.8	21.7	21.7
	17年 (143)	52.4	25.4	5.8	18.6
専業主婦	23年 (449)	60.8	35.2	5.2	18.7
	20年 (448)	67.0	27.0	5.6	14.5
	17年 (1067)	72.8	24.8	4.9	14.0
その他	23年 (510)	33.2	36.8	6.8	17.1
	20年 (453)	30.0	36.6	5.6	17.4
	17年 (749)	39.5	27.1	7.1	16.4
性別	23年 (2517)	35.9	41.1	4.1	19.0
	20年 (2556)	33.5	47.7	4.7	16.2
	17年 (1705)	45.3	37.3	4.7	15.8
女性	23年 (2287)	59.1	37.3	7.3	13.0
	20年 (2444)	64.2	30.2	6.3	11.3
	17年 (3295)	71.1	25.9	5.9	12.0
北海道	23年 (209)	48.5	34.4	4.4	16.5
	20年 (210)	54.8	28.5	5.7	13.9
	17年 (200)	65.5	25.5	5.9	12.5
東北	23年 (353)	56.7	28.7	4.5	14.4
	20年 (355)	60.6	26.6	5.6	12.4
	17年 (350)	69.4	23.4	6.4	9.7
関東甲信越	23年 (1825)	50.5	29.9	4.4	16.9
	20年 (1825)	51.9	29.9	5.6	12.9
	17年 (1860)	59.9	25.9	5.2	14.9
東海北陸	23年 (789)	48.3	31.3	7.3	15.6
	20年 (780)	53.7	28.7	6.7	14.4
	17年 (750)	64.3	25.3	5.3	15.7
近畿	23年 (816)	45.0	32.0	5.1	12.2
	20年 (850)	53.4	27.0	4.8	14.8
	17年 (850)	61.8	26.8	5.1	12.9
中国・四国	23年 (431)	42.2	35.2	7.2	14.8
	20年 (431)	48.5	31.5	7.0	13.2
	17年 (450)	66.0	26.0	6.7	9.8
九州・沖縄	23年 (543)	37.7	40.8	7.5	13.9
	20年 (583)	40.8	37.0	8.7	15.4
	17年 (600)	60.3	27.3	8.3	10.2



(4)初めての献血で400ml献血することへの不安意識 (Q19)

【初めての献血で400ml献血することに不安を感じない人は半数】

- 初めての献血で400ml献血することに対して不安を感じるかをたずねたところ、「特に不安は感じない」人が49.9%で半数を占める。一方、「不安」な人は39.4%で4割弱。
- 職業別では、専業主婦では「不安」(48.9%)が半数を占めており他の層と比べて高く、「特に不安は感じない」(39.4%)を10ポイント上回っている。
- 性別では、女性の「不安」と感じる割合(45.1%)が男性(33.7%)と比べて11ポイント上回っており高い。
- 地域別では、九州・沖縄で「特に不安は感じない」の割合(57.6%)が他の地域と比べて高い。また東北では「不安」と感じる割合(45.3%)が他の地域と比べて高い。

➢ 20年度調査と比べると、全体では「特に不安は感じない」人の割合が低下し、「不安」を感じる人の割合が上昇している。職業別・性別・地域別でみても各層で同様の傾向にある。特に公務員と高校生で顕著である。

<参考:不安に思う理由>

【初めての献血で400ml献血することが不安な人】

不安に思う理由 (記載が多かったもの)	
貧血になりそう	
体調が悪くなりそう/倒れそう/フラフラになりそう	
量が多いから	
一度採血で体調不良になったから	
体調にどのような変化が起こるかわからないから	
ペットボトル約1本分に相当すると考えると不安	
怖い	
体が弱いから/普段から貧血気味だから	
痛めているから/小柄だから/適合体重がぎりぎり心配	
初めてだから	

8. 献血回数について



(1)過去1年間の200ml献血回数 (Q20-1)

【過去1年間で200ml献血をした人は4割強】

- 過去1年間で200ml献血をした経験のある人は41.1%。献血した回数では「1回」が24.6%。2回以上経験のある人は16.5%であった。
- 職業別では、高校生での経験率が85.6%で9割弱を占め、他の層と比べて圧倒的に高い。しかし、そのうちの6割強が「1回」である。次いで、大学生・専門学校生の経験率(45.0%)が高く半数近くにのぼる。
- 性別では、女性の経験率(46.3%)が男性の経験率(36.0%)を10ポイント上回り高い。
- 地域別では、中国・四国(35.7%)と九州・沖縄(32.6%)の経験率が他の地域と比べて低い。

➢ 17年度調査と20年度調査を比べると全体の経験率は6ポイント上昇したが、23年度調査では低下し、17年度調査と大きく変わらない。

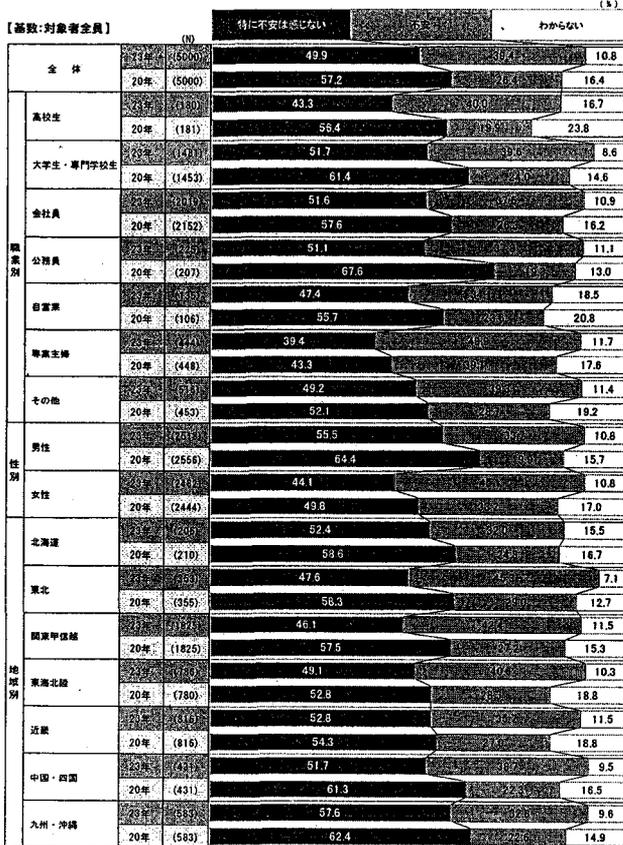
➢ 職業別では、17年度調査と20年度調査を比べると、高校生の経験率は9ポイント低下したが、23年度調査で若干ではあるが上昇した。高校生以外の層では、17年度調査と20年度調査を比べると経験率が上昇したが、23年度調査では低下に転じている傾向。性別・地域別でみても、各層で同様の傾向にある。



(4)初めての献血で400ml献血することへの不安意識 (Q19)

Q19. 初めての献血で400ml献血をすることをどう思いますか。
(不安と回答した人に対し)不安を減らした理由をお教えください。

【基数:対象者全員】



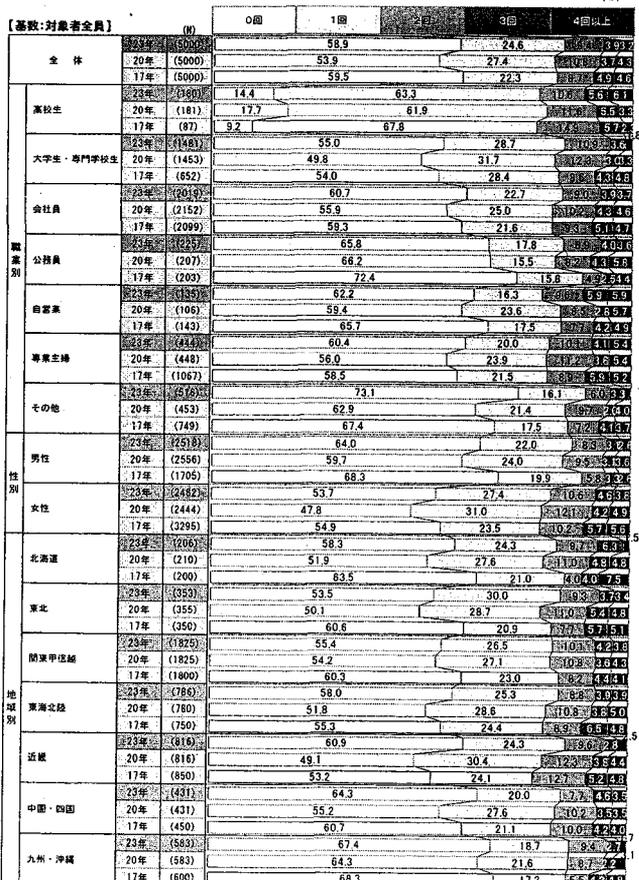
8. 献血回数について



(1)過去1年間の200ml献血回数 (Q20-1)

Q20. 過去1年間に何回献血しましたか。(1) 200ml献血

【基数:対象者全員】



8. 献血回数について

【経験者編】



(2) 過去1年間の400ml献血回数 (Q20-2)

【過去1年間で400ml献血をした人は4割弱】

- 過去1年間で400ml献血の経験がある人は36.6%。献血した回数では「1回」が23.7%。2回以上経験がある人は13.0%であった。
- 職業別では、大学生・専門学校生の経験率が44.6%、公務員が40.9%と他の層に比べて高い。一方、高校生と専業主婦の経験率は2割弱にとどまり他の層と比べて低い。
- 性別では、男性の経験率(46.1%)が女性の経験率(27.0%)を19ポイント上回り高く、200ml献血とは逆の結果となっている。
- 地域別では、九州・沖縄の経験率が42.5%で他の地域と比べて高い。

- 17年度調査と20年度調査を比べると、全体の経験率は11ポイント上昇し、23年度調査は20年度調査とほぼ横並びの結果である。
- 職業別では、17年度調査と20年度調査を比べると、高校生と専業主婦では大きな変化はみられなかったが、その他の層では経験率が上昇した。20年度調査と23年度調査を比べると、公務員の経験率が低下しているが、その他の層は20年度調査と大きな変化はみられない。
- 性別・地域別では、17年度調査と20年度調査を比べると、各層で経験率が上昇したが、20年度調査と23年度調査では大きな変化はみられない。

8. 献血回数について

【経験者編】



(2) 過去1年間の400ml献血回数 (Q20-2)

Q20. 過去1年間に何回献血しましたか。(2) 400ml献血

【基数:対象者全員】		(n)	0回	1回	2回	3回	(%)
全体	23年	(5000)	64.4	27.7	8.0	1.0	10.0
	20年	(5000)	62.3	22.1	11.6	3.0	10.0
	17年	(5000)	73.8	16.6	7.6	1.0	10.0
高校生	23年	(140)	82.8	15.0	1.0	0.2	10.0
	20年	(181)	85.1	11.6	1.0	0.3	10.0
	17年	(87)	87.4	8.0	2.0	0.3	10.0
大学生・専門学校生	23年	(1453)	59.4	29.0	11.0	0.6	10.0
	20年	(1453)	55.9	27.7	11.6	0.8	10.0
	17年	(652)	64.0	21.5	11.6	0.7	10.0
会社員	23年	(2019)	62.9	23.3	11.6	0.7	10.0
	20年	(2152)	59.2	22.4	11.6	0.8	10.0
	17年	(2098)	70.0	18.9	7.3	0.7	10.0
公務員	23年	(225)	59.1	23.6	11.6	0.6	10.0
	20年	(207)	54.1	20.8	15.5	0.6	10.0
	17年	(203)	58.6	21.7	11.6	0.9	10.0
自営業	23年	(136)	64.4	22.2	11.6	0.4	10.0
	20年	(106)	65.1	17.0	11.6	0.4	10.0
	17年	(143)	75.5	15.4	7.0	0.9	10.0
専業主婦	23年	(444)	80.2	13.7	1.0	0.1	10.0
	20年	(448)	82.6	11.4	1.0	0.1	10.0
	17年	(1067)	83.4	11.9	1.0	0.1	10.0
その他	23年	(517)	68.4	21.5	10.0	0.1	10.0
	20年	(453)	71.5	18.8	10.0	0.1	10.0
	17年	(749)	90.2	12.6	11.6	0.1	10.0
性別	23年	(2519)	59.8	28.0	11.6	0.6	10.0
	20年	(2556)	62.1	25.9	11.6	0.6	10.0
	17年	(1705)	60.8	22.5	11.6	0.9	10.0
女性	23年	(1422)	73.0	18.2	8.0	0.8	10.0
	20年	(2444)	73.0	18.0	8.0	0.8	10.0
	17年	(3295)	80.3	10.6	10.0	0.1	10.0
北海道	23年	(206)	60.2	27.2	11.6	0.0	10.0
	20年	(210)	61.0	23.3	11.6	0.1	10.0
	17年	(200)	73.5	16.5	10.0	0.0	10.0
東北	23年	(337)	65.9	20.4	11.6	0.0	10.0
	20年	(355)	63.9	19.7	11.6	0.0	10.0
	17年	(350)	74.6	17.7	11.6	0.0	10.0
関東甲信越	23年	(1225)	64.2	22.7	11.6	0.4	10.0
	20年	(1825)	62.5	22.0	11.6	0.7	10.0
	17年	(1800)	73.2	17.2	11.6	0.2	10.0
東海北陸	23年	(765)	65.5	21.4	11.6	0.7	10.0
	20年	(780)	66.3	18.2	11.6	0.7	10.0
	17年	(750)	78.5	12.5	10.0	0.1	10.0
近畿	23年	(815)	62.5	23.8	11.6	0.7	10.0
	20年	(816)	62.3	23.3	11.6	0.8	10.0
	17年	(850)	72.4	18.4	11.6	0.4	10.0
中国・四国	23年	(453)	62.4	26.9	11.6	0.4	10.0
	20年	(431)	60.8	23.7	11.6	0.5	10.0
	17年	(450)	72.0	18.0	11.6	0.4	10.0
九州・沖縄	23年	(583)	57.5	27.8	11.6	0.1	10.0
	20年	(583)	58.3	25.6	11.6	0.1	10.0
	17年	(600)	71.2	17.5	11.6	0.2	10.0

8. 献血回数について

【経験者編】



(3) 過去1年間の成分献血回数 (Q20-3)

【過去1年間で成分献血をした人は3割弱】

- 過去1年間で成分献血の経験がある人は27.3%。献血した回数では「1回」が14.8%。2回以上経験のある人は12.5%であった。
- 職業別では、高校生の経験率が14.4%、専業主婦の経験率が21.4%で他の層と比べると経験率が低い。
- 性別による大きな差はみられない。
- 地域別では、北海道の経験率が21.4%で他の地域と比べて低い。

- 過去2回調査と比べると、全体での経験率は上昇傾向にある。ただし2回以上の複数回経験者の割合には大きな変化はみられず、「1回」経験している割合が上昇している。
- 職業別では、公務員のみ20年度調査と23年度調査を比べると経験率がやや低下しているが、その他の層では17年度調査から経験率は上昇傾向にある。
- 性別では、男女ともに17年度調査から経験率は上昇傾向にある。
- 地域別では、東北と中国・四国では20年度調査と23年度調査で大きな変化はみられないが、その他の地域では20年度調査と比べて経験率が上昇している。

8. 献血回数について

【経験者編】



(3) 過去1年間の成分献血回数 (Q20-3)

Q20. 過去1年間に何回献血しましたか。(3) 成分献血

【基数:対象者全員】		(n)	0回	1回	2回	3回	4回以上	(%)
全体	23年	(5000)	72.7	14.8	8.2	3.3	0.0	10.0
	20年	(5000)	77.9	11.0	6.0	5.0	0.0	10.0
	17年	(5000)	81.2	7.7	5.5	4.6	0.0	10.0
高校生	23年	(140)	85.6	11.1	1.0	0.1	0.0	10.0
	20年	(181)	83.9	8.2	1.0	0.1	0.0	10.0
	17年	(87)	92.0	6.7	1.0	0.1	0.0	10.0
大学生・専門学校生	23年	(1453)	68.3	18.3	11.6	0.8	0.0	10.0
	20年	(1453)	75.5	12.7	11.6	0.2	0.0	10.0
	17年	(652)	77.9	9.2	11.6	0.3	0.0	10.0
会社員	23年	(2019)	71.8	14.4	11.6	0.2	0.0	10.0
	20年	(2152)	76.4	11.8	11.6	0.2	0.0	10.0
	17年	(2098)	78.8	11.6	11.6	0.2	0.0	10.0
公務員	23年	(225)	75.1	12.9	11.6	0.2	0.0	10.0
	20年	(207)	71.0	11.1	11.6	0.3	0.0	10.0
	17年	(203)	73.9	9.3	11.6	0.2	0.0	10.0
自営業	23年	(136)	72.8	14.8	11.6	0.2	0.0	10.0
	20年	(106)	78.3	10.4	11.6	0.2	0.0	10.0
	17年	(143)	80.4	12.8	11.6	0.2	0.0	10.0
専業主婦	23年	(444)	78.8	12.8	11.6	0.2	0.0	10.0
	20年	(448)	83.7	6.5	11.6	0.2	0.0	10.0
	17年	(1067)	87.5	5.5	11.6	0.1	0.0	10.0
その他	23年	(517)	78.1	10.5	11.6	0.2	0.0	10.0
	20年	(453)	78.9	8.4	11.6	0.1	0.0	10.0
	17年	(749)	80.5	6.0	11.6	0.3	0.0	10.0
性別	23年	(2519)	72.5	15.2	11.6	0.4	0.0	10.0
	20年	(2556)	79.1	10.0	11.6	0.3	0.0	10.0
	17年	(1705)	82.0	8.9	11.6	0.5	0.0	10.0
女性	23年	(1422)	72.8	14.5	11.6	0.1	0.0	10.0
	20年	(2444)	78.5	12.5	11.6	0.1	0.0	10.0
	17年	(3295)	80.8	8.1	11.6	0.1	0.0	10.0
北海道	23年	(206)	78.8	9.2	11.6	0.4	0.0	10.0
	20年	(210)	86.2	6.6	11.6	0.0	0.0	10.0
	17年	(200)	87.0	7.0	11.6	0.0	0.0	10.0
東北	23年	(337)	76.5	12.7	11.6	0.2	0.0	10.0
	20年	(355)	77.7	12.1	11.6	0.3	0.0	10.0
	17年	(350)	81.1	7.1	11.6	0.3	0.0	10.0
関東甲信越	23年	(1225)	71.7	15.0	11.6	0.3	0.0	10.0
	20年	(1825)	77.6	10.9	11.6	0.3	0.0	10.0
	17年	(1800)	81.7	7.3	11.6	0.3	0.0	10.0
東海北陸	23年	(765)	72.9	13.9	11.6	0.3	0.0	10.0
	20年	(780)	77.7	10.5	11.6	0.2	0.0	10.0
	17年	(750)	77.7	8.5	11.6	0.2	0.0	10.0
近畿	23年	(815)	72.9	16.4	11.6	0.2	0.0	10.0
	20年	(816)	77.7	10.9	11.6	0.3	0.0	10.0
	17年	(850)	80.9	8.2	11.6	0.3	0.0	10.0
中国・四国	23年	(453)	73.8	14.8	11.6	0.2	0.0	10.0
	20年	(431)	75.9	12.5	11.6	0.2	0.0	10.0
	17年	(450)	81.3	7.1	11.6	0.3	0.0	10.0
九州・沖縄	23年	(583)	69.8	16.5	11.6	0.1	0.0	10.0
	20年	(583)	77.5	11.5	11.6	0.1	0.0	10.0
	17年	(600)	82.3	8.5	11.6	0.0	0.0	10.0



(4)今までの合計献血回数 (Q21)

【今までの合計献血回数は2回以上が3人中2人】

- 今までの合計献血回数は、「1回」が最も多く33.8%を占め、3人中1人、3人中2人(66.2%)が2回以上の複数回献血者であり、回数は「3~5回」が全体の26.4%を占める。
●職業別では、公務員で2回以上の複数回献血者の割合が76.9%にのぼり高い。特に「3~5回」の経験者が公務員全体の31.6%を占めており高い。対して高校生の複数回献血者は31.7%、大学生・専門学校生は60.9%で、学生の複数回献血者が他の層と比べて低い。
●性別・地域別では大きな差はみられない。
●今までの合計献血回数を、初めて献血した場所と家族の献血の有無で分析した。※図表を参照まず、初めて献血した場所別では、「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」や「職場」に比べて「高校」で初めて献血した層ほど献血頻度が高い傾向。高校で初めて献血した層では、3回以上の献血者が半数を占める。また家族の献血の有無では、家族の献血現場を見たことがある層ほど本人の献血頻度が高まっており、両者の相関がみられる。

- > 17年度調査と20年度調査を比べると、全体での献血頻度は低下し、複数回献血者の割合が6ポイント低下した。20年度調査と23年度調査では大きな変化はみられない。
> 職業別では、過去2回調査と比べると、高校生の複数回献血者の割合は低下傾向にある。また自営業は20年度調査と比べると「3~5回」の割合が低下し、「2回」の割合が上昇している。
> 性別では、男女ともに17年度調査と20年度調査を比べると献血回数が低下し、23年度調査は20年度調査から大きな変化はみられない。
> 地域別では、北海道で20年度調査と23年度調査を比べると、3回以上の献血者の割合が上昇している。

<関連質問の回答別>

Table showing献血回数 by category (Overall, School, Workplace, etc.) and frequency (1st, 2nd, 3-5, 6-10, 11-20, 21-30, 31+).



(1)初めての献血のきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q22)

【初めての献血のきっかけの1位は「自分の血液を役立てたい」が3割弱】

- 初めての献血のきっかけを大きい順に3つまで選んでもらったところ、1位に挙がった要因では、「自分の血液が役に立てほしいから」が29.0%で3割弱。その他はそれぞれ割以下で、「大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから」(9.6%)、「家族や友人などに勧められたから」(9.4%)、「高校に献血バス・出張献血が来たから」(8.0%)が続く。
●職業別では、各層とも「自分の血液が役に立てほしいから」が主要なきっかけである。公務員では他の層と比べて「なんとなく」(19.6%)が高い。
●性別では、男性で「なんとなく」(16.9%)献血をする割合が女性(11.3%)に比べて高い。
●地域別では、「大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから」が北海道(13.6%)、中国・四国(13.5%)、九州・沖縄(12.5%)で他の地域と比べて高い。

- > 過去2回調査と比べると、全体での「自分の血液が役に立てほしいから」が低下している。職業別・性別・地域別でも、各層で同様に低下している。
> 職業別では、高校生と専業主婦は「家族や友人などに勧められたから」が上昇、公務員と自営業では「なんとなく」が上昇している。
> 地域別では、北海道と中国・四国で「大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから」が上昇している。



(4)今までの合計献血回数 (Q21)

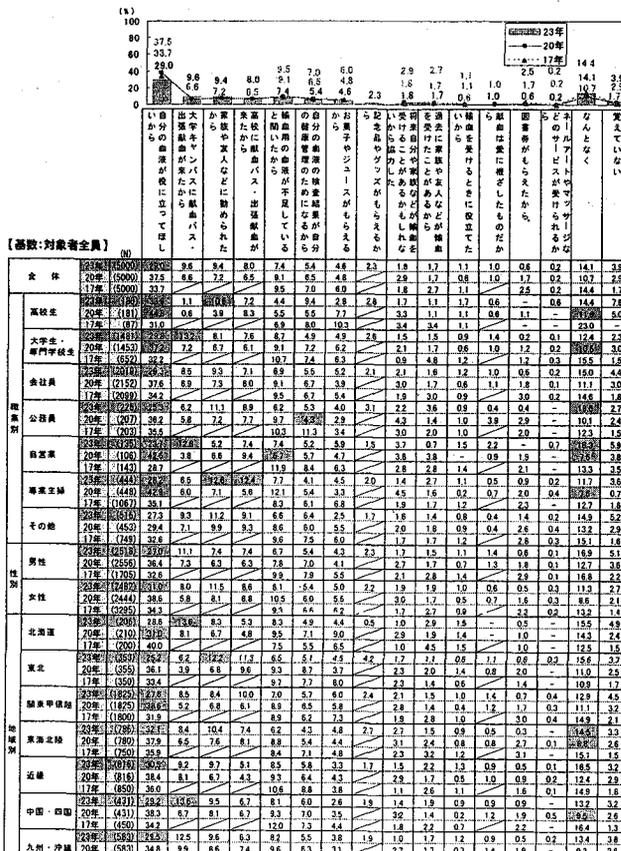
Q21. 今までの献血回数は合計で何回ですか。

Large table showing献血回数 by category (Overall, Gender, Region, etc.) and frequency (1st, 2nd, 3-10, 11-20, 21-30, 31+).



(1)初めての献血のきっかけ「1位<最も大きな要因>」(Q22)

Q22. 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。
きっかけの大きい順に3つまでお選びください。(それぞれひとつずつ)



注：17年は「献血は楽しかったから」「家族や友人などに勧められたから」「高校に献血バス・出張献血が来たから」「大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから」の回答なし。20年は「高校での奨励活動、または友人に勧められたから」と判別。17年、20年は「献血バス・出張献血が来たから」の回答なし。